

# 投資信託に関するアンケート調査 報告書

2019年3月

# <目 次>

1. 調査計画の概要	3
2. 調査結果の要約	6
3. 回答者のプロフィール	17
(1)性別・年代〔Q28〕〔Q29〕	18
(2)職業〔Q30〕	20
(3)金融資産の保有経験〔Q1〕	22
(4)投資信託の保有状況〔Q2〕	23
(5)世帯年収〔Q31①〕	25
(6)個人年収〔Q31②〕	27
(7)保有金融資産額〔Q32〕	28
4. 投資信託保有状況（現在保有層）	30
(1)投資信託の保有種類〔Q5〕	31
(2)投資信託の購入額〔Q6〕	32
(3)現在保有している投資信託の本数〔Q3〕	33
(4)投資信託商品の直近購入時期〔Q4〕	34
(5)投資信託の積立投資の利用状況〔Q17〕	35
(6)毎月分配型投資信託の保有状況〔Q20〕	37
(7)トータルリターン通知制度の認知状況〔Q24〕	41

# <目 次>

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）	42
(1)投資信託の興味・関心・購入のきっかけ〔Q8〕	43
(2)投資信託購入時参考情報〔Q9〕	45
(3)投資信託購入の際の重視点／今後の重視点〔Q7①②〕	47
(4)分配金の特徴認知状況〔Q11〕	51
(5)償還・売却資金の流出先〔Q12〕	53
(6)投資信託の優れていると感じる点／特に魅力を感じる点〔Q13①②〕	55
(7)投資信託で不満を感じる点／特に不満を感じる点〔Q14①②〕	59
6. 投資信託保有未経験者の状況	63
(1)投資信託の非購入理由〔Q26〕	64
(2)投資信託購入検討のきっかけ〔Q27〕	66
7. 投資信託全般に関する状況（全体）	68
(1)投資信託の商品特徴認知状況〔Q10〕	69
(2)毎月分配型投資信託への魅力有無〔Q21〕	72
(3)毎月分配型投資信託商品の魅力点〔Q22〕	74
(4)毎月分配型投資信託商品の非魅力点〔Q23〕	76
(5)積立投資プランの内容認知〔Q18〕	78
(6)ドル・コスト平均法の内容認知〔Q19〕	79
(7)投資信託運用会社に対する考え〔Q15〕	81
(8)投資信託購入の際の、運用会社の重視点〔Q16〕	82
(9)投資信託の手数料特徴認知状況〔Q25〕	83

\* 末尾添付資料 : 調査票

# 1. 調査計画の概要



# 1. 調査計画の概要

調査の目的	<p>全国の20歳～79歳の男女個人を対象に、投資信託の保有状況や特徴認知、満足度、積立投資の認知などを把握すると同時に、投資信託保有未経験層に対しては、非購入理由や購入検討のきっかけを確認することで、「貯蓄から資産形成へ」の流れを促進するための課題を探り、今後の投資信託の利用拡大及び啓発普及活動に役立つ資料とすること。</p>																																																																																													
調査手法	<p>インターネット調査（抽出フレーム：インテージネットモニター）          ※ インターネット調査のモニターは、一般的に情報感度が高い事が確認されており、金融商品（投資信託）においては保有率や制度認知が郵送調査モニターなどに比べて高めに出る傾向にあります。</p>																																																																																													
調査地域	全国（首都圏、阪神圏、その他地域の3ブロック）																																																																																													
調査対象	20～79歳の男女																																																																																													
サンプル数	<p>総計20,000サンプル</p> <p>* 性・年代・エリアで割付実施（割付は平成29年1月1日現在の住民基本台帳に基づく）。          * 職業条件による除外は実施していない。</p> <p>&lt;性・年代・エリアごとの回収数詳細&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>20-29歳</th> <th>30-39歳</th> <th>40-49歳</th> <th>50-59歳</th> <th>60-69歳</th> <th>70-79歳</th> <th>20-79歳計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">男性</td> <td>首都圏</td> <td>436</td> <td>536</td> <td>654</td> <td>480</td> <td>481</td> <td>362</td> <td><b>2,949</b></td> </tr> <tr> <td>阪神圏</td> <td>200</td> <td>230</td> <td>298</td> <td>225</td> <td>257</td> <td>198</td> <td><b>1,408</b></td> </tr> <tr> <td>その他地域</td> <td>756</td> <td>913</td> <td>1,095</td> <td>918</td> <td>1,128</td> <td>762</td> <td><b>5,572</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">男性計</td> <td>1,392</td> <td>1,679</td> <td>2,047</td> <td>1,623</td> <td>1,866</td> <td>1,322</td> <td><b>9,929</b></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">女性</td> <td>首都圏</td> <td>412</td> <td>504</td> <td>614</td> <td>450</td> <td>493</td> <td>420</td> <td><b>2,893</b></td> </tr> <tr> <td>阪神圏</td> <td>198</td> <td>234</td> <td>303</td> <td>233</td> <td>279</td> <td>240</td> <td><b>1,487</b></td> </tr> <tr> <td>その他地域</td> <td>710</td> <td>878</td> <td>1,072</td> <td>933</td> <td>1,180</td> <td>918</td> <td><b>5,691</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">女性計</td> <td>1,320</td> <td>1,616</td> <td>1,989</td> <td>1,616</td> <td>1,952</td> <td>1,578</td> <td><b>10,071</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2"><b>TOTAL</b></td> <td><b>2,712</b></td> <td><b>3,295</b></td> <td><b>4,036</b></td> <td><b>3,239</b></td> <td><b>3,818</b></td> <td><b>2,900</b></td> <td><b>20,000</b></td> </tr> </tbody> </table> <p>※ エリアの定義とエリア計での回収数は以下の通り。          首都圏： 東京、神奈川、埼玉、千葉／計5,842サンプル          阪神圏： 大阪、京都、兵庫、奈良／計2,895サンプル          その他地域： 上記以外の都道府県／計11,263サンプル</p>										20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	20-79歳計	男性	首都圏	436	536	654	480	481	362	<b>2,949</b>	阪神圏	200	230	298	225	257	198	<b>1,408</b>	その他地域	756	913	1,095	918	1,128	762	<b>5,572</b>	男性計		1,392	1,679	2,047	1,623	1,866	1,322	<b>9,929</b>	女性	首都圏	412	504	614	450	493	420	<b>2,893</b>	阪神圏	198	234	303	233	279	240	<b>1,487</b>	その他地域	710	878	1,072	933	1,180	918	<b>5,691</b>	女性計		1,320	1,616	1,989	1,616	1,952	1,578	<b>10,071</b>	<b>TOTAL</b>		<b>2,712</b>	<b>3,295</b>	<b>4,036</b>	<b>3,239</b>	<b>3,818</b>	<b>2,900</b>	<b>20,000</b>
		20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	20-79歳計																																																																																						
男性	首都圏	436	536	654	480	481	362	<b>2,949</b>																																																																																						
	阪神圏	200	230	298	225	257	198	<b>1,408</b>																																																																																						
	その他地域	756	913	1,095	918	1,128	762	<b>5,572</b>																																																																																						
男性計		1,392	1,679	2,047	1,623	1,866	1,322	<b>9,929</b>																																																																																						
女性	首都圏	412	504	614	450	493	420	<b>2,893</b>																																																																																						
	阪神圏	198	234	303	233	279	240	<b>1,487</b>																																																																																						
	その他地域	710	878	1,072	933	1,180	918	<b>5,691</b>																																																																																						
女性計		1,320	1,616	1,989	1,616	1,952	1,578	<b>10,071</b>																																																																																						
<b>TOTAL</b>		<b>2,712</b>	<b>3,295</b>	<b>4,036</b>	<b>3,239</b>	<b>3,818</b>	<b>2,900</b>	<b>20,000</b>																																																																																						
調査時期	2018年12月7日（金）～ 12月14日（金）																																																																																													
調査主体	一般社団法人 投資信託協会																																																																																													
調査実施機関	株式会社インテージ																																																																																													

# 1. 調査計画の概要

## <分析軸の内容>

分析軸		カテゴリー	備考
基本軸1	性別	1 男性	Q28の調査結果から作成
		2 女性	
	年代別	1 20代	Q29の調査結果から作成
		2 30代	
		3 40代	
		4 50代	
		5 60代	
		6 70代	
	世帯年収別	1 100万円未満	Q31①の調査結果から作成
		2 ~300万円	
3 ~500万円			
4 ~1000万円			
5 ~1000万円以上			
基本軸2	投資信託 保有状況別	1 現在保有層	Q2で投資信託を「1.現在保有している」回答者
		2 保有経験層（現在非保有）	Q2で投資信託を「2.以前保有していたが、現在は保有していない」回答者
		3 保有未経験層（金融資産保有経験有）	Q2で投資信託を「3.今まで保有したことはない」且つQ1で金融資産を「1.保有したことがある」回答者
		4 保有未経験層（金融資産保有経験無）	Q2で投資信託を「3.今まで保有したことはない」且つQ1で金融資産を「2.保有したことはない」回答者
投資信託 現在保有種類別	1 株式投資信託保有層	Q5現在保有投資信託商品で「1.国内株式に投資する投資信託」か「3.外国株式に投資する投資信託」の回答者	
	2 その他投資信託保有層	Q5現在保有投資信託商品で「2.国内債券に投資する投資信託」、「4.外国債券（国債、ハイールド債等）に投資する投資信託」から「9.不動産投信〔J-REIT〕」までのいずれかの回答者  ※但し、上記の「株式投資信託保有層」は除く	

## 2. 調査結果の要約



## 2. 調査結果の要約

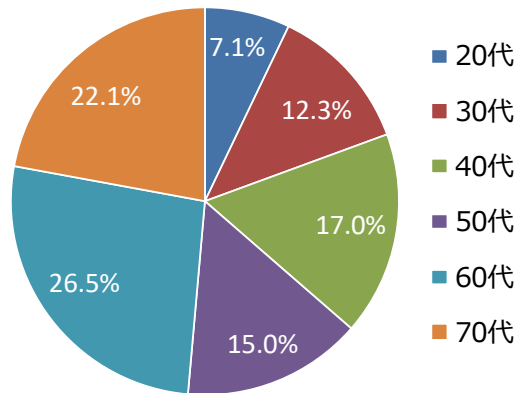
### 投資信託の保有経験／投資信託現在保有層の「保有種類」

- 投資信託の現在保有率は前回同様15%程度に留まる。  
現在保有層は60代以上が約半数と、高齢層が中心。

＜投資信託の保有経験＞【ベース：TOTAL】(P.18)

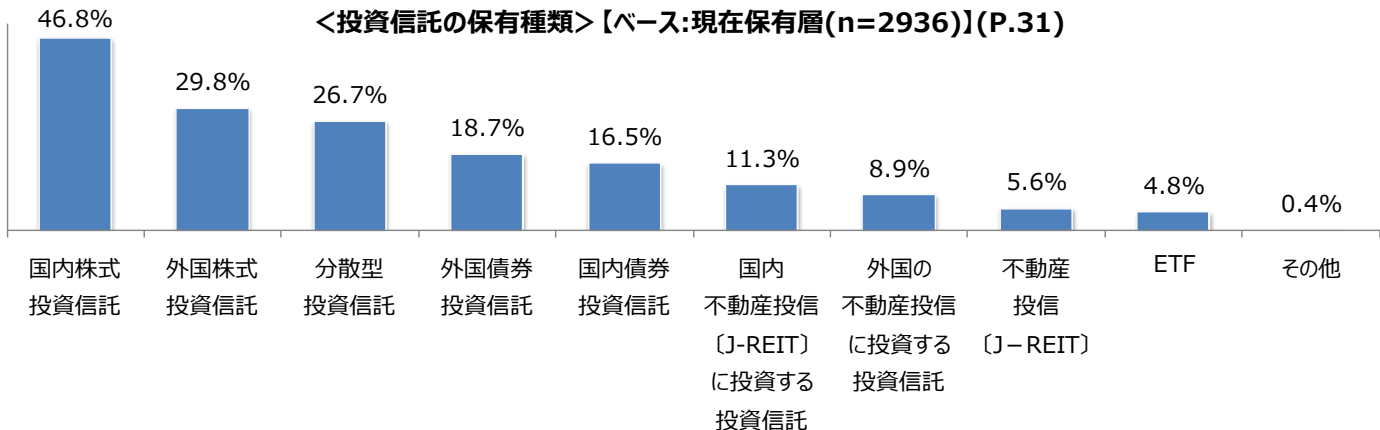
n=	保有経験層				保有未経験層 (金融資産保有経験無)	保有未経験層 (金融資産保有経験有)	%
	現在保有層	保有経験層 (現在非保有)	保有未経験層 (金融資産保有経験有)	保有未経験層 (金融資産保有経験無)			
2018年 (20000)	14.7	8.3	12.9	64.1			
2017年 (20000)	15.6	8.0	12.1	64.3			
2016年 (20000)	16.0	8.6	11.9	63.6			

＜投資信託現在保有層の年代構成＞【ベース：現在保有層(n=2936)】(P.18)



- 現在保有層が保有している投信の種類は「国内株式投信」が最多。  
保有種類数は平均で「2.01種類」となる。

＜投資信託の保有種類＞【ベース：現在保有層(n=2936)】(P.31)





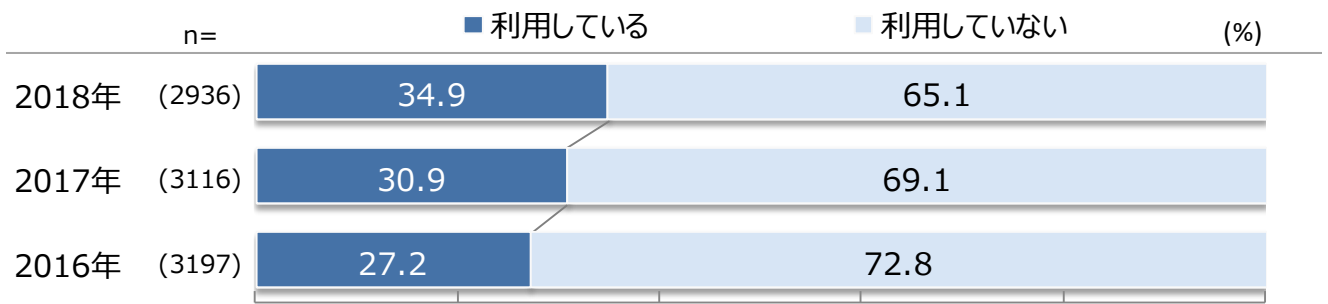
## 2. 調査結果の要約

### 投資信託現在保有層の「積立投資」利用状況、「毎月分配型投資信託」の保有状況／「トータルリターン通知制度」の認知状況

- 積立投資の利用は前回よりやや増加し、約35%となる。  
毎月分配型投資信託は前回より減少するものの、4割が保有している。  
トータルリターンの認知度は、前年より減少し、30%弱となる。

・ 積立投資は若年層ほど利用が多く、20代では約65%が利用している。一方毎月分配型商品は高齢層ほど利用が多く、70代では約半数が保有している。〔P35,37〕

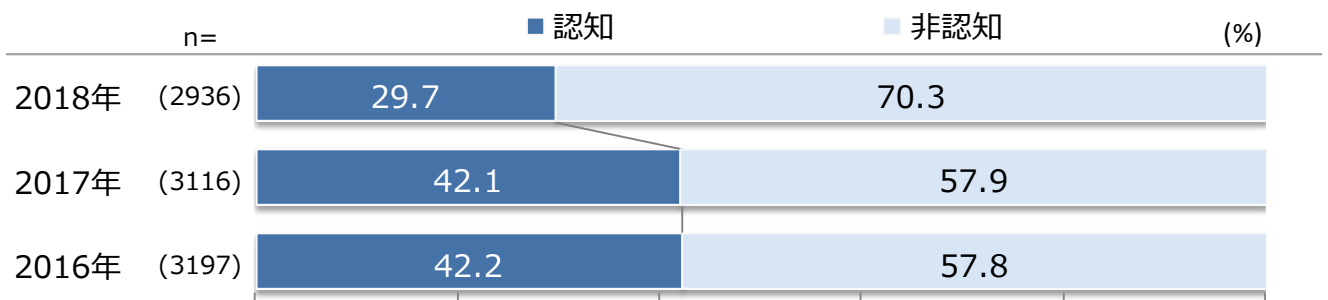
＜積立投資の利用有無＞【ベース:現在保有層】(P.35)



＜毎月分配型投資信託の保有状況＞【ベース：現在投資信託保有層】(P.37)



＜トータルリターンの認知＞【ベース:現在保有層】(P.41)

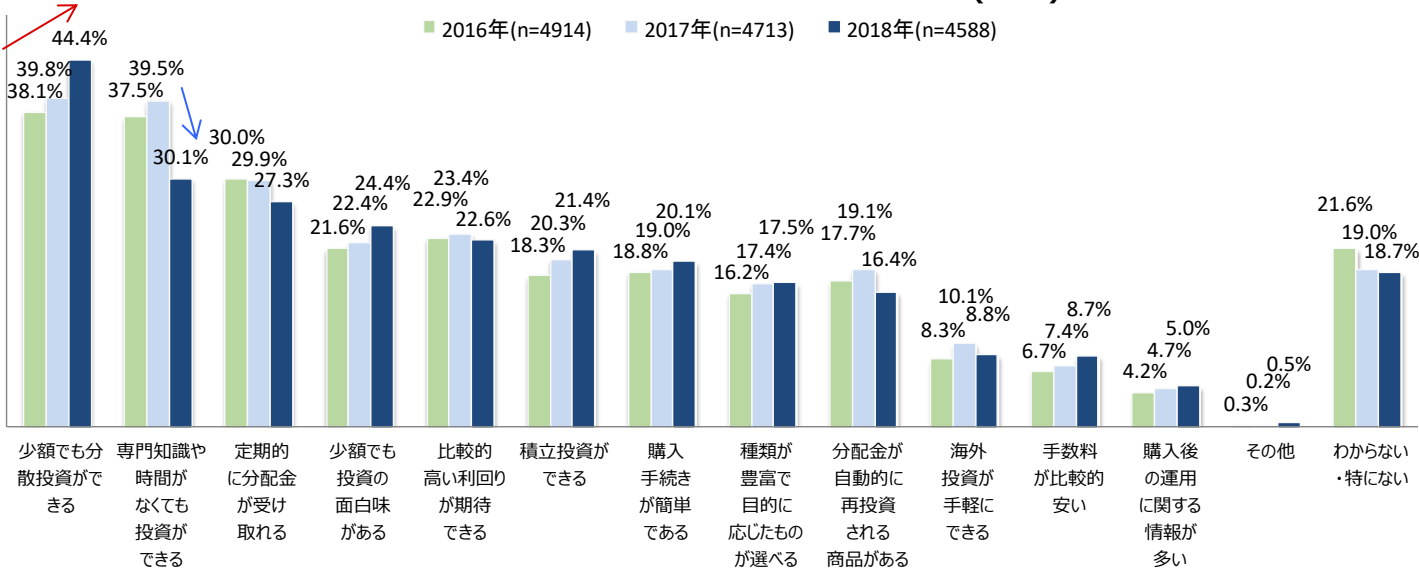


## 2. 調査結果の要約

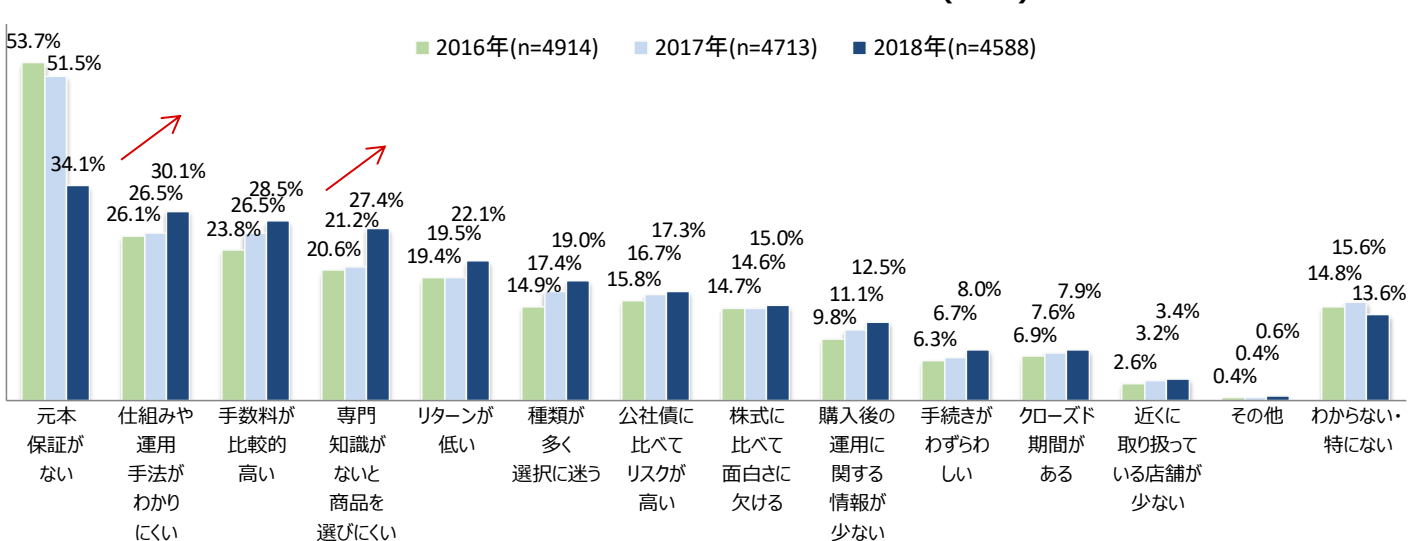
### 他の金融商品に比べて投資信託商品の「優れている点、不満点」

- 投資信託の優れている点／不満点は上位項目に変動はなく、「少額でも分散投資できる」「専門知識や時間がなくても投資できる」「定期的に分配金が受け取れる」ことがメリットとなる一方、「元本保証がないこと」「仕組み・運用手法のわかりかさ」「手数料の高さ」への不満が強い。
- 前回からの変動をみると、優れている点は「少額でも分散投資できる」が増加し、「専門知識や時間がなくても投資できる」が減少。不満点は「仕組み・運用手法のわかりにくさ」「専門知識がないと選びにくい」が僅かに増加。
- ・ 優れている点では、若年層ほど「少額でも分散投資できる」「少額でも投資の面白味がある」「積立投資ができる」「手数料が比較的安い」が高く、高齢層ほど「定期的に分配金が受け取れる」が高くなる。〔P55〕

＜他の金融商品と比べ、投信の優れている点＞【ベース:現在保有層・保有経験層】(P.55) ※2018年で降順ソート



＜他の金融商品と比べ、投信の不満点＞【ベース:現在保有層・保有経験層】(P.59) ※2018年で降順ソート



## 2. 調査結果の要約

### 投資信託の購入時重視点、今後購入時重視点

■ 投資信託の購入時重視点は、これまでは「値上がりへの期待」が最も高く、今後は「値下がりへの不安が少ない」が最も高くなる。

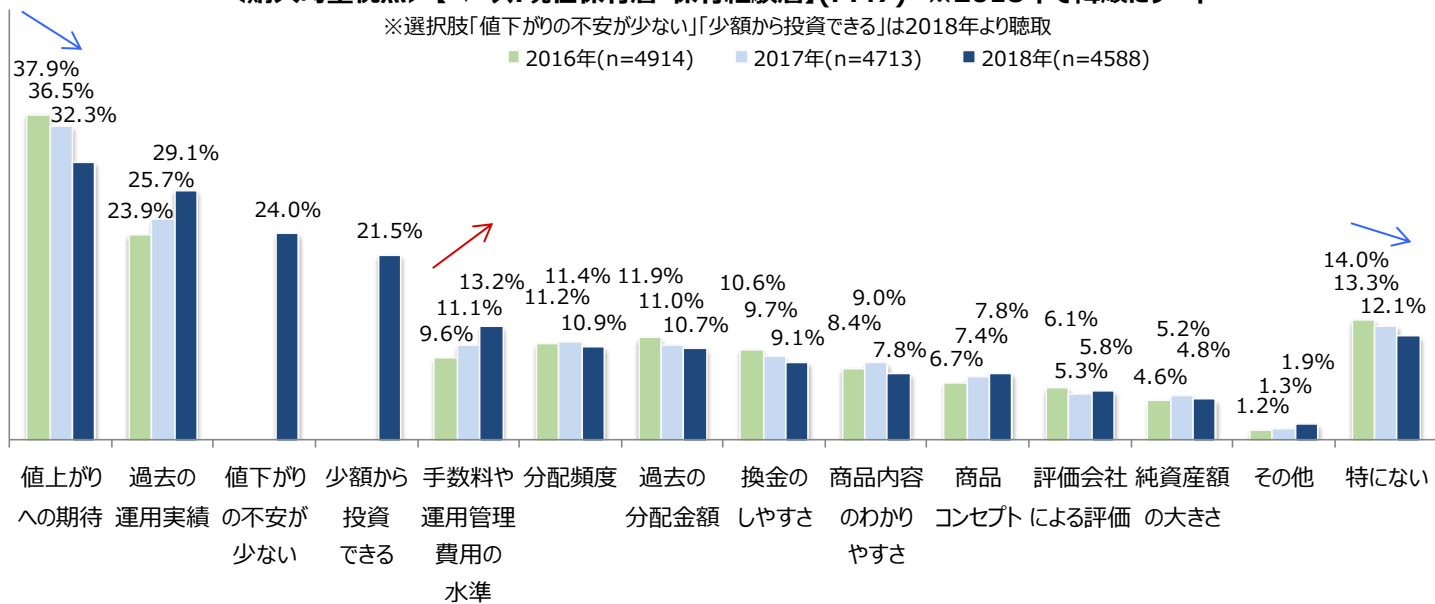
■ 前回からの変動をみると、これまでも今後も「値上がりへの期待」が減少し「手数料や運用管理費用の水準」が増加。コストを抑えての運用志向がやや高まっている様子。また「特にない」は微減傾向にあり、個人の重視点が多様化している模様。

・ 「分配頻度」「過去の分配金額」は高齢層ほど重視し、「過去の運用実績」「少額から投資できる」「手数料や運用管理費用の水準」は若年層ほど重視する様子。〔P47〕

＜購入時重視点＞【ベース:現在保有層・保有経験層】(P.47) ※2018年で降順にソート

※選択肢「値下がりへの不安が少ない」「少額から投資できる」は2018年より聴取

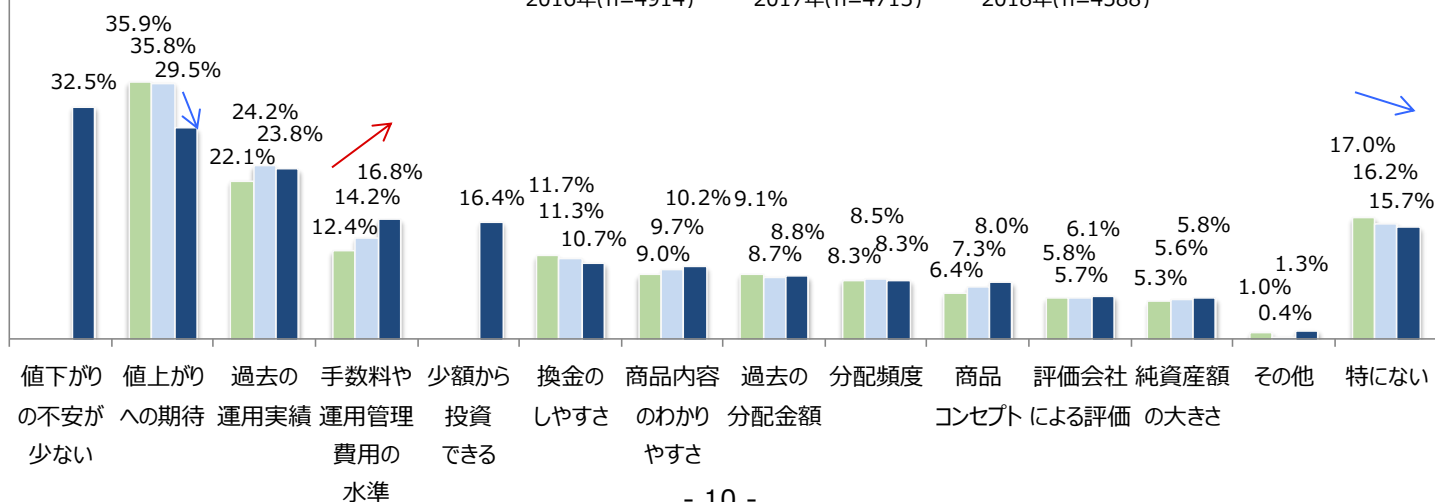
■ 2016年(n=4914) ■ 2017年(n=4713) ■ 2018年(n=4588)



＜今後購入時重視点＞【ベース:現在保有層・保有経験層】(P.49) ※2018年で降順にソート

※選択肢「値下がりへの不安が少ない」「少額から投資できる」は2018年より聴取

■ 2016年(n=4914) ■ 2017年(n=4713) ■ 2018年(n=4588)



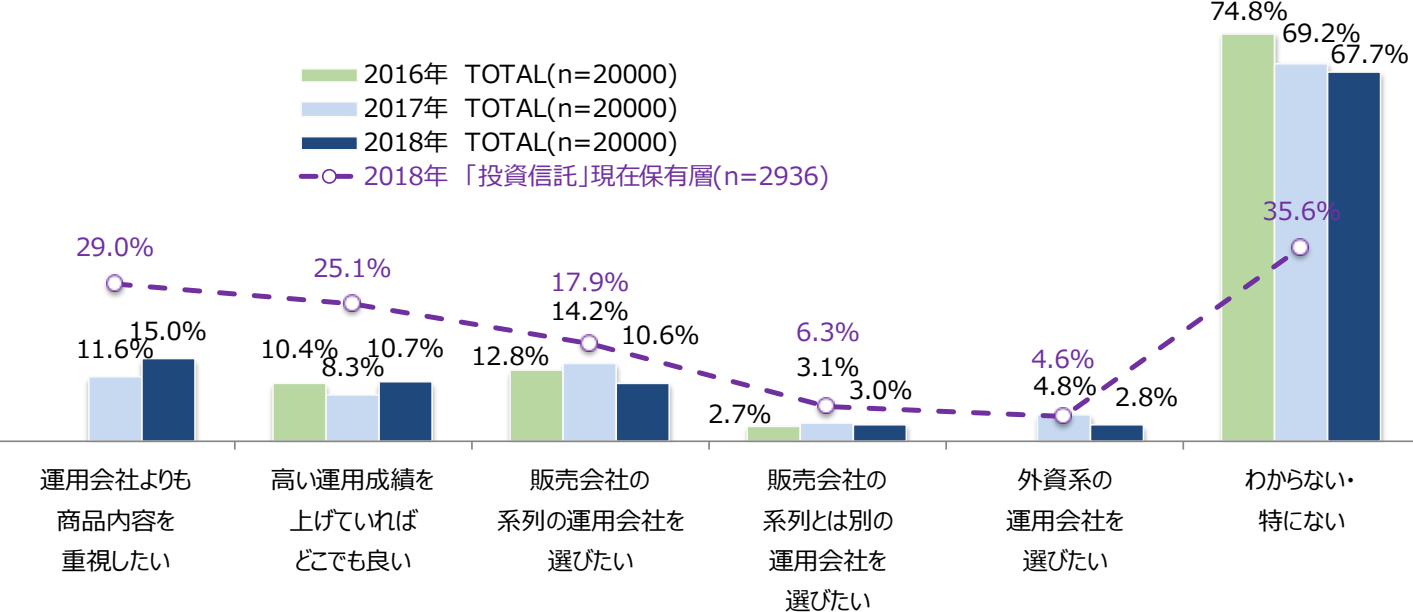
## 2. 調査結果の要約

### 投資信託運用会社に対する考え／投資信託購入の際の運用会社重視点

- 投資信託の運用会社に対する考え(選び方)は、「運用会社より商品内容を重視」「高い運用成績を上げていればどこでも良い」「販売会社系列を選びたい」が上位となる。また「わからない・特にない」は67.7%と非常に高く、前回同様に大半の人が選択基準を想起できていない。
- 運用会社重視点では、「運用実績」「知名度」が前回より増加、「資本力」「グループ力」も僅かだが増加する。
  - ・ 投資信託現在保有層は「運用実績」の重視度が顕著で、約6割にのぼる。〔P82〕

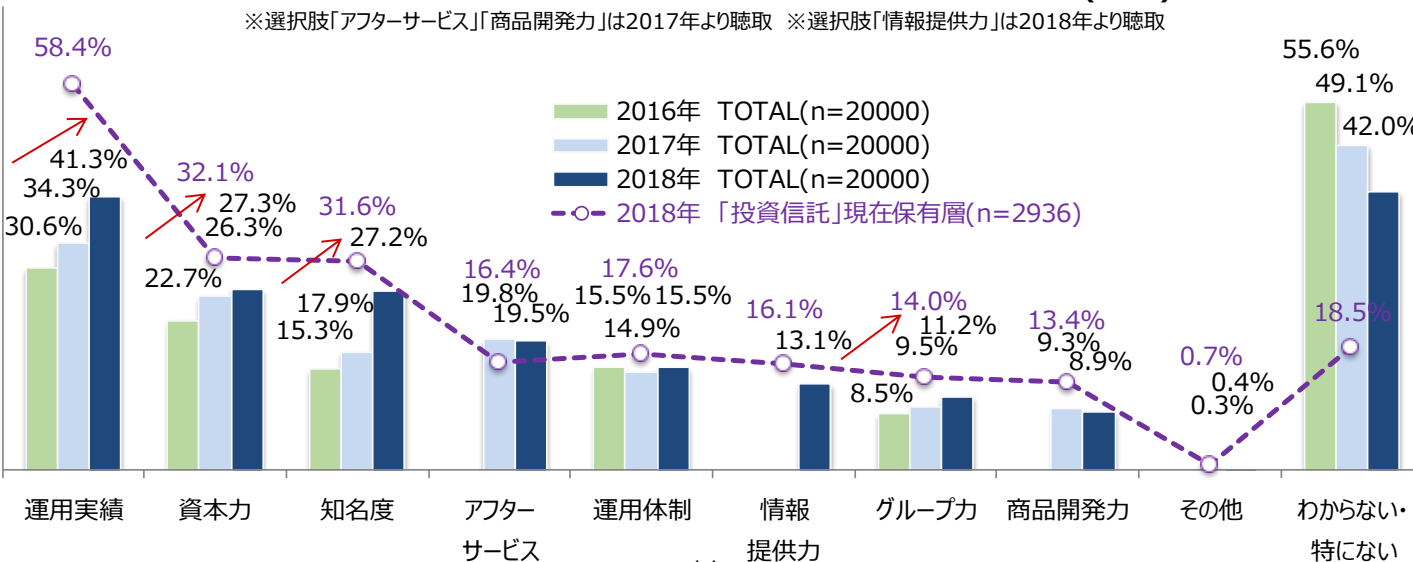
＜投資信託の運用会社に対する考え＞【ベース：TOTAL／現在保有層】(P.81)

※選択肢「運用会社よりも商品内容を重視したい」「外資系の運用会社を選びたい」は2017年より聴取



＜投資信託購入の際の運用会社重視点＞【ベース：TOTAL／現在保有層】(P.82)

※選択肢「アフターサービス」「商品開発力」は2017年より聴取 ※選択肢「情報提供力」は2018年より聴取

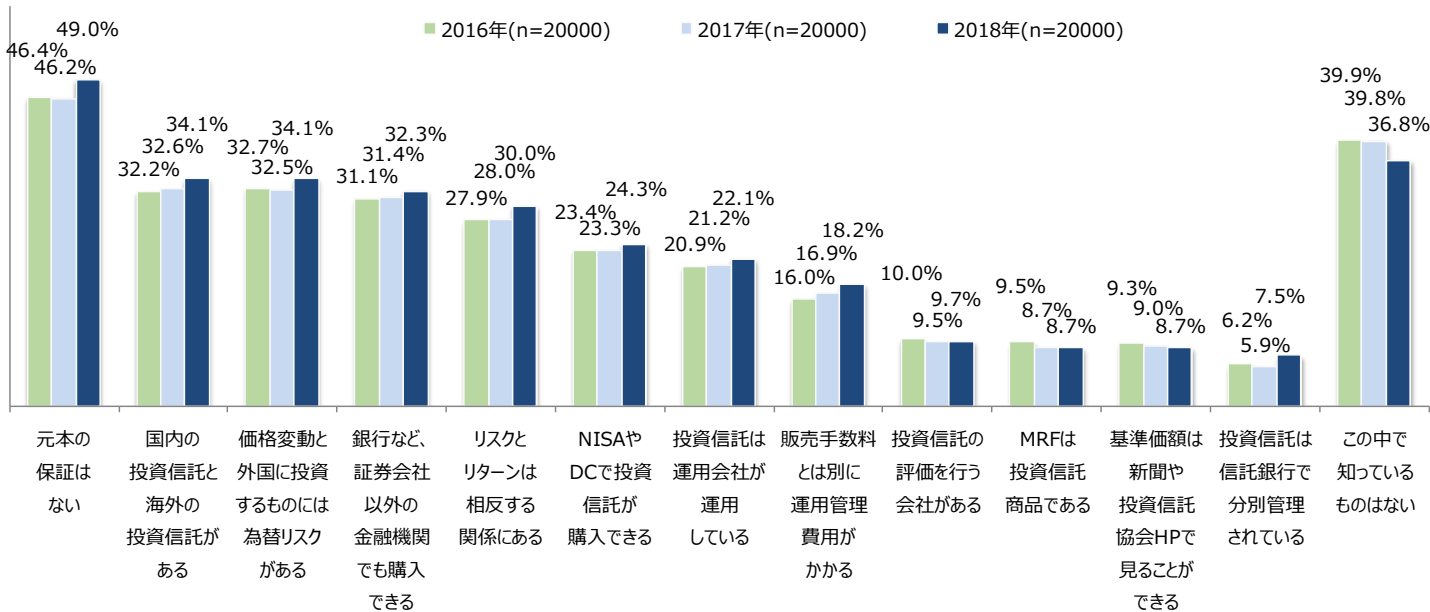


## 2. 調査結果の要約

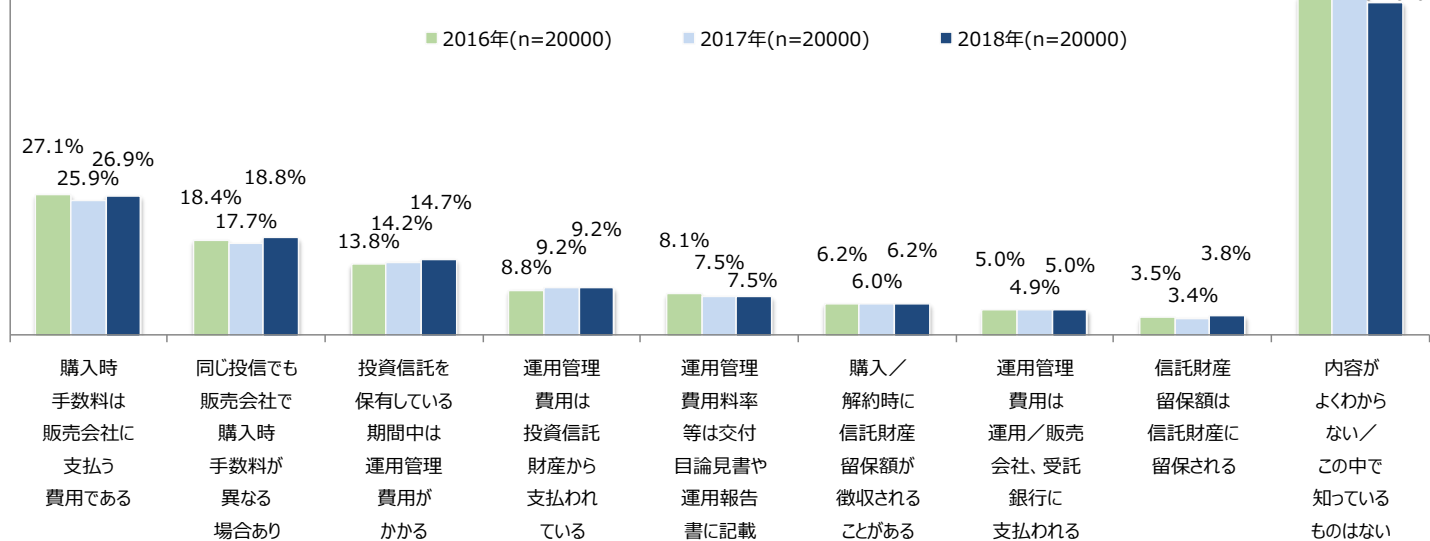
### 投資信託の商品および手数料特徴の認知状況

- 投信商品の特征認知は前回からほとんど変動はみられず、「元本保証はない」「国内と海外の投信がある」「価格変動と為替リスクがある」「証券会社以外でも購入できる」が上位に続く。
- 手数料認知も前回から大きな変動はみられず、「販売会社に支払う費用」「販売会社で異なる場合がある」「保有中は運用管理費がかかる」が上位にあがる。

<投資信託の特徴認知>【ベース:TOTAL】(P.69)



<手数料の特徴認知>【ベース:TOTAL】(P.83)



## 2. 調査結果の要約

### 投資信託の興味・関心・購入のきっかけ／投資信託購入時参考情報

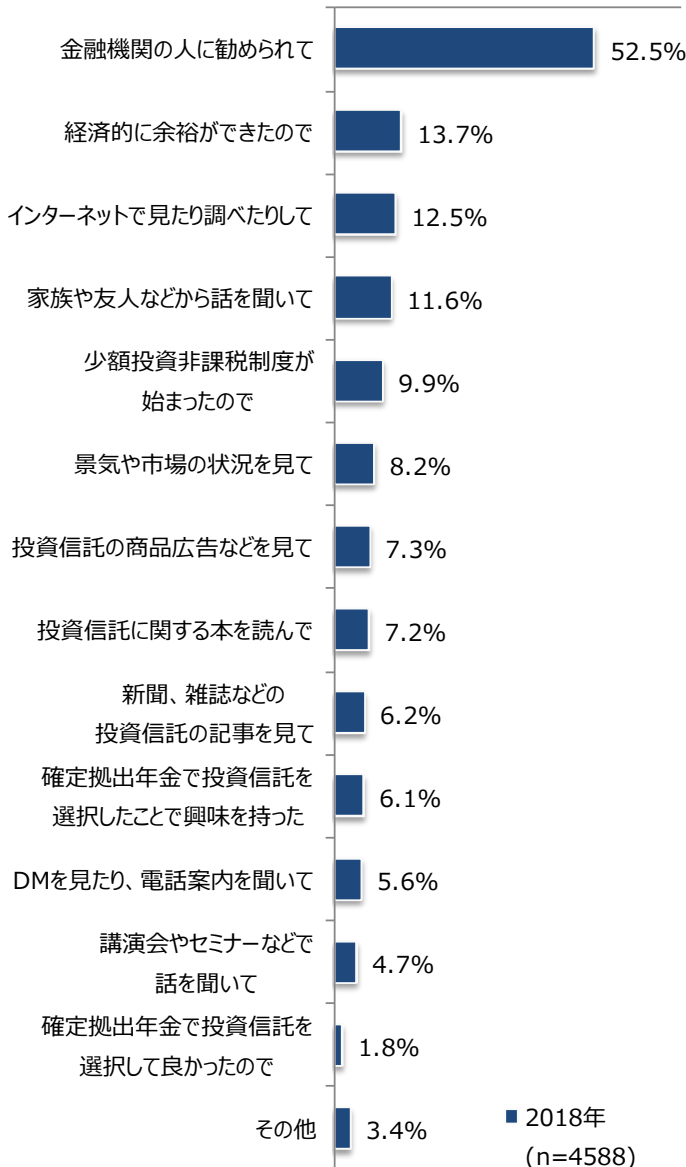
- 投信の興味・関心・購入のきっかけは「金融機関の人に勧められて」が突出している。また投信の購入時参考情報は、「金融機関の担当者的話」「販売用資料」「目論見書・運用報告書」「投信販売会社のHP」が上位にあがる。

- ・ 興味・関心・購入のきっかけは、高齢層ほど「金融機関の人に勧められて」が高くなる傾向。「インターネットで見たり調べたりして」「小額投資非課税制度が始まったので」「投資信託に関する本を読んで」「確定拠出年金で投信を選択したことで興味を持った」は40代以下で高くなる傾向。〔P43〕

#### <投資信託の興味・関心・購入のきっかけ>

【ベース:現在保有層・保有経験層】(P.43)

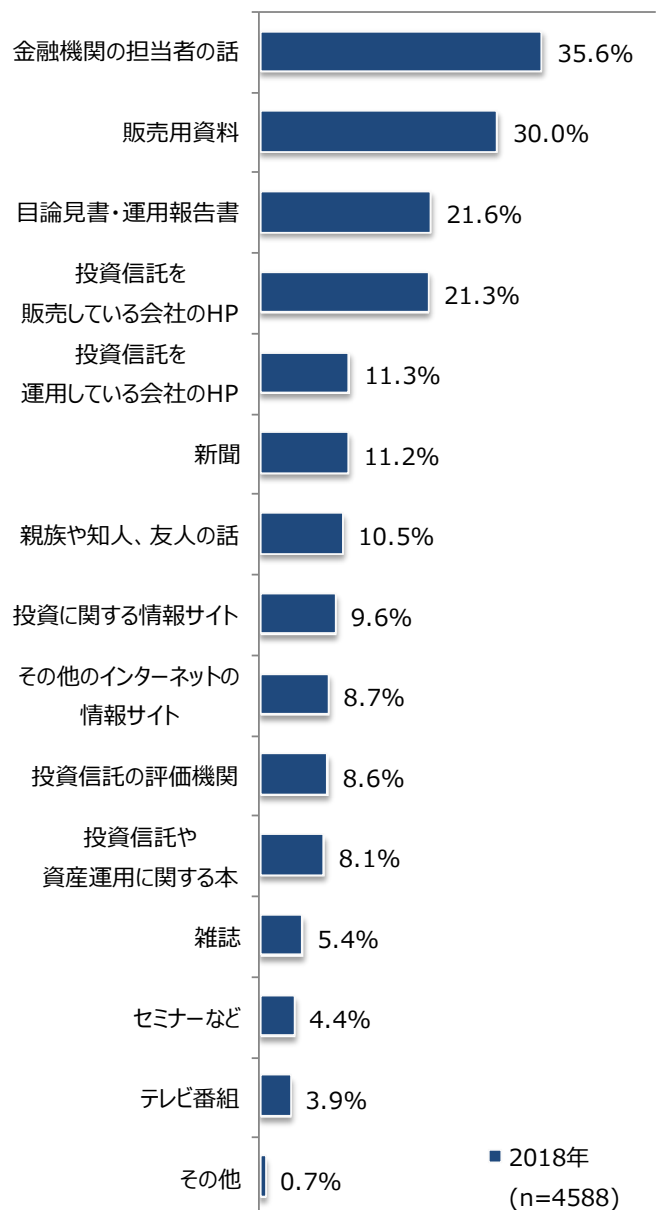
※ 2018年で降順にソート



#### <投資信託購入時参考情報>

【ベース:現在保有層・保有経験層】(P.45)

※ 2018年で降順にソート





## 2. 調査結果の要約

### 投資信託保有未経験層の非購入理由／投資信託購入検討のきっかけ

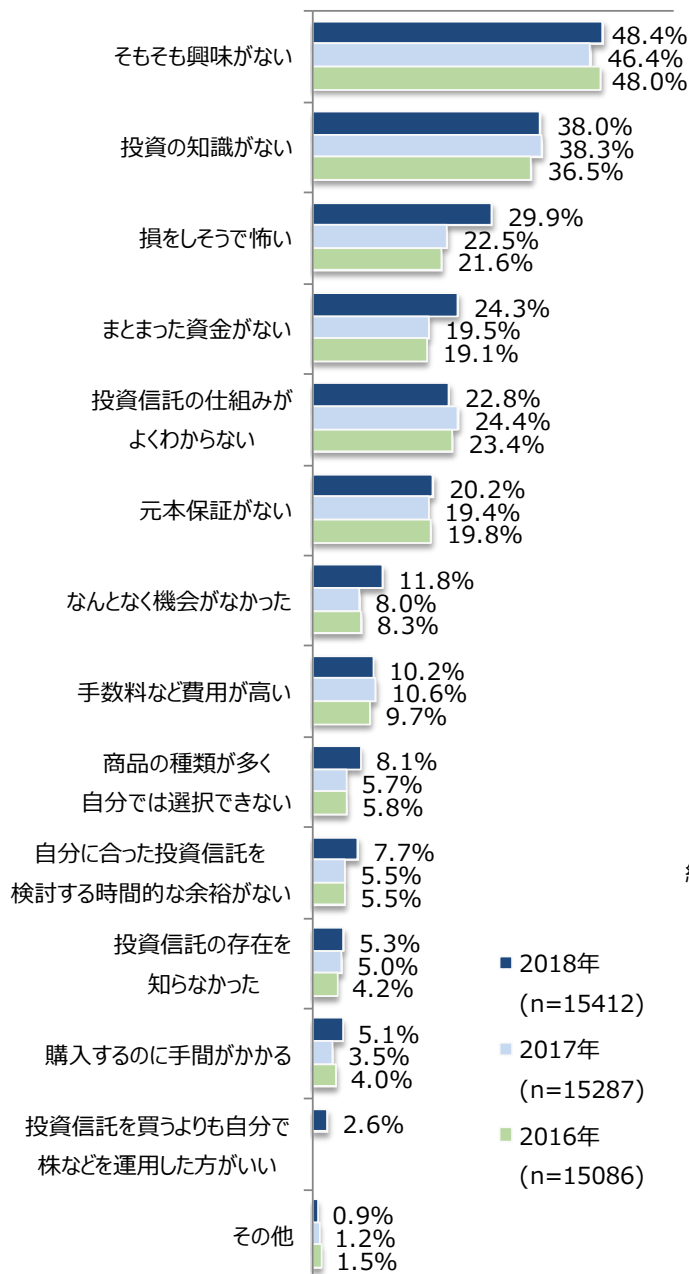
- 前回同様に、投信の非購入理由は「興味の欠如」「投資知識がない」が上位。また投信の購入のきっかけは分散傾向で、「金融や投資を勉強して理解できた」「手取り収入が増えたら」「身近な人に勧められたら」が上位にあがる。

- ・ 購入検討のきっかけは、40代以下で「手取り収入増加」「身近な人に勧められたら」が高く、若年層ほど「金融や投資方法を勉強して理解したら」「手取り収入が増えたら」「身近な人に勧められたら」「貯蓄が一定額に達したら」「専門知識を持つ人に教えてもらえたら」「初心者セミナーなどがあれば」が高くなる傾向。〔P66〕

#### <投資信託の非購入理由>【ベース:保有未経験層】

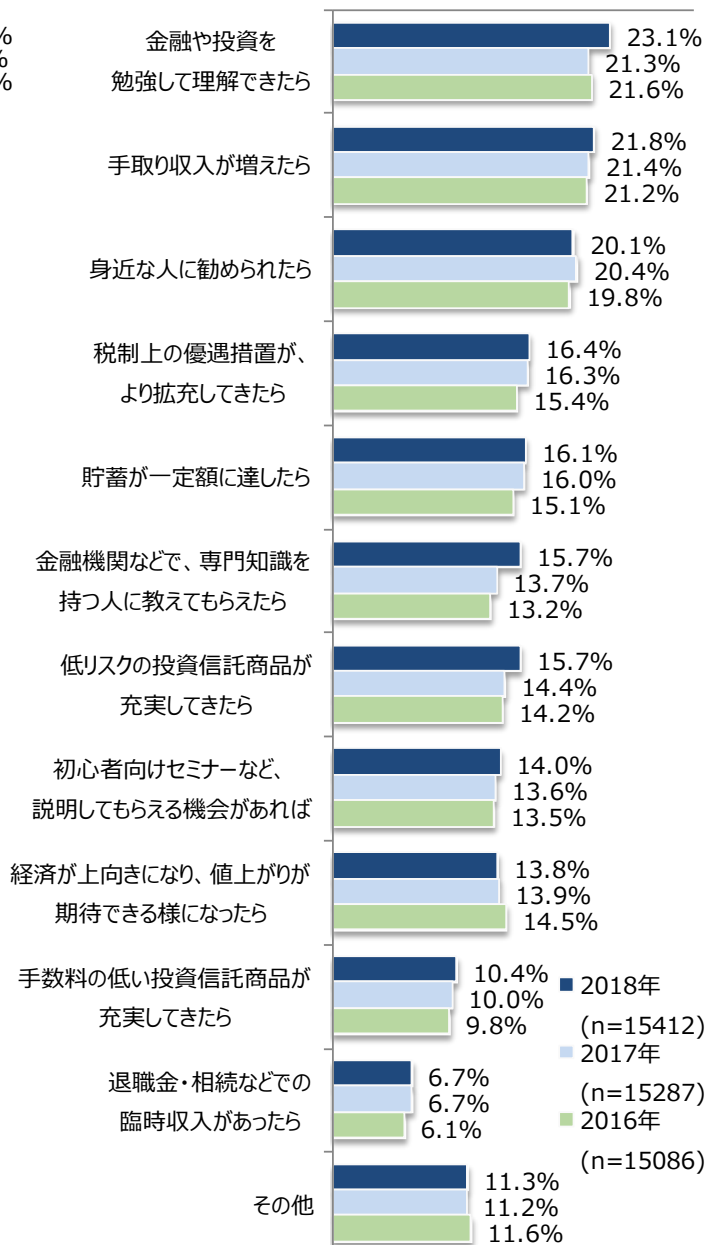
(P.64) ※ 2018年で降順にソート

※選択肢「投資信託を買うよりも自分で株などを運用した方がいい」は2018年より聴取



#### <投資信託の購入検討のきっかけ>【ベース:保有未経験層】

(P.66) ※ 2018年で降順にソート

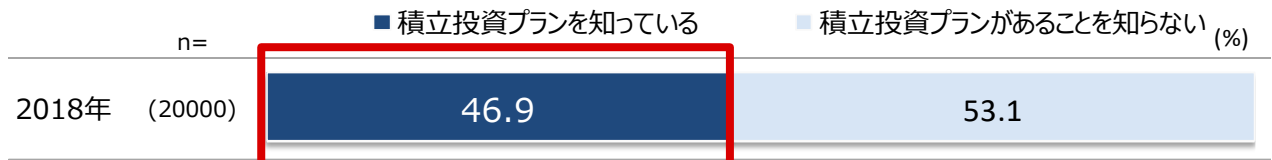


## 2. 調査結果の要約

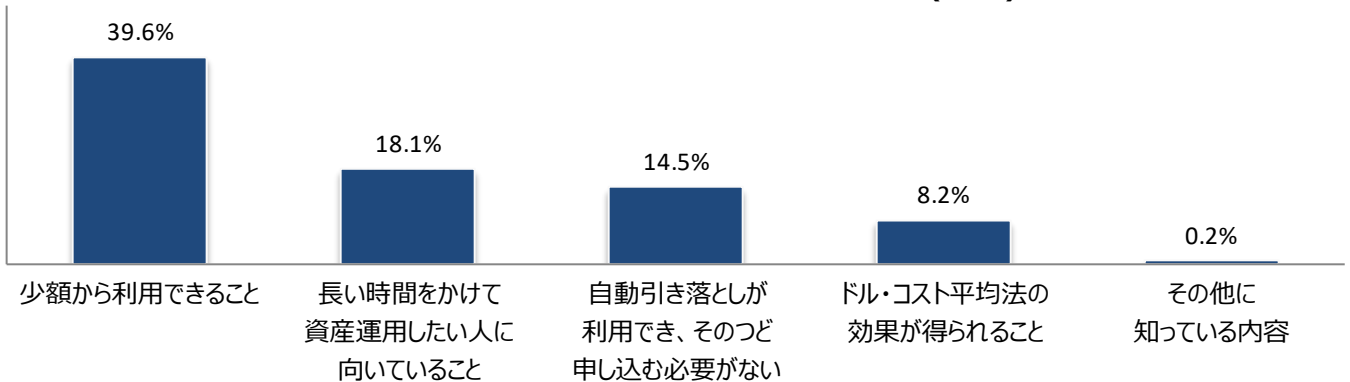
### 積立投資プランの特徴認知／ドル・コスト平均法の特徴認知

- 積立投資プランの特徴認知は47%と半数近くが存在を認知。認知内容は「少額から利用できる」が約40%と突出しており、適性や効果の認知はいずれも2割未満に留まる結果となる。
- ドル・コスト平均法は70%と大半が存在を非認知。内容認知は23%に留まる。認知している内容は「投資のリスク軽減法の一つ」が14.3%で最も高い。

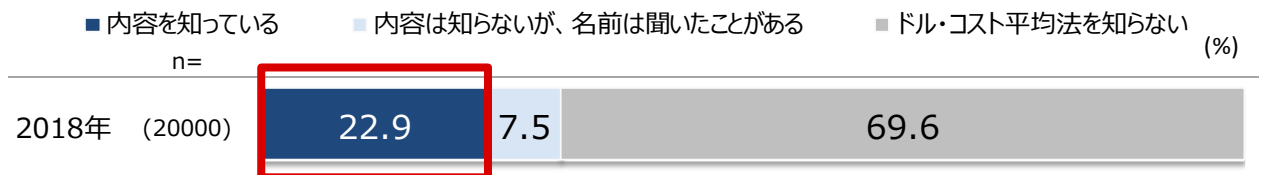
<積立投資プランの特徴認知>【ベース：TOTAL】(P.78)



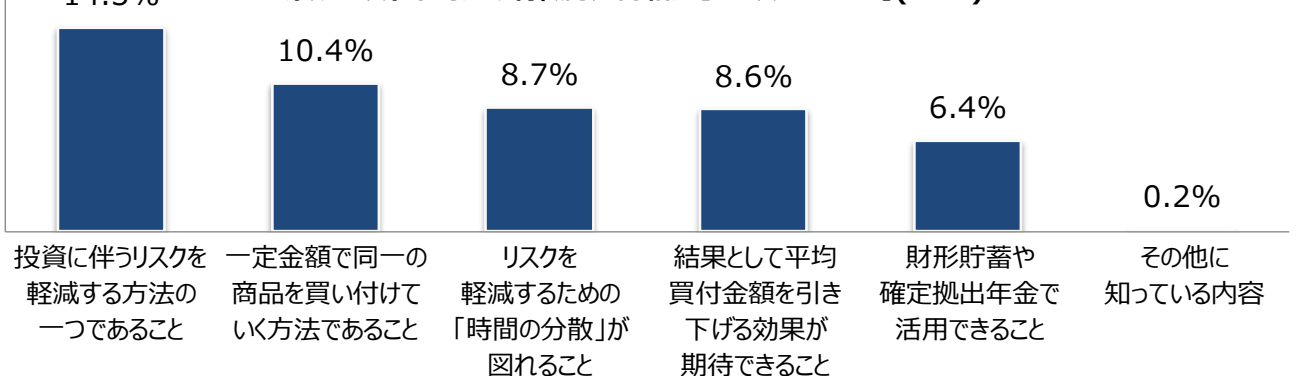
<積立投資プランの特徴認知詳細>【ベース：TOTAL】(P.78)



<ドル・コスト平均法の特徴認知>【ベース：TOTAL】(P.79)



<ドル・コスト平均法の特徴認知詳細>【ベース：TOTAL】(P.79)





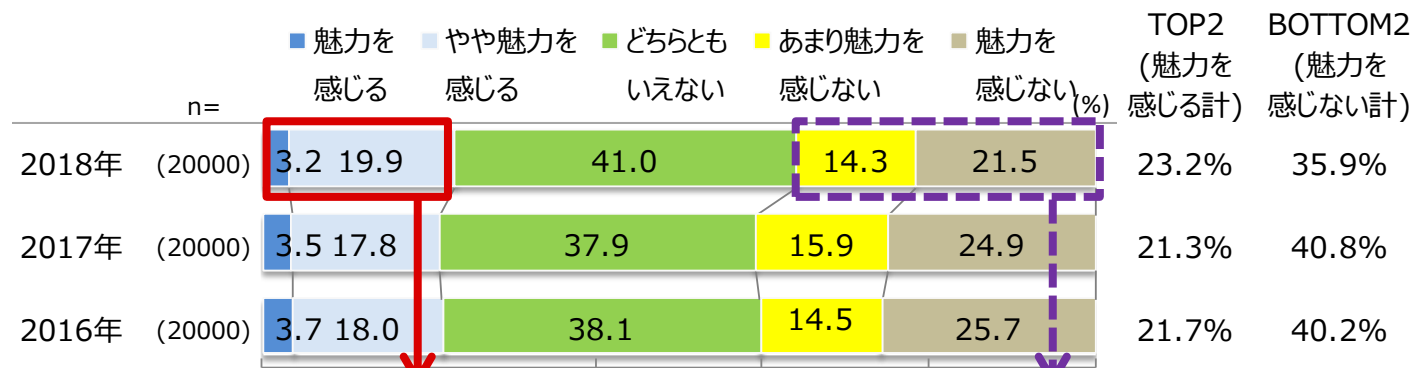
## 2. 調査結果の要約

### 毎月分配型投資信託の魅力度とその理由

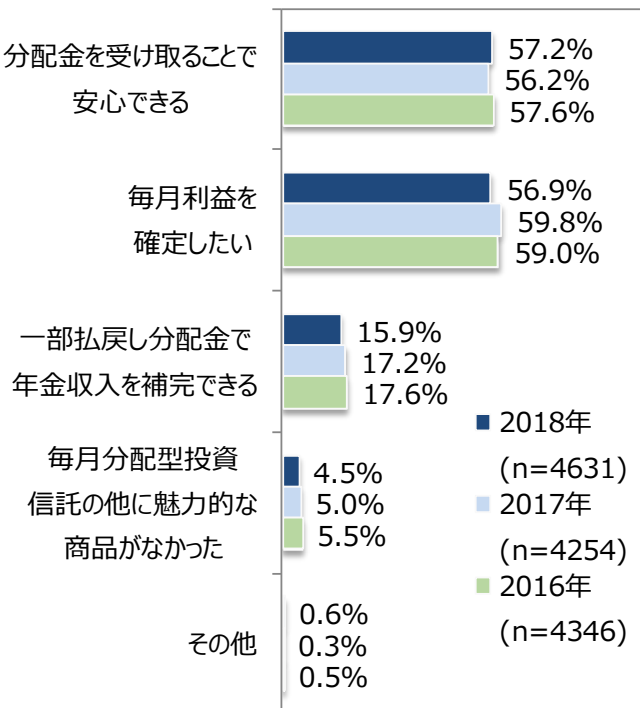
■「毎月分配型投資信託」に魅力を感じるのは、前回同様に20%程度となる。

■魅力層での評価点は、「分配金受取の安心感」「毎月利益を確定したい」。一方非魅力層では「分配金が少ないので」との不満が僅かに増加している。

＜毎月分配型投資信託の魅力度＞ (P.72)

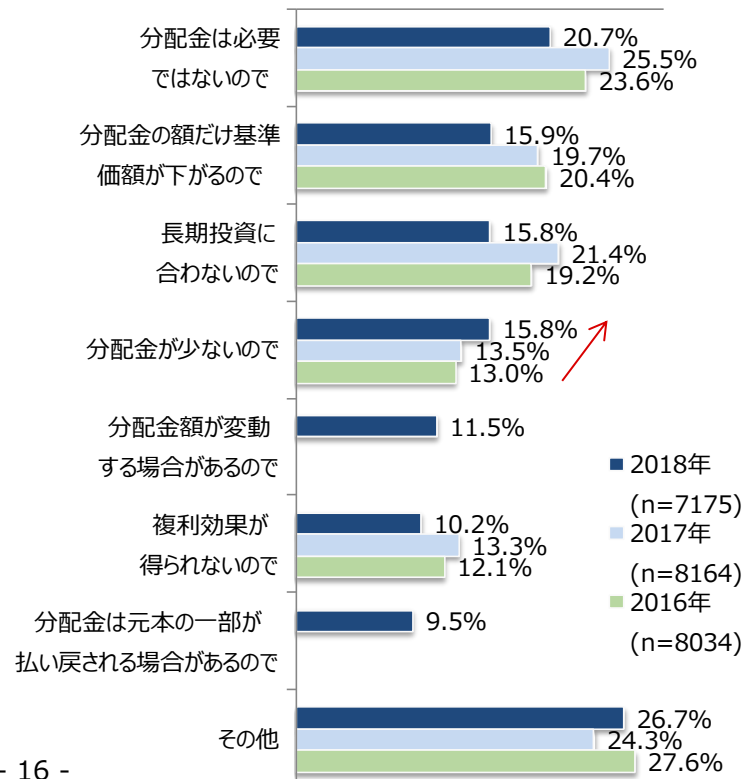


＜毎月分配型投資信託の魅力理由＞  
【ベース:分配型魅力者】(P.74)



＜毎月分配型投資信託の非魅力理由＞  
【ベース:分配型非魅力者】(P.76)

※選択肢「分配金額が変動する場合があります」  
「分配金は元本の一部が払い戻される場合があります」は2018年より聴取



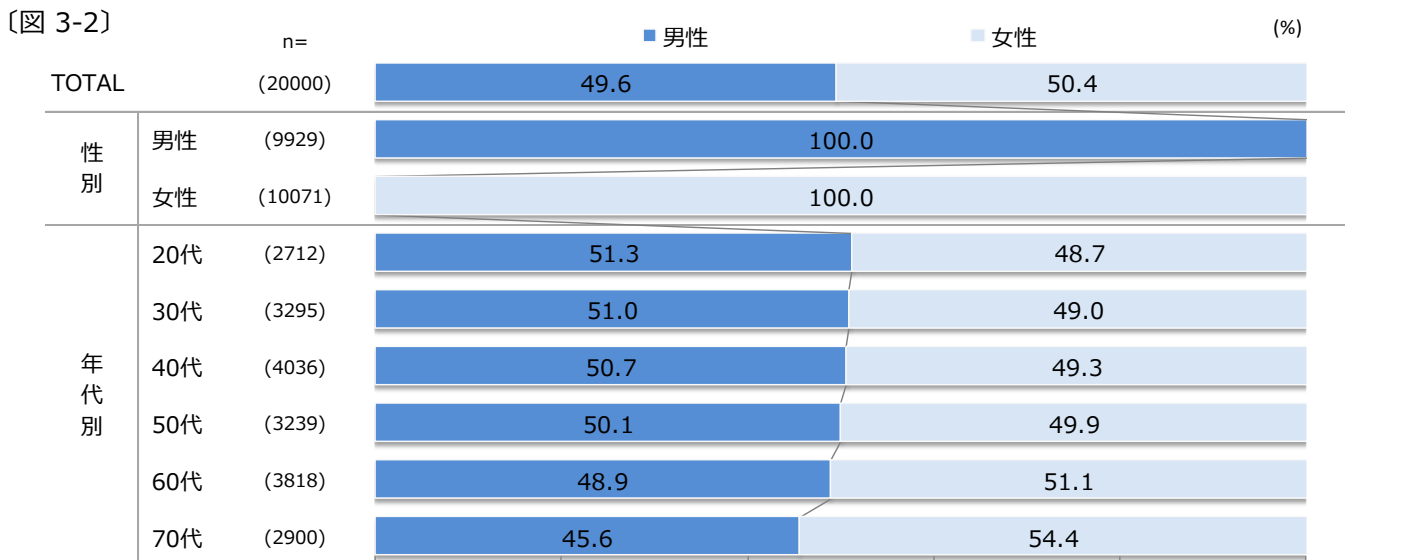
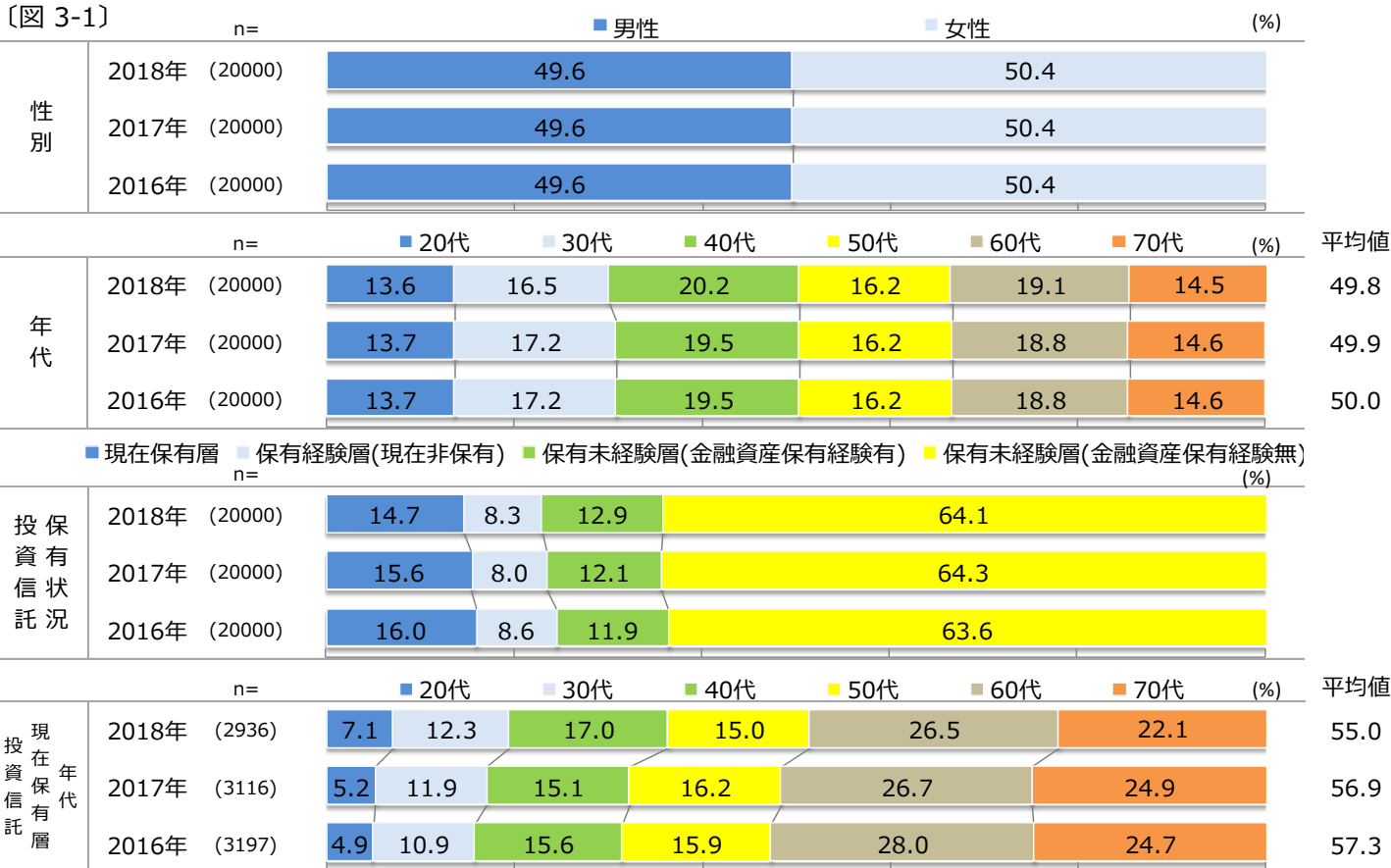
### 3. 回答者のプロフィール



### 3. 回答者のプロフィール

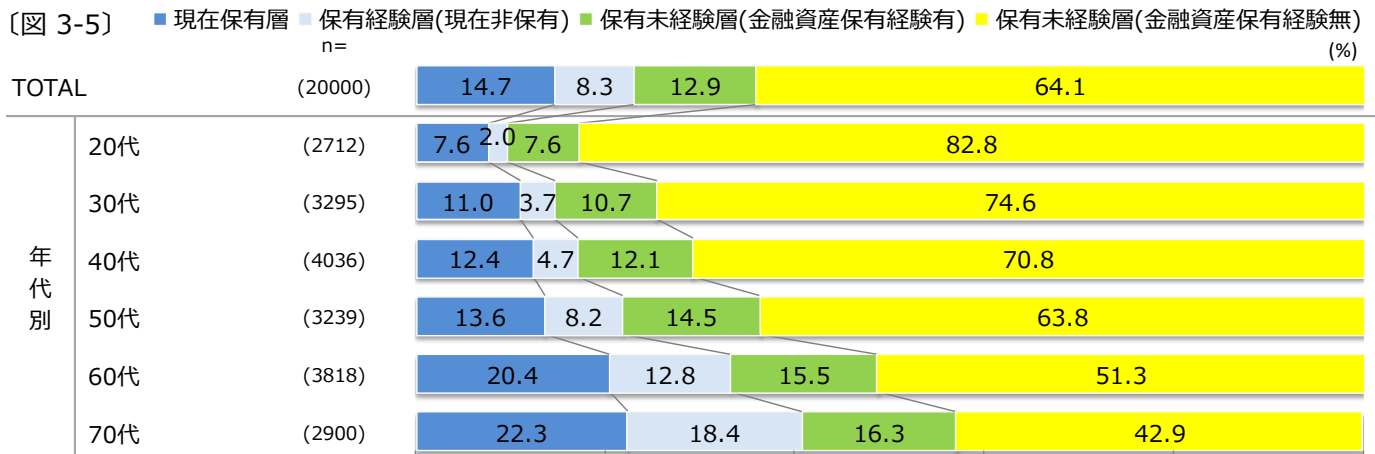
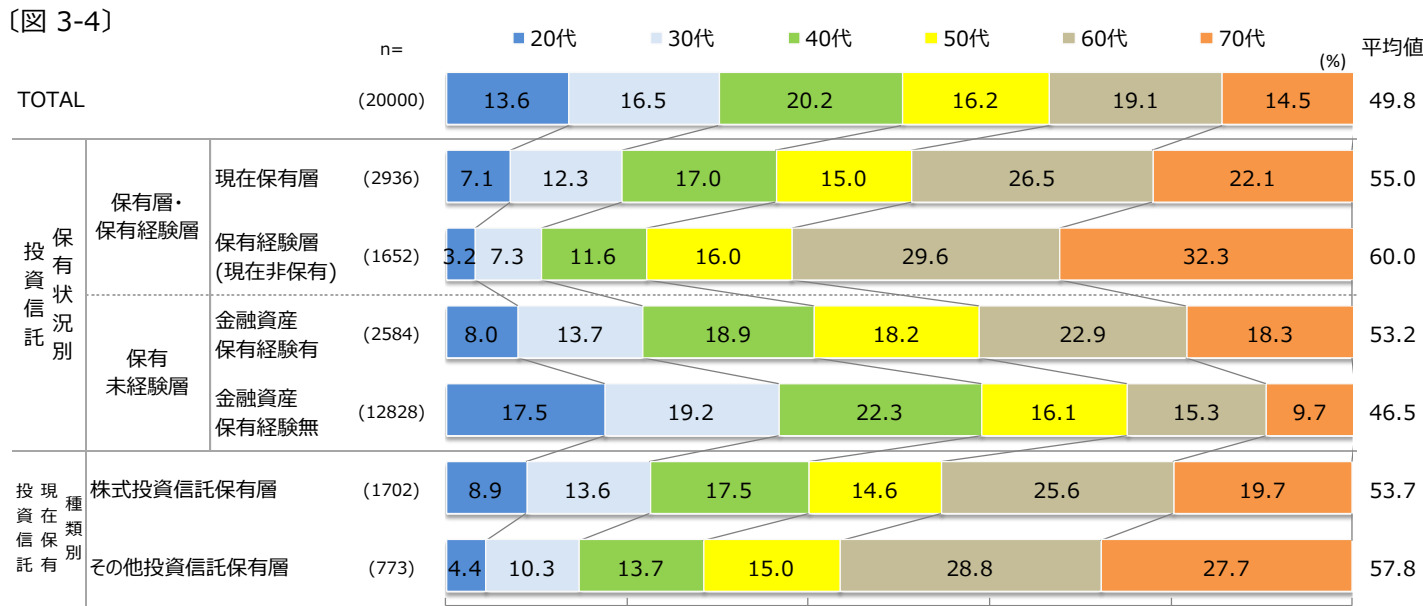
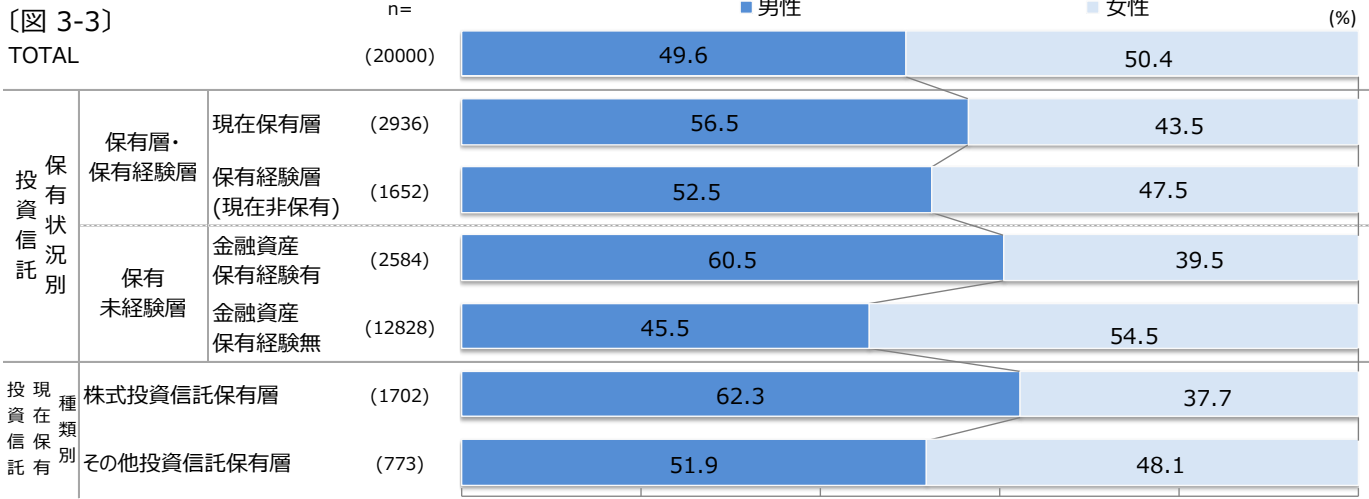
#### (1) 性別・年代〔Q28:単数回答・Q29:自由記述回答〕

- 回答者の性別は「男性」が49.6%、「女性」が50.4%。年代では「40代」が20.2%で最も多く、平均年齢は49.8歳となる。
- また投資信託の現在保有層の年代構成をみると、60～70代が合計で48.6%と約半数をしめるものの、前回に比べると僅かだが、20～40代が増え平均年齢が低下した。〔図3-1〕



### 3. 回答者のプロフィール

#### (1) 性別・年代〔Q28:単数回答・Q29:自由記述回答〕

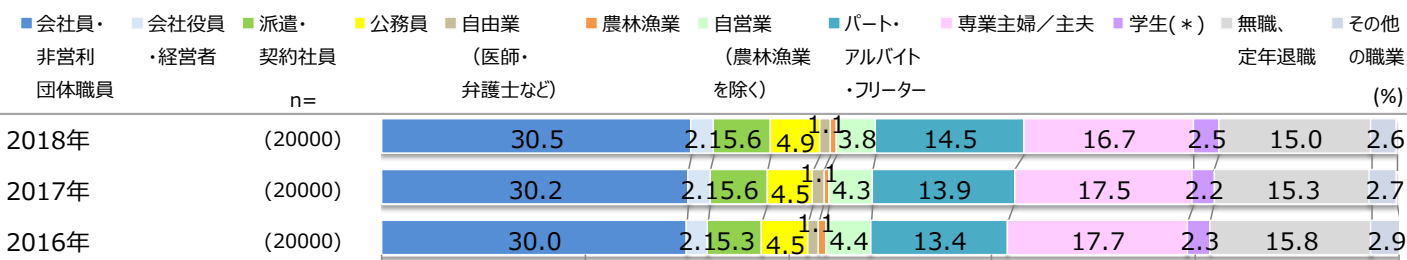


### 3. 回答者のプロフィール

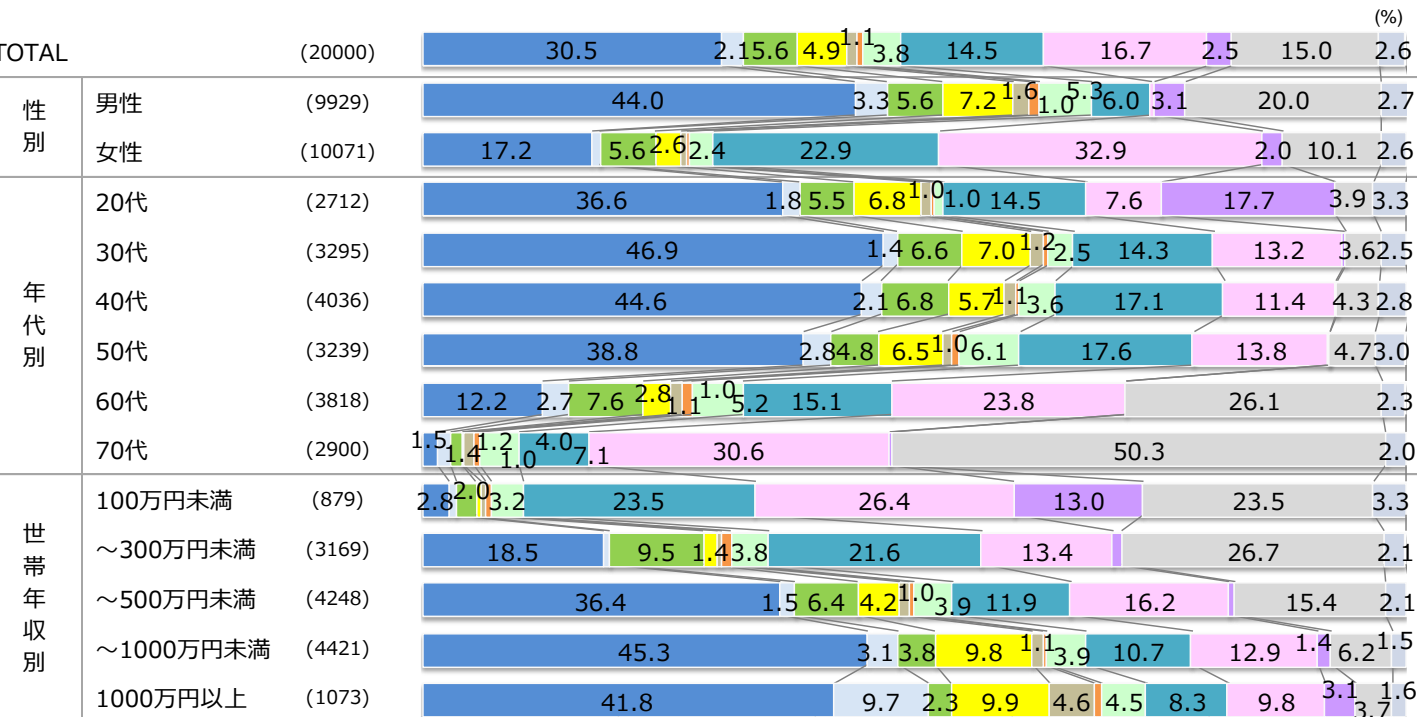
#### (2) 職業〔Q30:単数回答〕

- 回答者の職業は、前回と同様に「会社員・非営利団体職員」(30.5%)が最も多く、〔図3-6〕世帯年収が上がるにつれ増加する傾向。〔図3-7〕  
また年収1,000万円以上の世帯では、「会社役員・経営者」(9.7%)がやや多い。〔図3-7〕
- 投資信託の現在保有層や保有経験層では、「専業主婦／主夫」「無職・定年退職」が保有未経験層に比べやや多い。〔図3-8〕

〔図 3-6〕



〔図 3-7〕

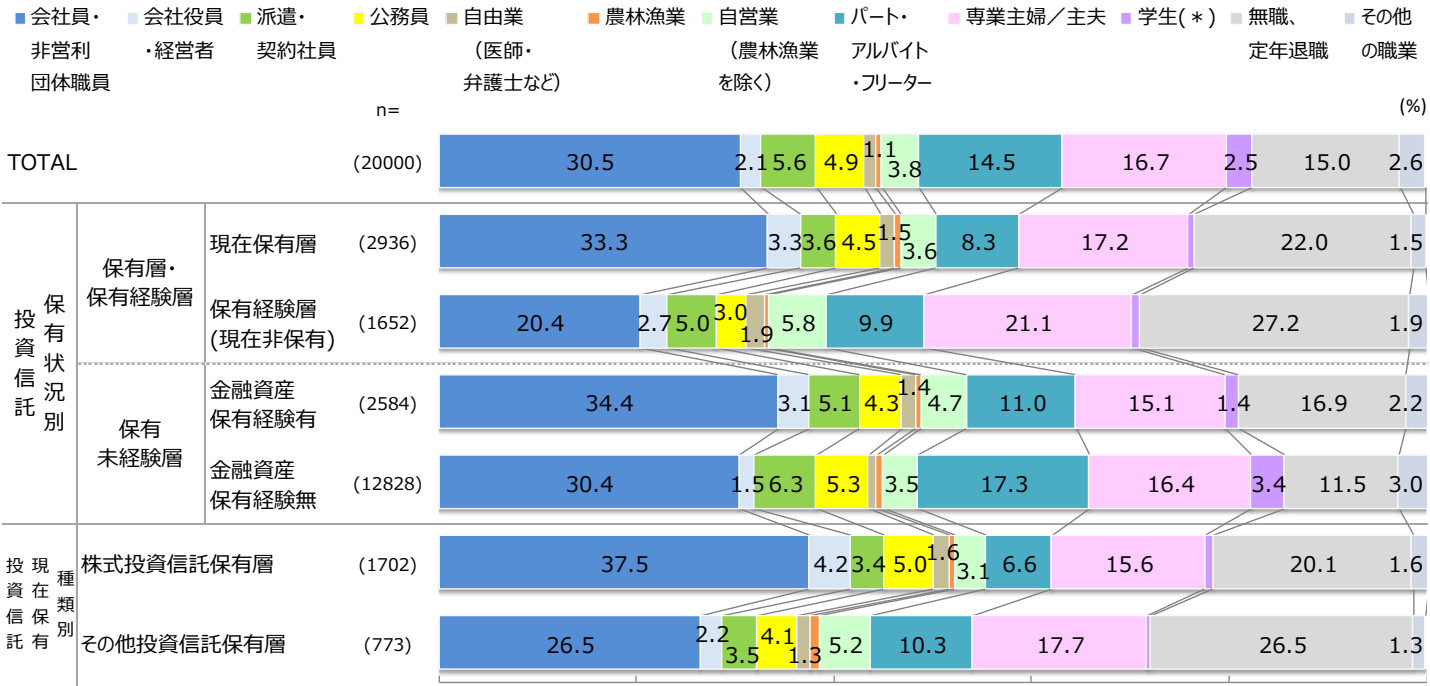


※1%未満は非表示

### 3. 回答者のプロフィール

#### (2) 職業〔Q30:単数回答〕

〔図 3-8〕



※1%未満は非表示

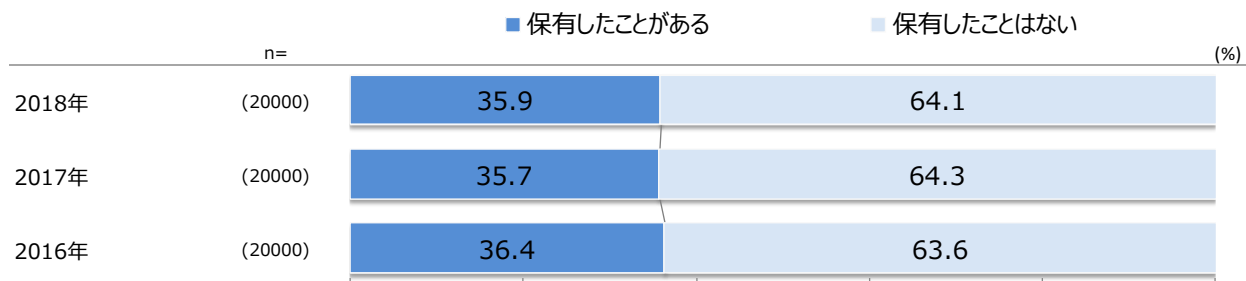
### 3. 回答者のプロフィール

#### (3) 金融資産の保有経験〔Q1:単数回答〕

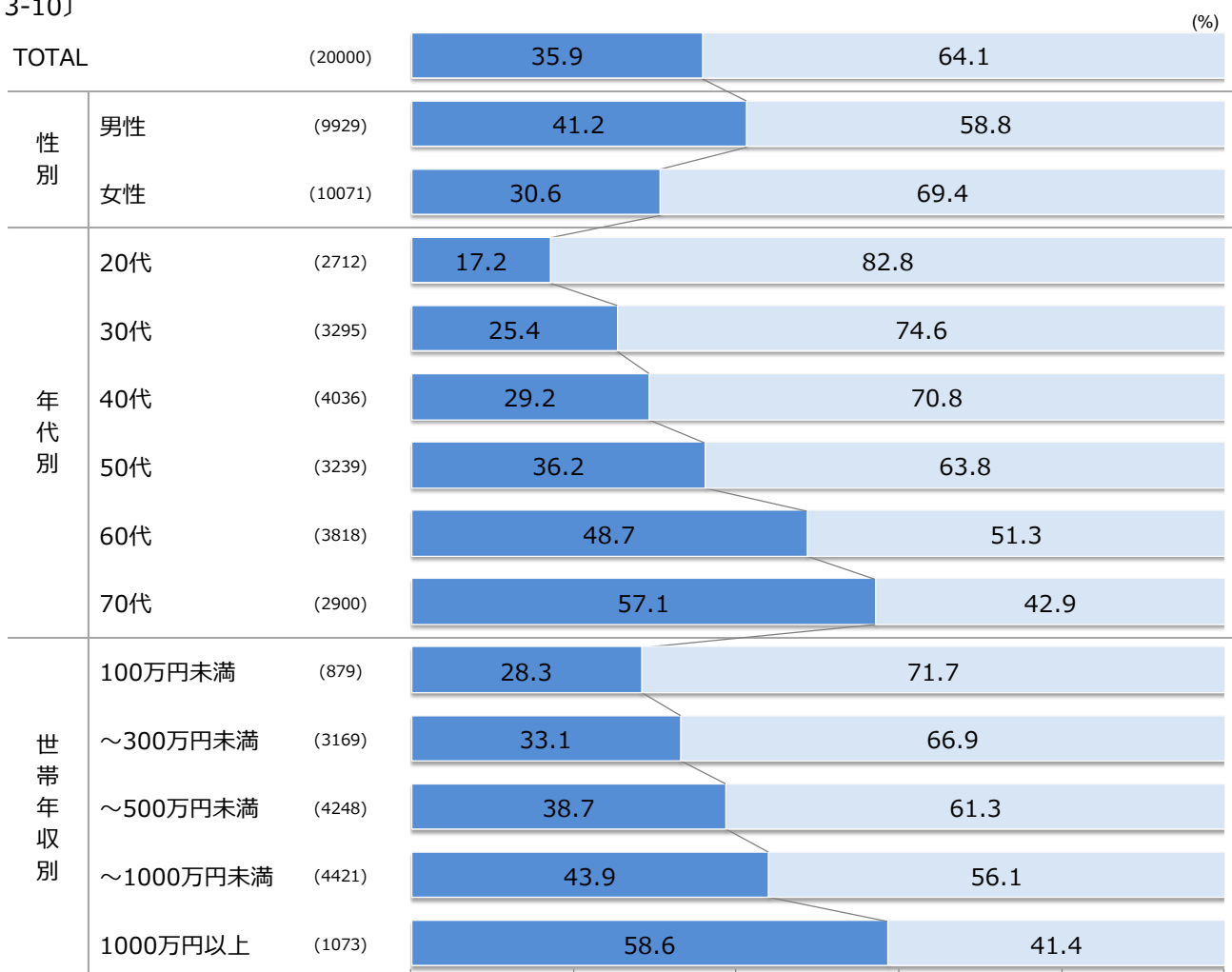
- 金融資産（※）の保有経験率は35.9%と、前回と同程度となる。〔図3-9〕
- 属性別に保有経験率をみると、性別では男性(41.2%)の方が高く、また年代や世帯年収が上がるにつれ高くなる。〔図3-10〕

※ 金融資産…外貨預金、株式、債券（国債・公社債など）、投資信託、FX、ETF、REITなど。現金や円での預貯金、土地や不動産、保険は除く。

〔図 3-9〕



〔図 3-10〕

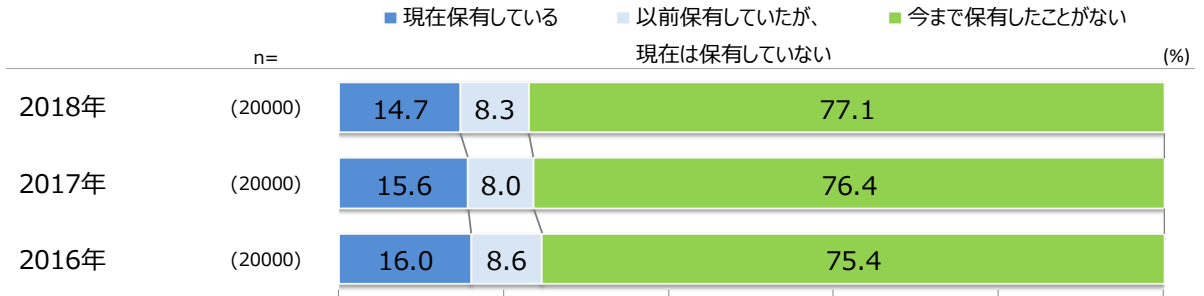


### 3. 回答者のプロフィール

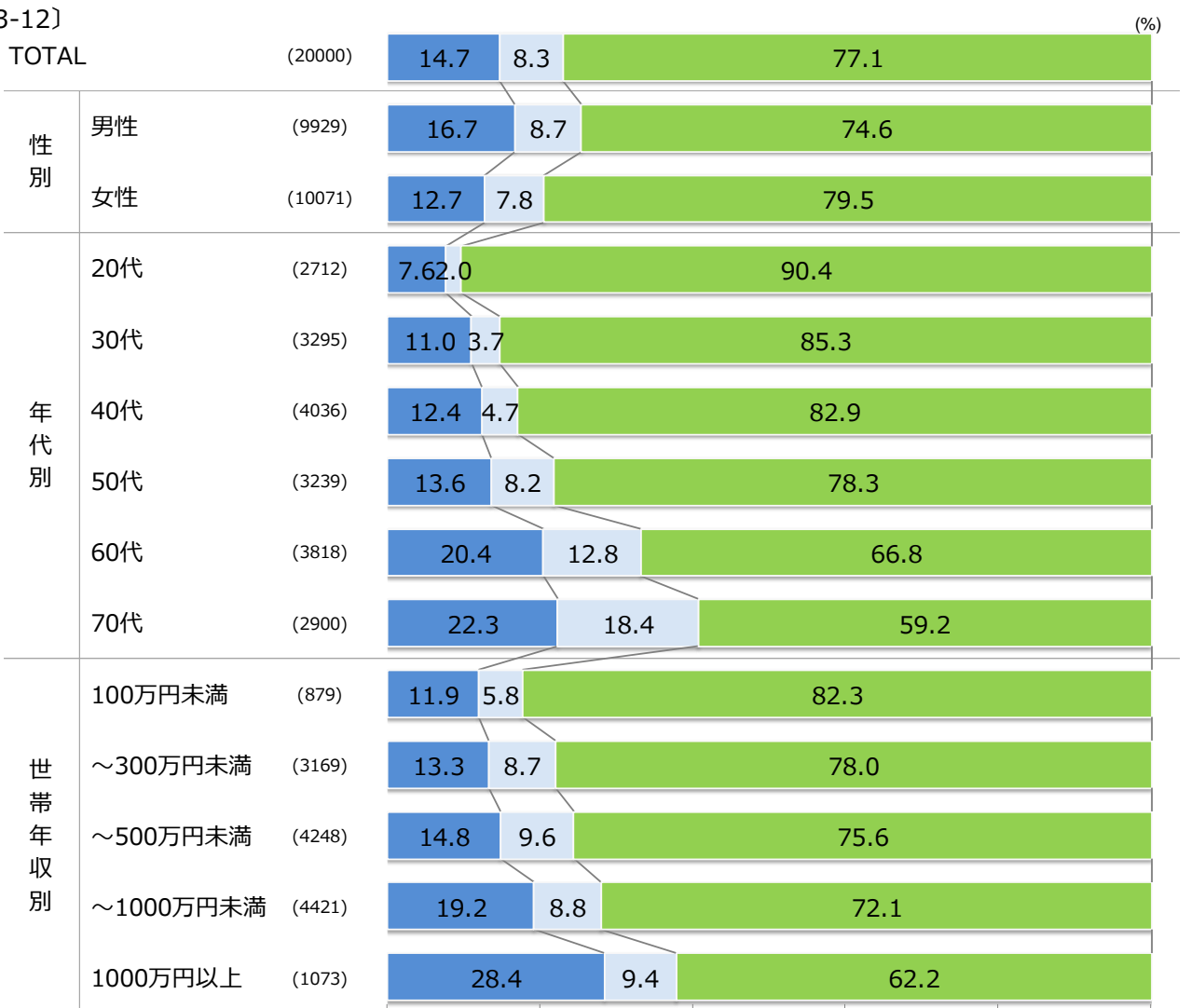
#### (4) 投資信託の保有状況〔Q2:単数回答〕

- 投資信託の保有状況に大きな変化はなく、「現在保有している」という“現在保有層”が14.7%、「以前保有していたが、現在は保有していない」との“保有経験層”が8.3%、「今まで保有したことがない」という“保有未経験層”が77.1%となる。〔図3-11〕
- 年代や世帯年収が上がるにつれ、“現在保有層”、“保有経験層”ともに増加する。〔図3-12〕

〔図 3-11〕



〔図 3-12〕

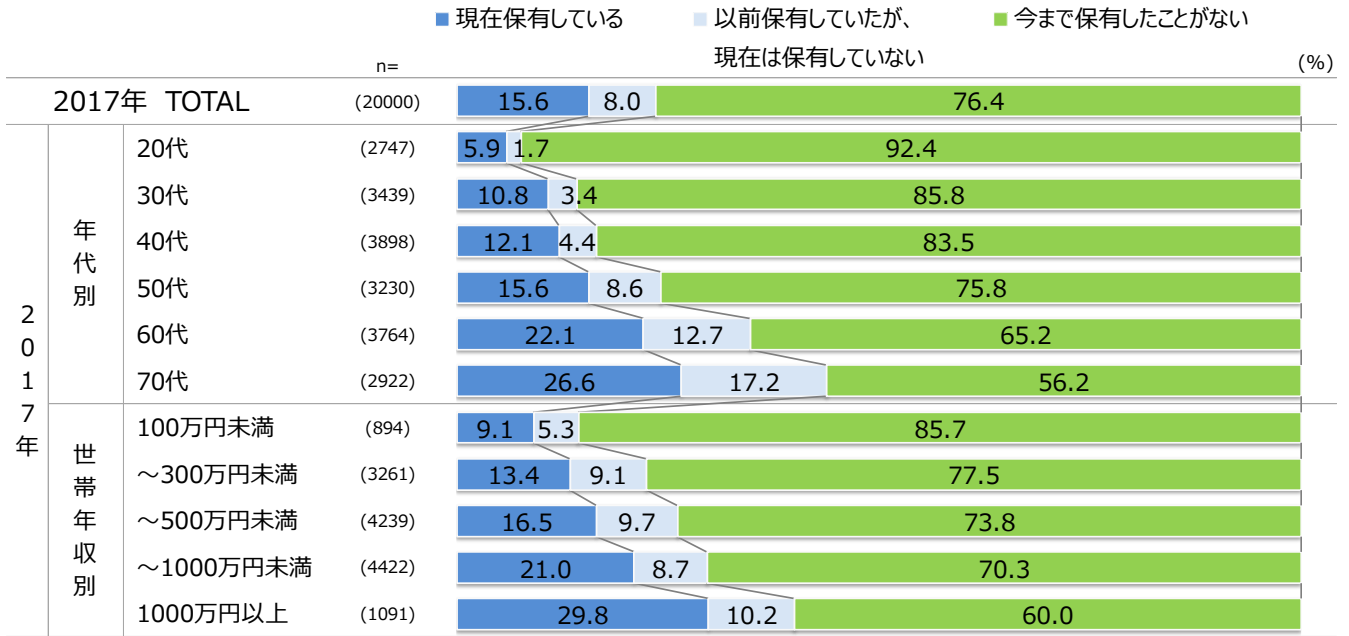




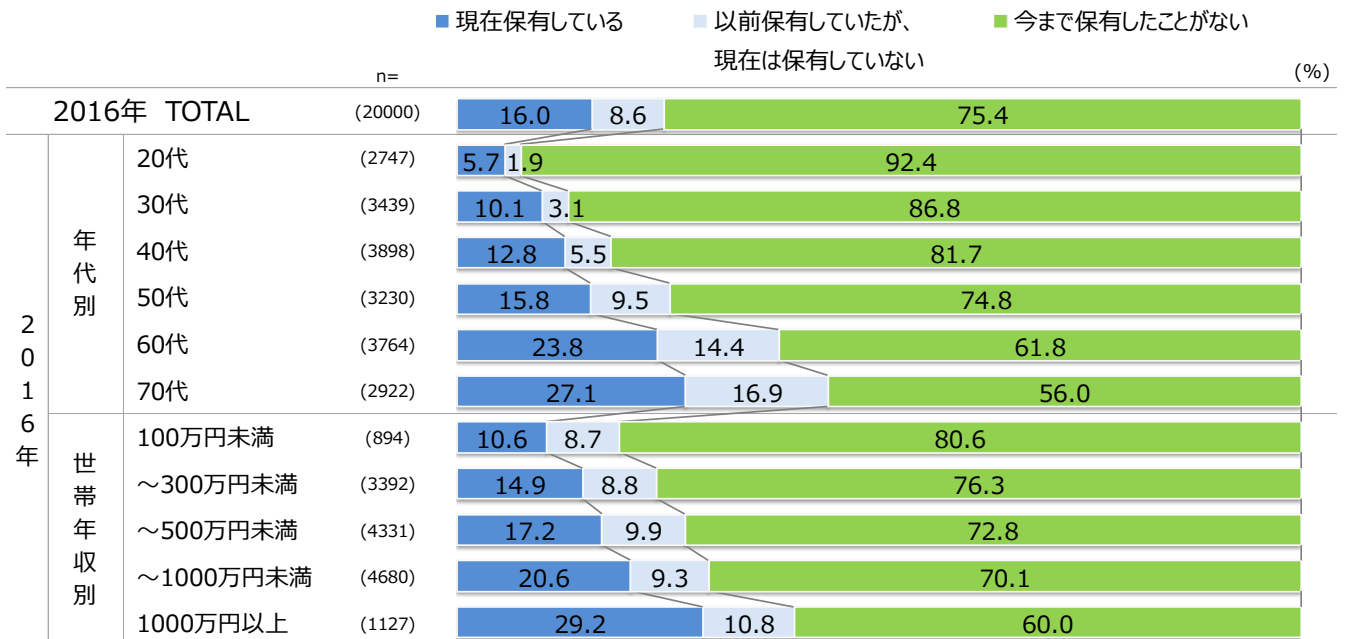
### 3. 回答者のプロフィール

#### (4) 投資信託の保有状況〔Q2:単数回答〕

〔図 3-13〕 2017年度結果 年代別、世帯年収別



〔図 3-14〕 2016年度結果 年代別、世帯年収別

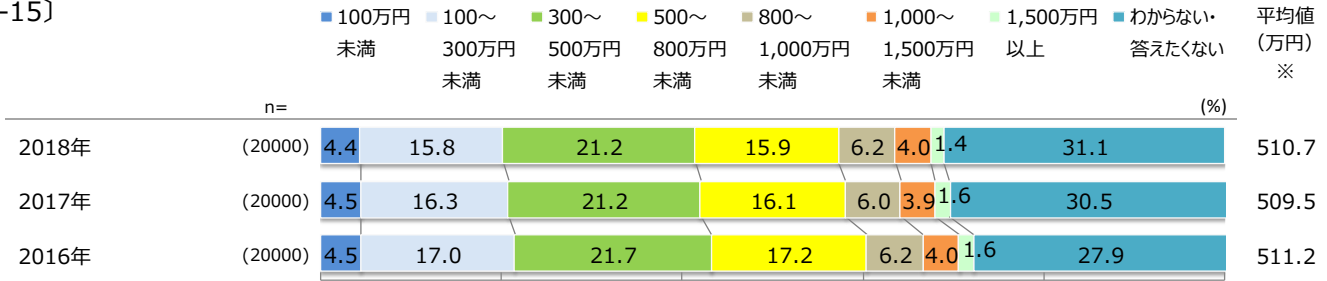


### 3. 回答者のプロフィール

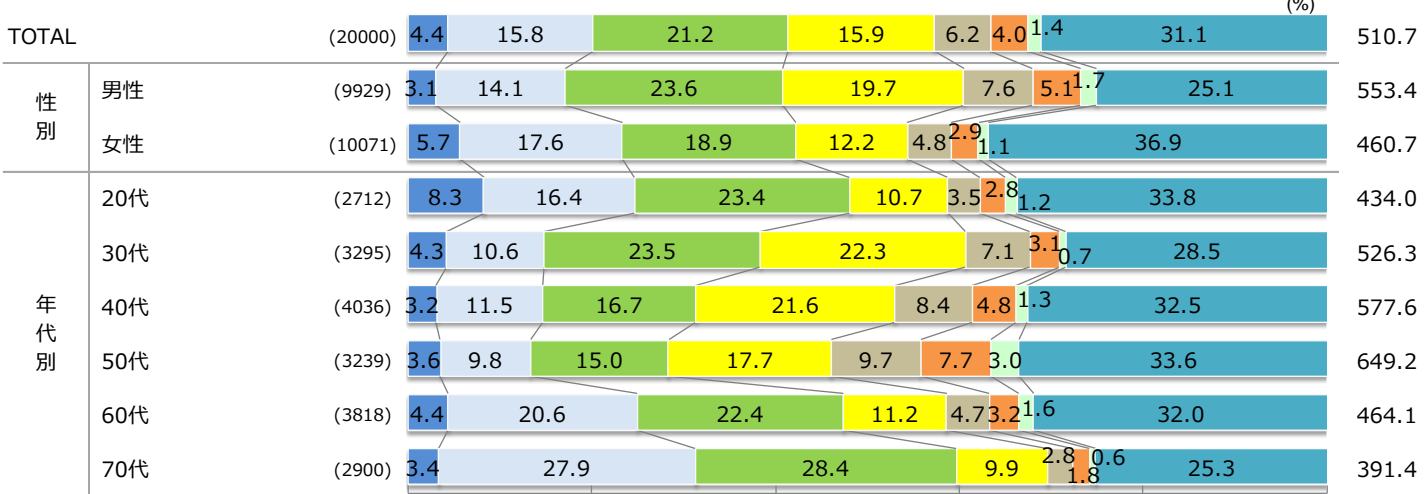
#### (5) 世帯年収〔Q31①：単数回答〕

- 世帯年収は「300～500万円未満」が21.2%とやや多く、『800万円未満』合計で半数以上(57.3%)を占める。また、平均値は「510.7万円」と前回と同程度となる。〔図3-15〕
- 投資信託の保有状況別や保有種類別で世帯年収の平均をみると、現在保有層、中でも株式投資信託保有層で高くなる。〔図3-17〕

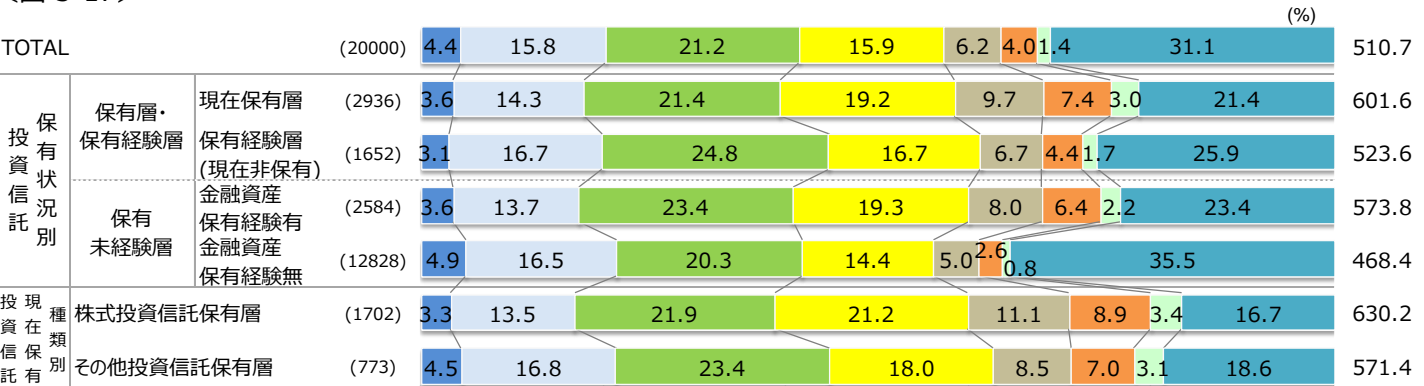
〔図 3-15〕



〔図 3-16〕



〔図 3-17〕

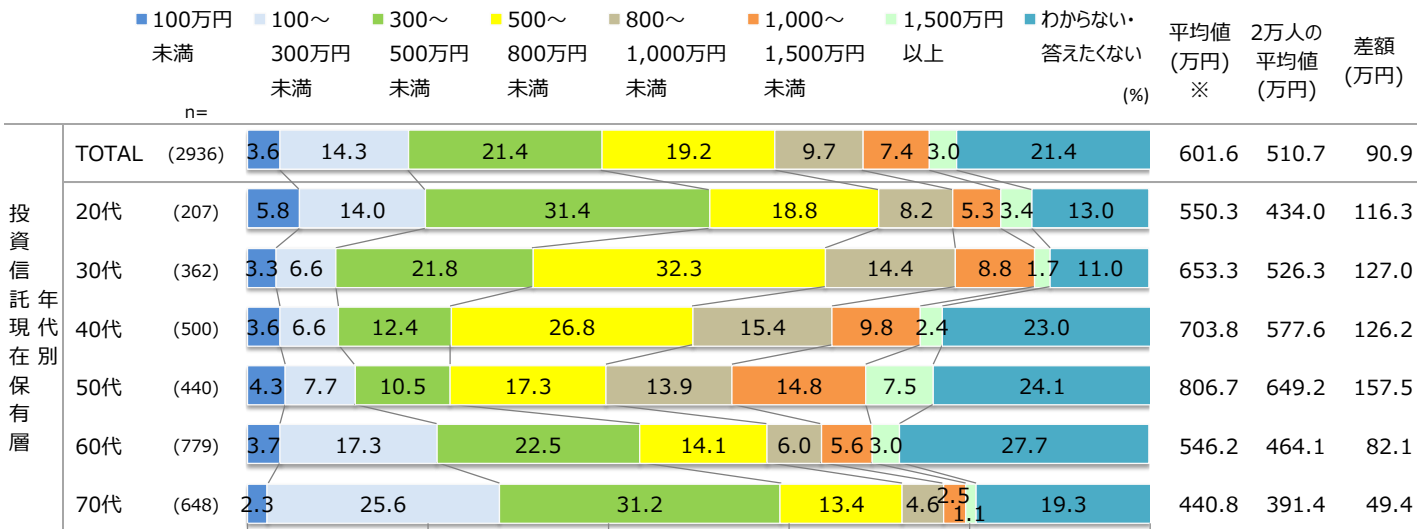


※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り  
 100万円未満：50万円 / 100～300万円未満：200万円 / 200～500万円未満：400万円 / 500～800万円未満：650万円  
 800万円～1000万円未満：900万円 / 1000～1500万円未満：1250万円 / 1500万円以上：1750万円

### 3. 回答者のプロフィール

#### (5) 世帯年収〔Q31①：単数回答〕

〔図 3-18〕



※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り

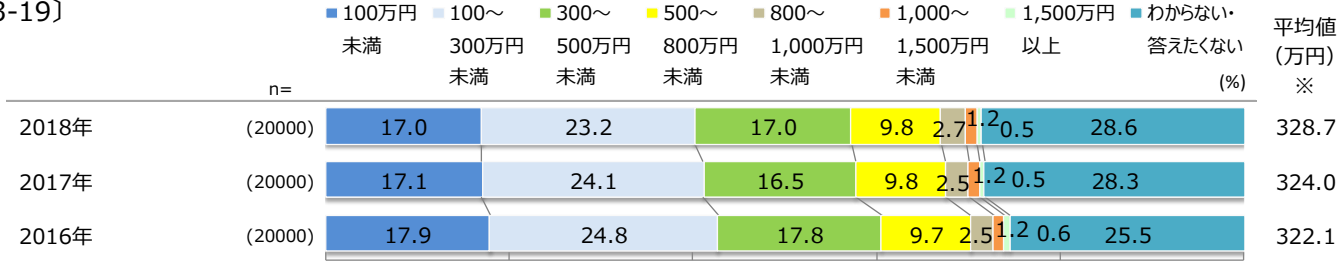
100万円未満：50万円 / 100～300万円未満：200万円 / 200～500万円未満：400万円 / 500～800万円未満：650万円  
 800万円～1000万円未満：900万円 / 1000～1500万円未満：1250万円 / 1500万円以上：1750万円

### 3. 回答者のプロフィール

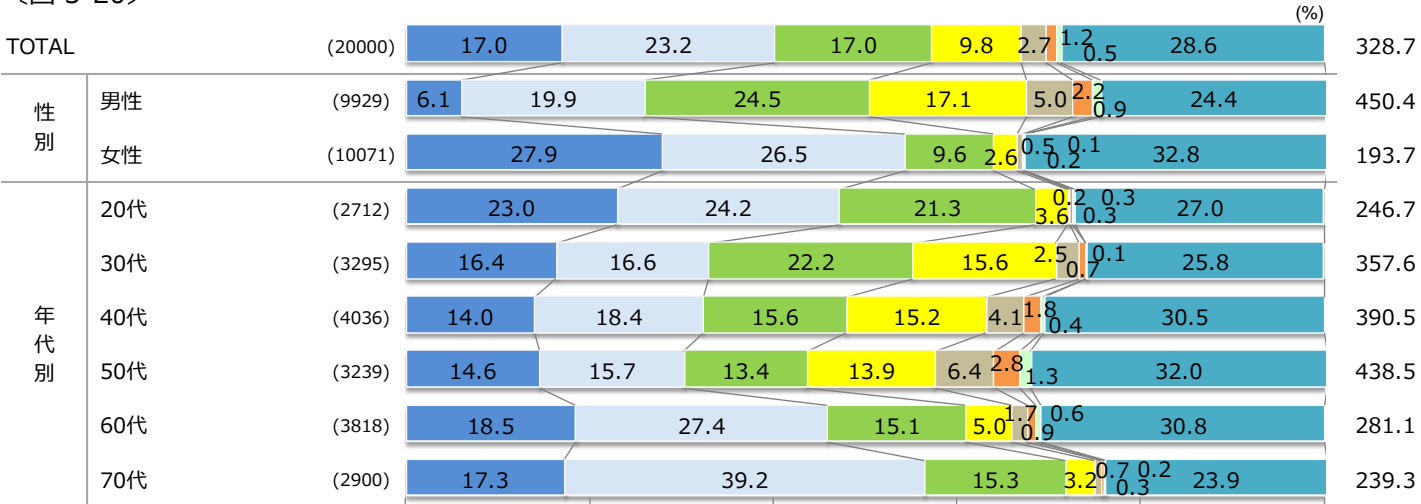
#### (6) 個人年収〔Q31②：単数回答〕

- 個人年収は「100～300万円未満」が23.2%とやや多く、『500万円未満』合計で57.2%を占める。また、平均値は「328.7万円」と前回と同程度だが、年を追う毎に増加する傾向。〔図3-19〕
- 投資信託の保有状況別や保有種類別で個人年収の平均をみると、世帯年収と同様に、現在保有層、株式投資信託保有層で高くなる。〔図3-21〕

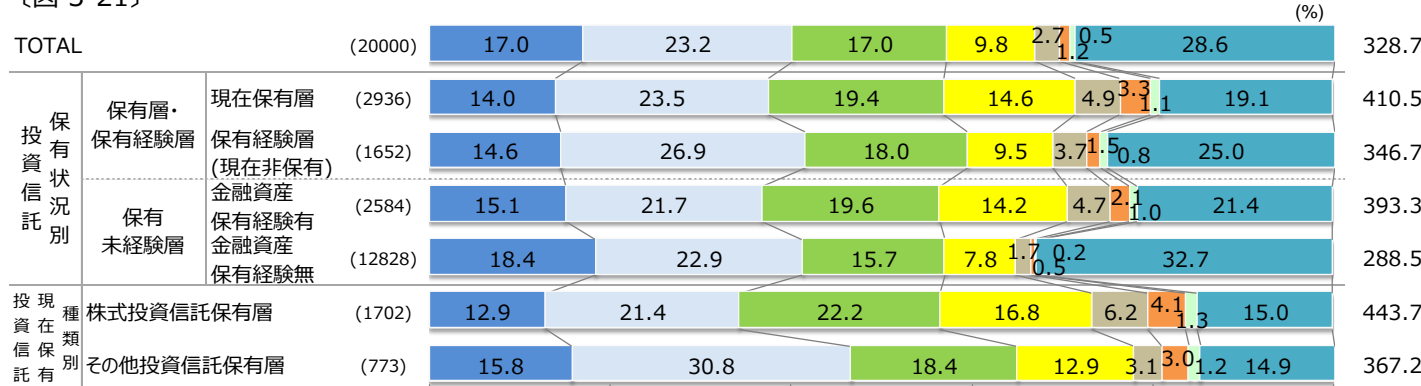
〔図 3-19〕



〔図 3-20〕



〔図 3-21〕



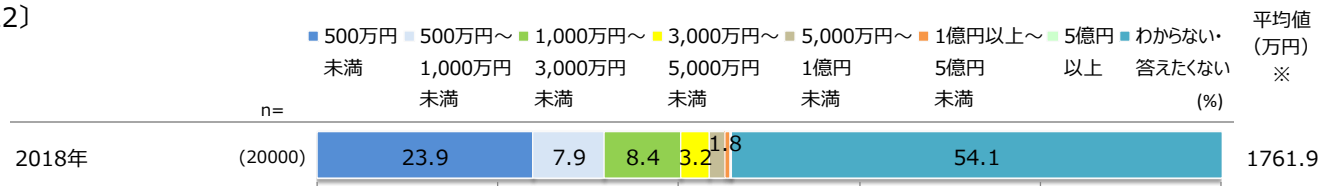
※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り  
 100万円未満：50万円 / 100～300万円未満：200万円 / 200～500万円未満：400万円 / 500～800万円未満：650万円  
 800万円～1000万円未満：900万円 / 1000～1500万円未満：1250万円 / 1500万円以上：1750万円

### 3. 回答者のプロフィール

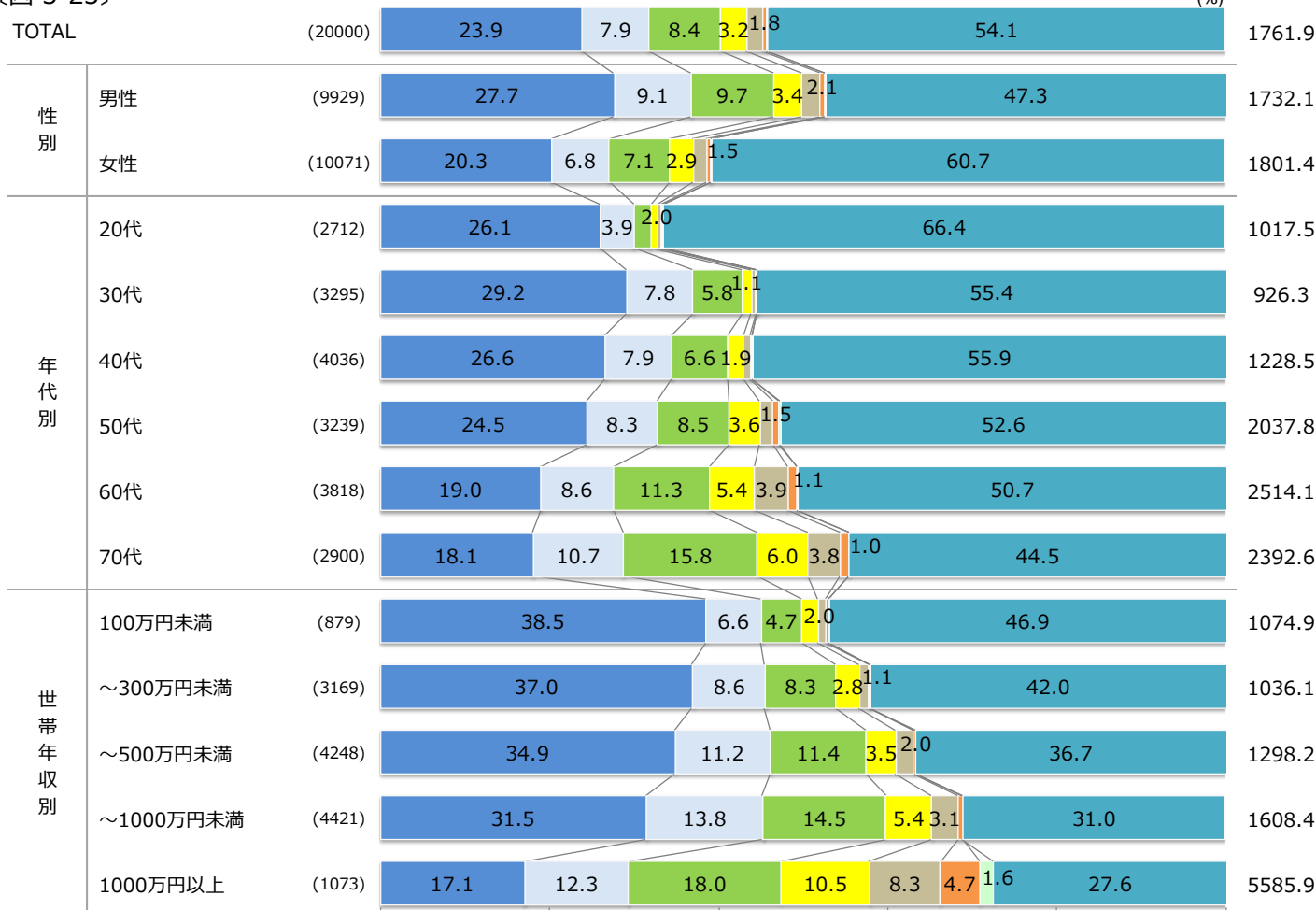
#### (7) 保有金融資産額〔Q32:単数回答〕

- 保有金融資産額は「500万円未満」が23.9%とやや多く、『3,000万円未満』合計で40.2%を占める。また、平均値は「1761.9万円」となる。〔図3-22〕
- 投資信託の保有状況別や保有種類別で保有金融資産額の平均をみると、現在保有層で高くなる。〔図3-24〕

〔図 3-22〕



〔図 3-23〕



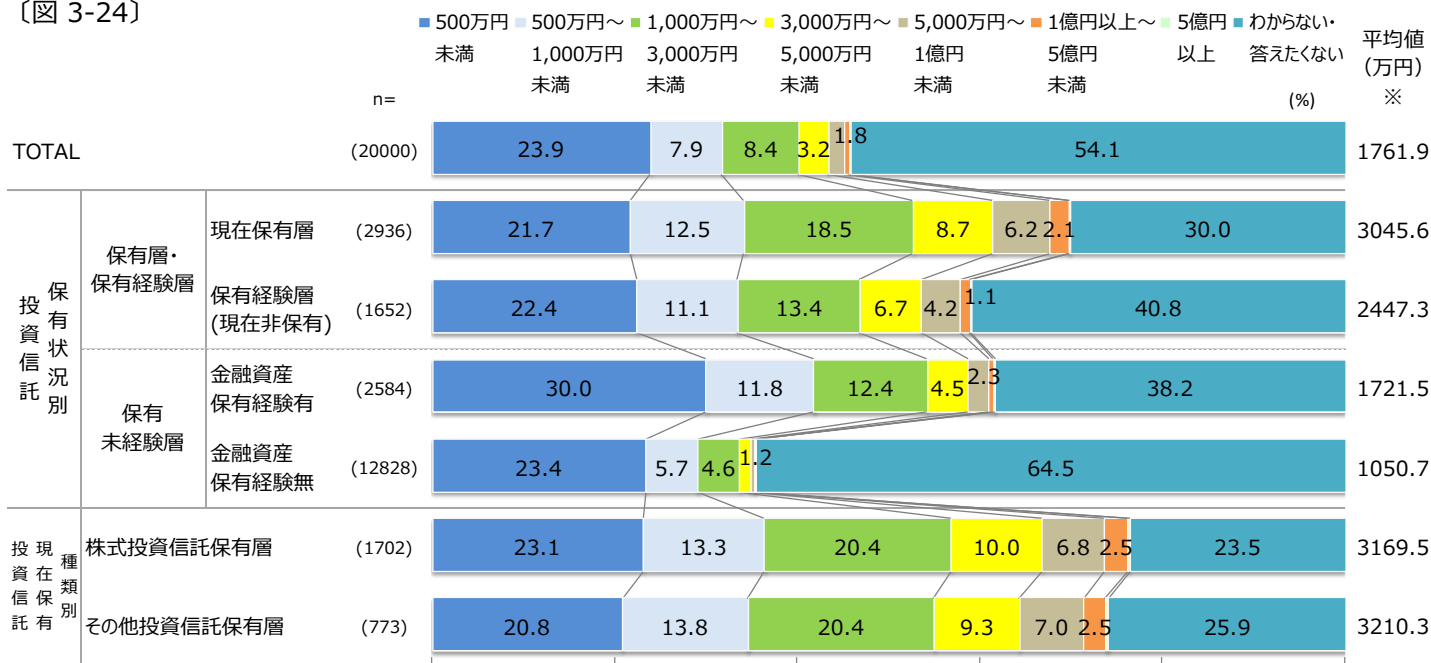
※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあつてのウエイト値は以下の通り

500万円未満：250万円 / 500～1000万円未満：750万円 / 1000～3000万円未満：2000万円  
 5000万円～1億円未満：7500万円 / 1億円～5億円未満：3億円 / 5億円以上：7億円

### 3. 回答者のプロフィール

#### (7) 保有金融資産額〔Q32:単数回答〕

〔図 3-24〕



※1%未満は非表示

※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあつてのウエイト値は以下の通り

500万円未満：250万円 / 500～1000万円未満：750万円 / 1000～3000万円未満：2000万円  
5000万円～1億円未満：7500万円 / 1億円～5億円未満：3億円 / 5億円以上：7億円

## **4. 投資信託保有狀況（現在保有層）**

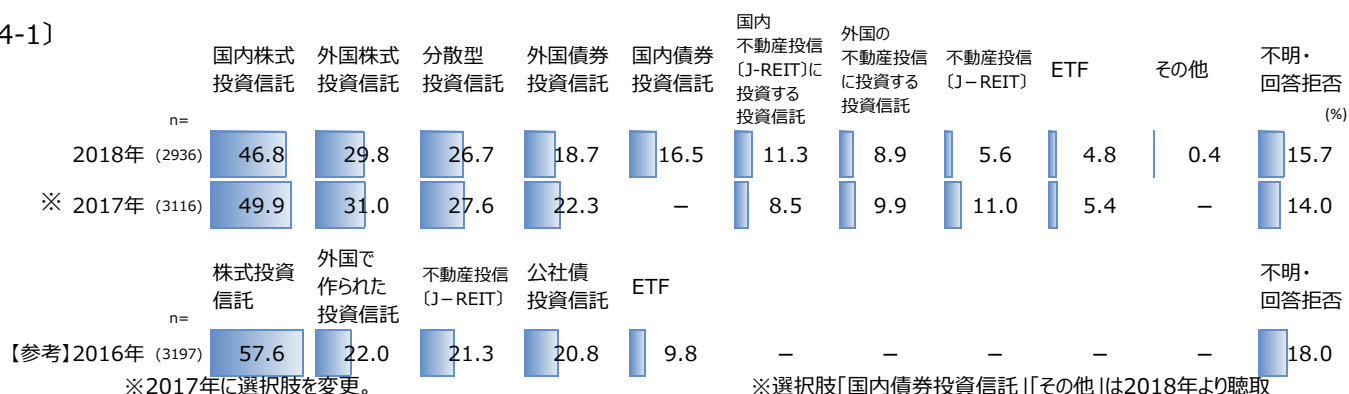


## 4. 投資信託保有状況（現在保有層）

### (1) 投資信託の保有種類〔Q5:重複回答〕

- 現在保有している投資信託の種類は、「国内株式投資信託」が46.8%で最多。次いで「外国株式投資信託」(29.8%)、「分散型投資信託」(26.7%)、「外国債券投資信託」(18.7%)、「国内債券投資信託」(16.5%)が続く。〔図4-1〕
- 年代別で保有率をみると、「国内株式投資信託」「外国株式投資信託」「国内債券投資信託」「ETF」は20代の保有率が最も高く、年代が上がるにつれ低くなる傾向。「外国債券投資信託」は30代、70代で高い。「外国の不動産投信に投資する投資信託」は30代で高い。〔図4-2〕
- また、投資信託の平均保有数は2.01種類となる〔図4-3〕

〔図 4-1〕



〔図 4-2〕

	国内株式投資信託	外国株式投資信託	分散型投資信託	外国債券投資信託	国内債券投資信託	国内不動産投信(J-REIT)に投資する投資信託	外国の不動産投信に投資する投資信託	不動産投信(J-REIT)	ETF	その他	不明・回答拒否 (%)
TOTAL (2936)	46.8	29.8	26.7	18.7	16.5	11.3	8.9	5.6	4.8	0.4	15.7
性別											
男性 (1659)	52.4	33.8	26.3	19.7	18.4	12.2	10.2	6.1	6.3	0.4	11.9
女性 (1277)	39.4	24.7	27.3	17.4	14.0	10.1	7.1	5.0	2.9	0.4	20.6
年代別											
20代 (207)	62.8	42.0	26.1	15.5	23.7	11.6	7.7	7.2	10.1	0.5	10.1
30代 (362)	51.9	37.0	22.9	20.7	18.5	11.3	11.3	5.5	7.5	0.3	13.8
40代 (500)	49.0	34.4	24.6	15.0	17.6	10.0	6.8	4.2	4.2	0.0	19.4
50代 (440)	48.2	26.6	28.6	17.7	15.9	9.8	8.6	4.3	4.1	0.5	17.0
60代 (779)	42.7	27.3	29.1	18.5	14.8	12.6	8.9	6.4	3.7	0.6	15.4
70代 (648)	40.9	23.5	26.5	22.4	14.8	11.6	9.6	6.2	4.0	0.3	15.1
世帯年収別											
100万円未満 (105)	44.8	21.9	26.7	14.3	16.2	10.5	8.6	6.7	3.8	1.9	13.3
~300万円未満 (421)	42.8	25.9	28.5	15.2	14.0	9.7	5.0	6.2	2.6	0.2	14.5
~500万円未満 (629)	46.6	31.2	28.1	20.7	14.6	10.5	9.4	6.4	5.6	0.6	11.9
~1000万円未満 (847)	52.9	33.8	28.0	21.1	19.1	14.6	11.0	5.9	5.5	0.1	11.0
1000万円以上 (305)	58.7	38.7	29.5	24.9	24.9	13.4	12.5	6.2	9.2	0.3	5.6

〔図 4-3〕【投資信託の保有種類別回答者数と、平均保有数】

	国内株式投資信託	外国株式投資信託	分散型投資信託	外国債券投資信託	国内債券投資信託	国内不動産投信(J-REIT)に投資する投資信託	外国の不動産投信に投資する投資信託	不動産投信(J-REIT)	ETF	その他	平均保有数(種類) ※2
TOTAL(n=2475) ※1	1373	875	785	549	485	331	260	165	142	11	2.01

※1 投信保有者(n=2936)から「種類不明・回答拒否」(n=461)を控除。

※2 平均保有数は、保有種類別回答者数の延べの総数を、n=2475で割って算出。

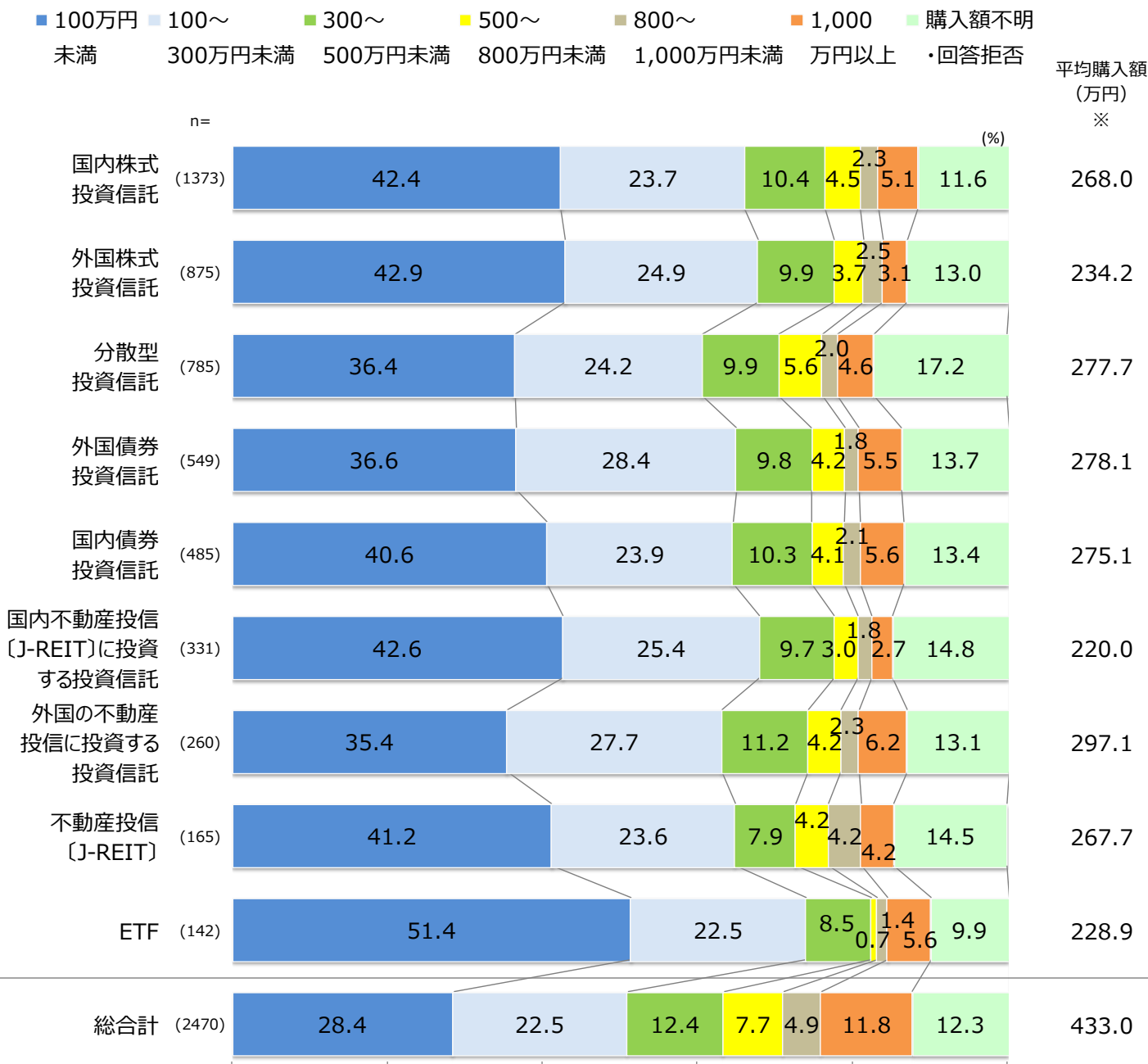


## 4. 投資信託保有状況（現在保有層）

### (2) 投資信託の購入額〔Q6:単数回答-各種類現在保有層ベース〕

- 現在保有している投資信託の平均購入額は、総合計では「433.0万円」となる。  
種類別に平均購入額をみると、「外国の不動産投信に投資する投資信託」が297.1万円で最も高く、「外国債券投資信託」「分散型投資信託」「国内債券投資信託」が270万円台で続く。

〔図 4-4〕 〔図4-4〕



※ 平均値は「購入額不明・回答拒否」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り

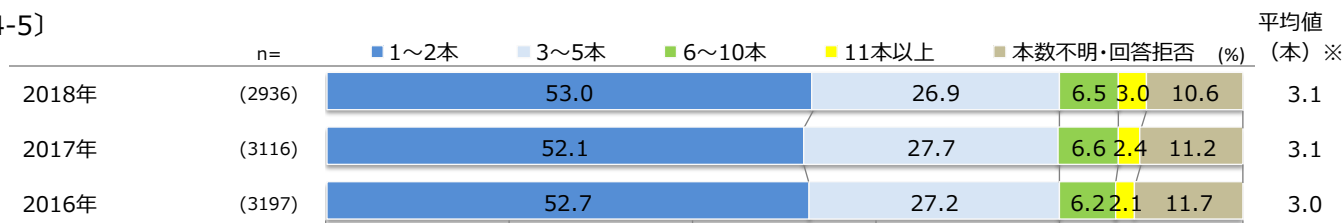
100万円未満：50万円 / 100~300万円未満：200万円 / 200~500万円未満：400万円 / 500~800万円未満：650万円 / 800~1000万円未満：900万円 / 1000万円以上：1500万円

## 4. 投資信託保有状況（現在保有層）

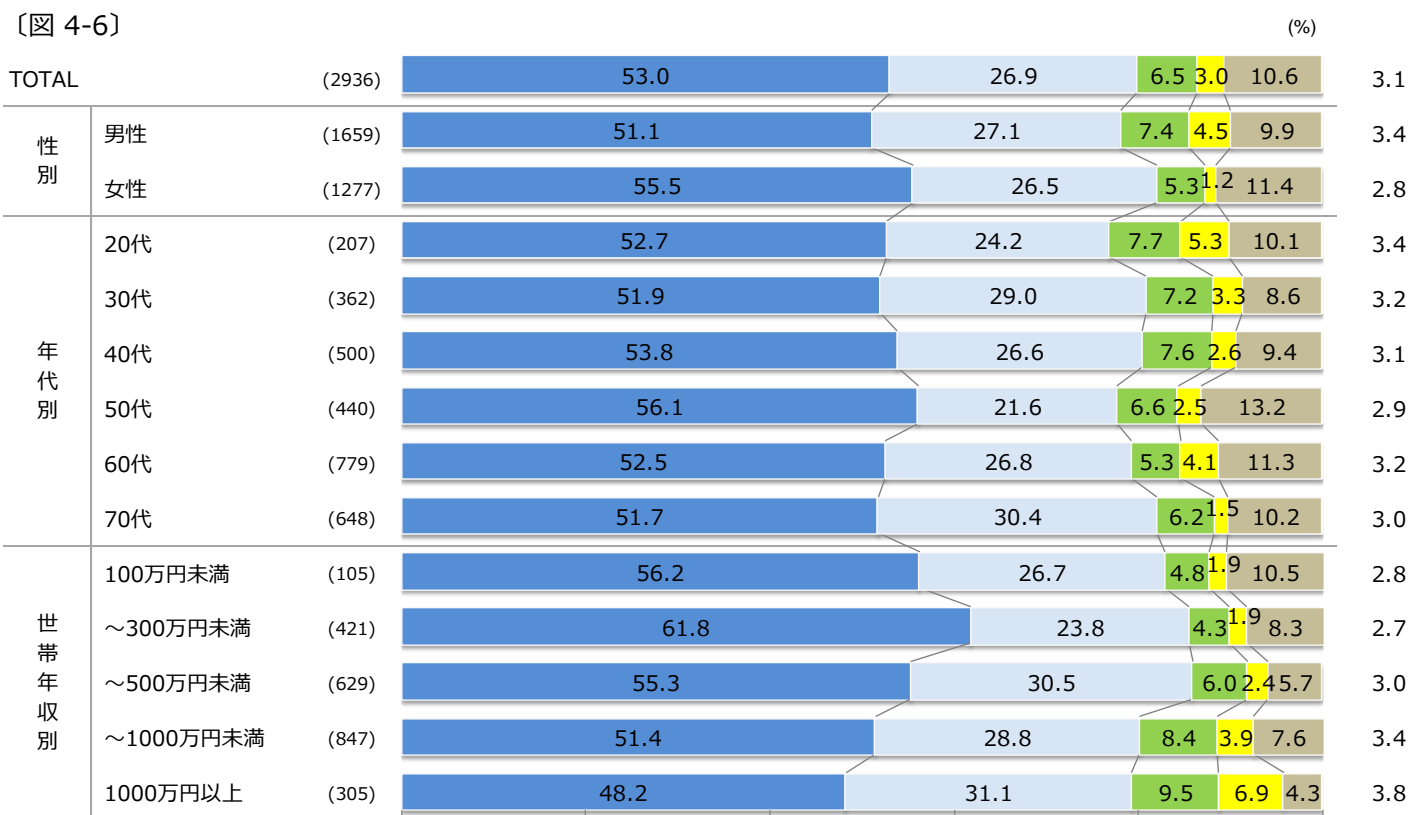
### (3) 現在保有している投資信託の本数〔Q3:単数回答〕

- 現在保有している投資信託の保有本数は、「1～2本」(53.0%)で半数以上、平均3.1本となり、前回と大きな差は見られない。〔図4-5〕
- 年代別で平均保有本数に大きな差はみられないが、世帯年収別では高年収層ほど多くなる。〔図4-6〕
- 投信保有種類別では、株式投信保有層で平均保有本数(3.6本)が多くなる。〔図4-7〕

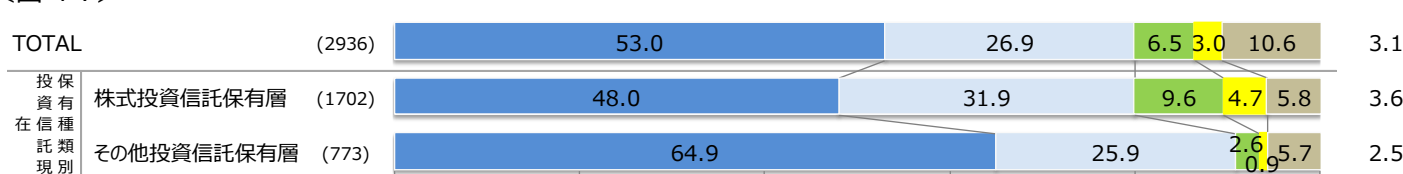
〔図 4-5〕



〔図 4-6〕



〔図 4-7〕



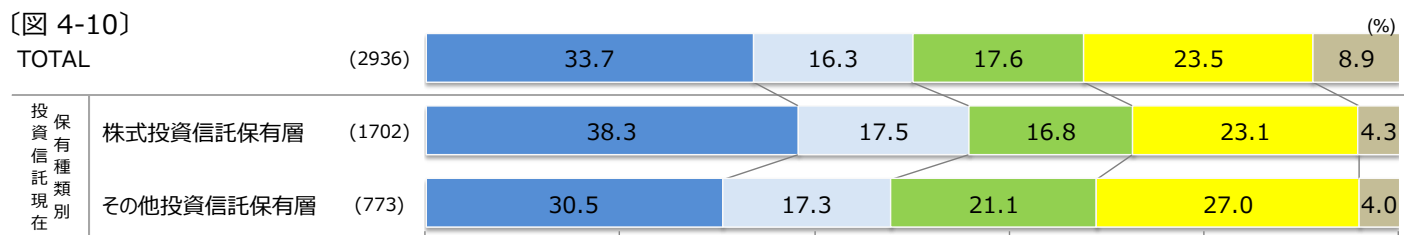
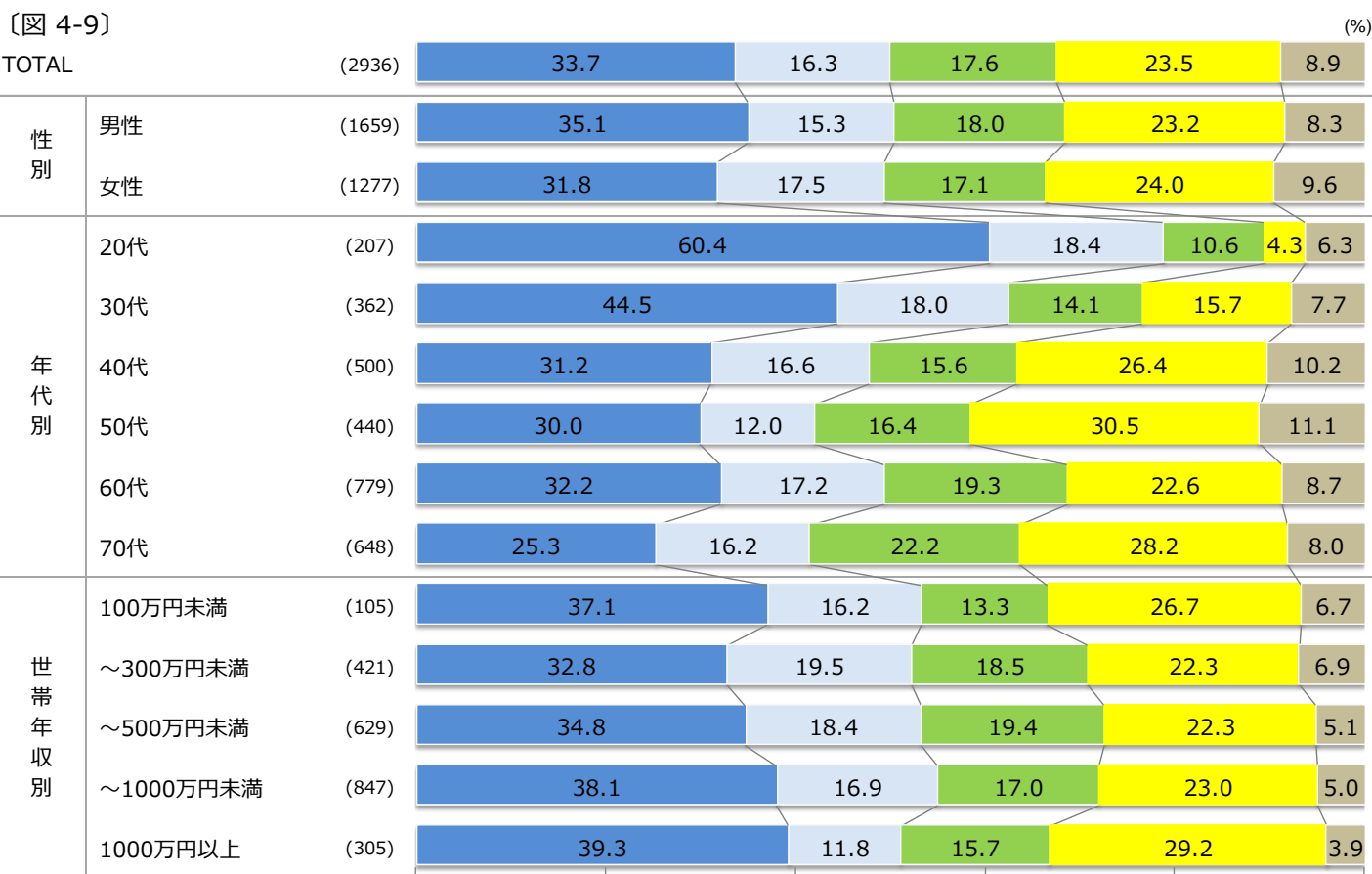
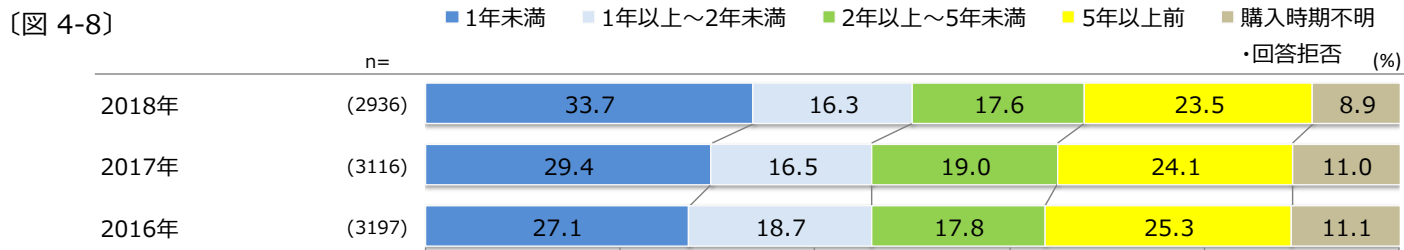
※ 平均値は「本数不明・回答拒否」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り

1～2本：1.5本 / 3～5本：4本 / 6～10本：8本 / 11本以上：13本

## 4. 投資信託保有状況（現在保有層）

### （4）投資信託商品の直近購入時期〔Q4:単数回答〕

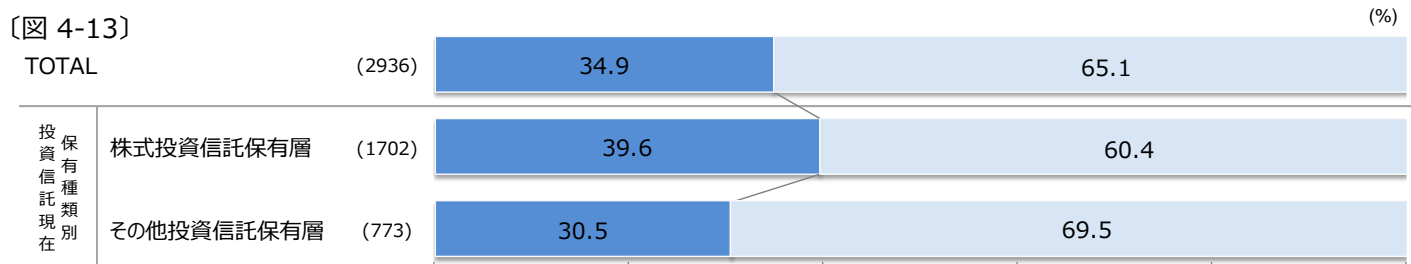
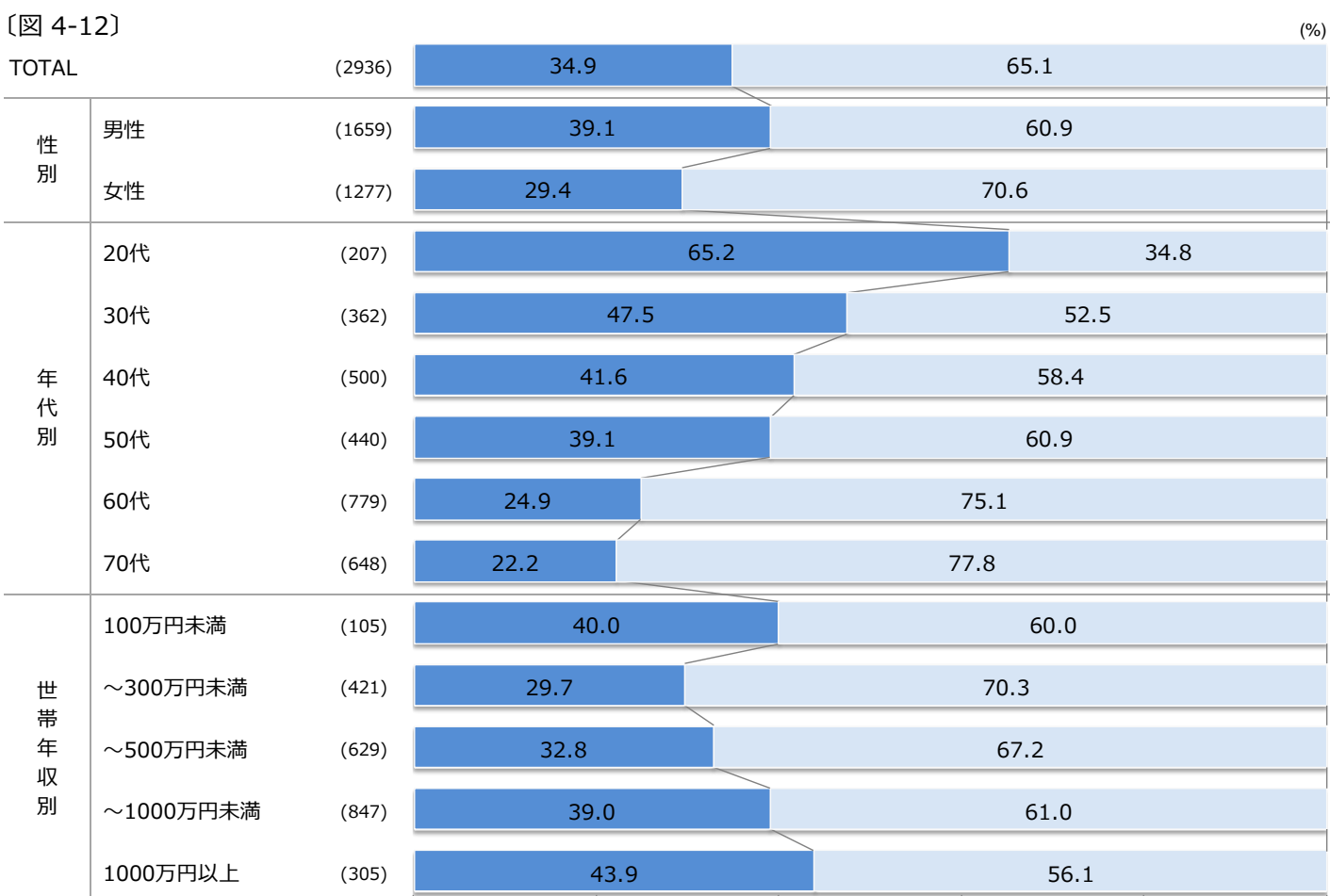
- 直近の購入時期は「1年未満」(33.7%)が前回(29.4%)より4.3ポイント増加。〔図4-8〕
- 「1年未満」の購入率は、若年層ほど高くなる傾向。〔図4-9〕
- 投信保有種類別では、株式投信保有層で「1年未満」の購入率が高い。〔図4-10〕



## 4. 投資信託保有状況（現在保有層）

### （5）投資信託の積立投資の利用状況〔Q17:単数回答〕

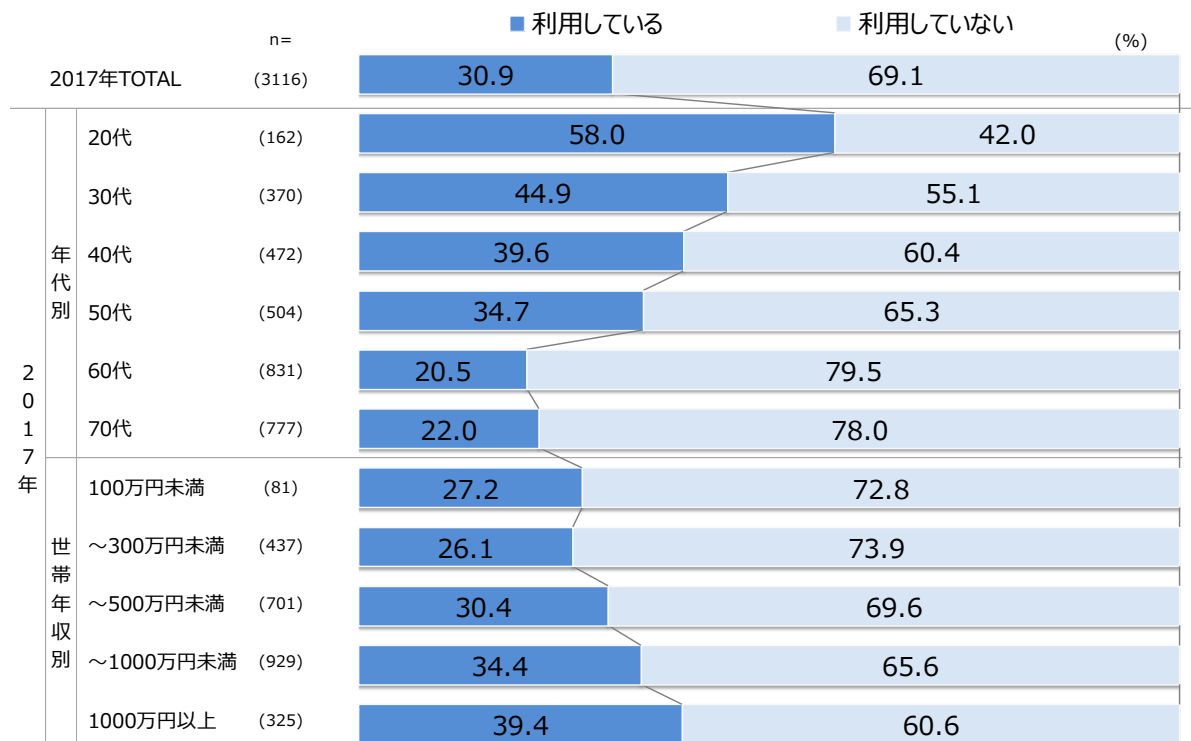
- 積立投資利用率は、34.9%と前回(30.9%)に比べ4.0ポイント増加。〔図4-11〕
- 若年層ほど積立投資利用率は高くなる傾向。20代は65.2%と高く、2016年から13.3ポイント増加。〔図4-12〕〔図4-15〕
- 投信保有種類別では、株式投信保有層で積立投資利用率が高い。〔図4-13〕



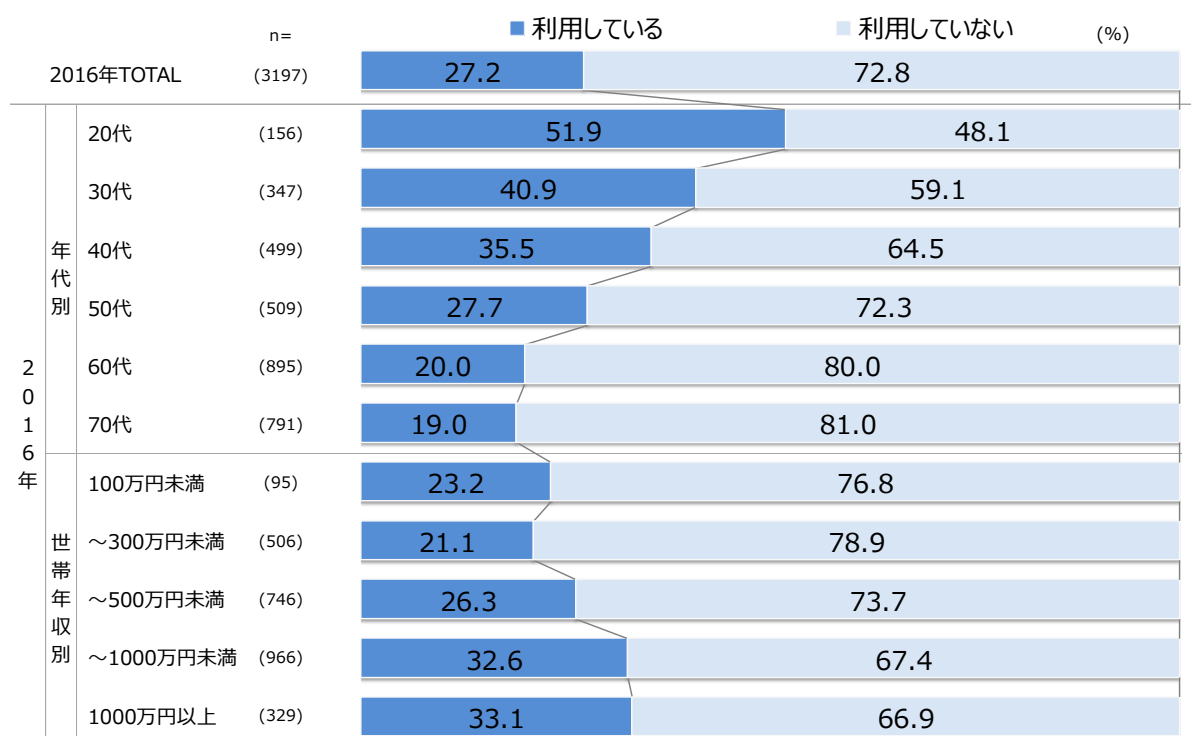
## 4. 投資信託保有状況（現在保有層）

### (5) 投資信託の積立投資の利用状況〔Q17:単数回答〕

〔図 4-14〕 2017年度結果 年代別、世帯年収別



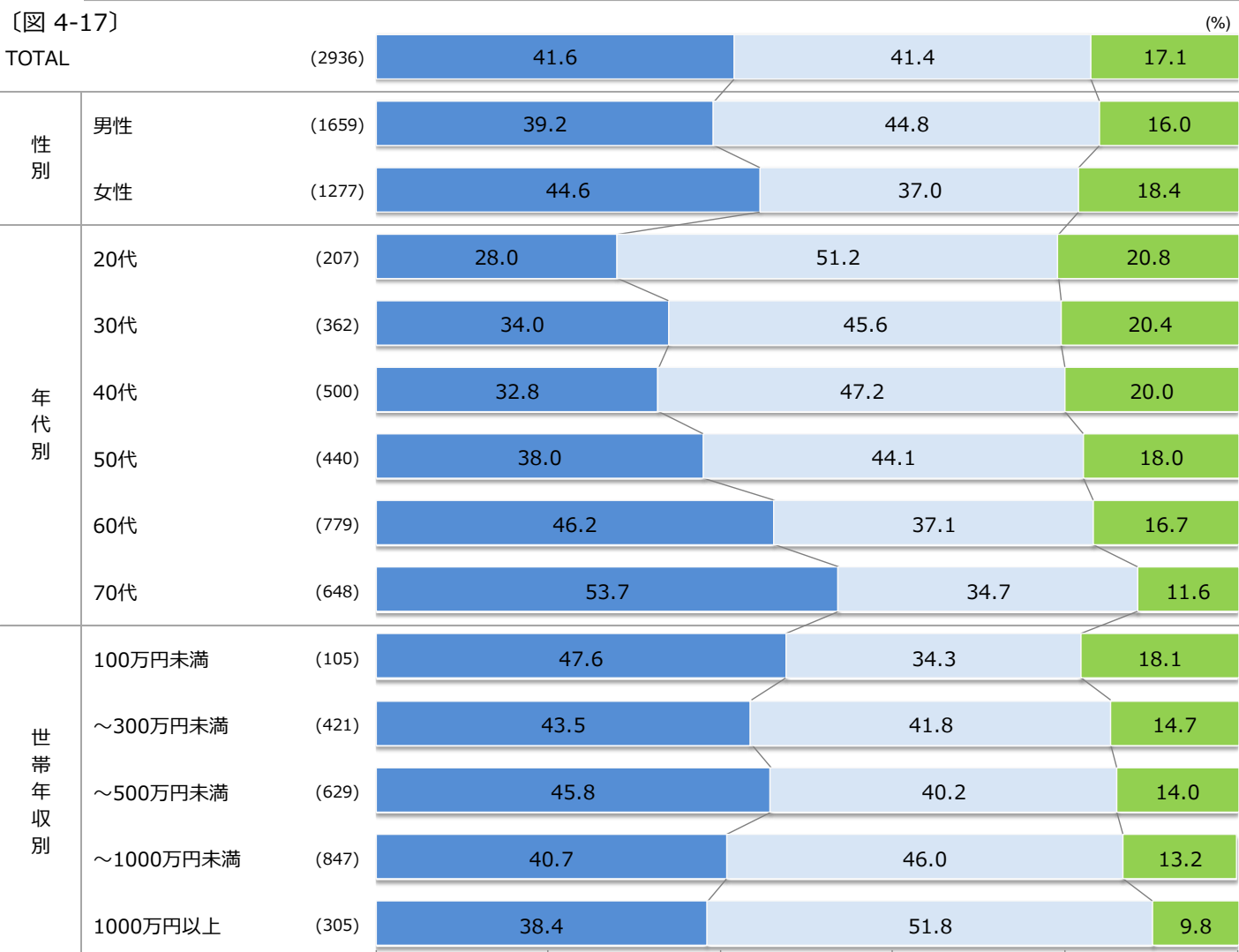
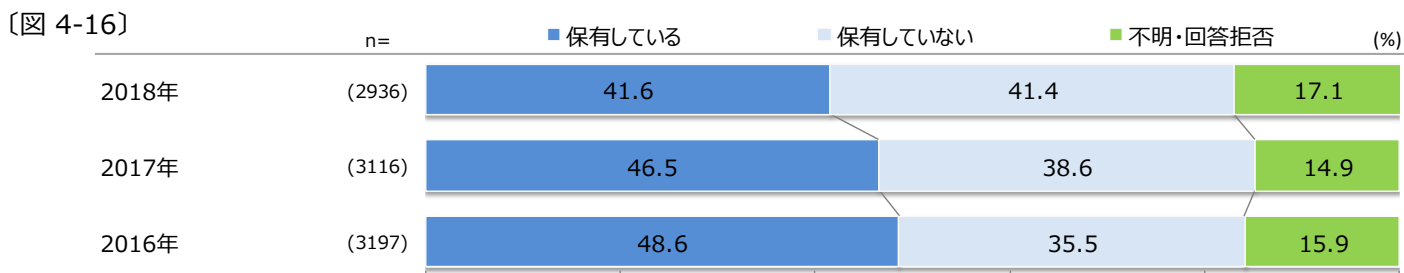
〔図 4-15〕 2016年度結果 年代別、世帯年収別



## 4. 投資信託保有状況（現在保有層）

### （6）毎月分配型投資信託の保有状況〔Q20:単数回答〕

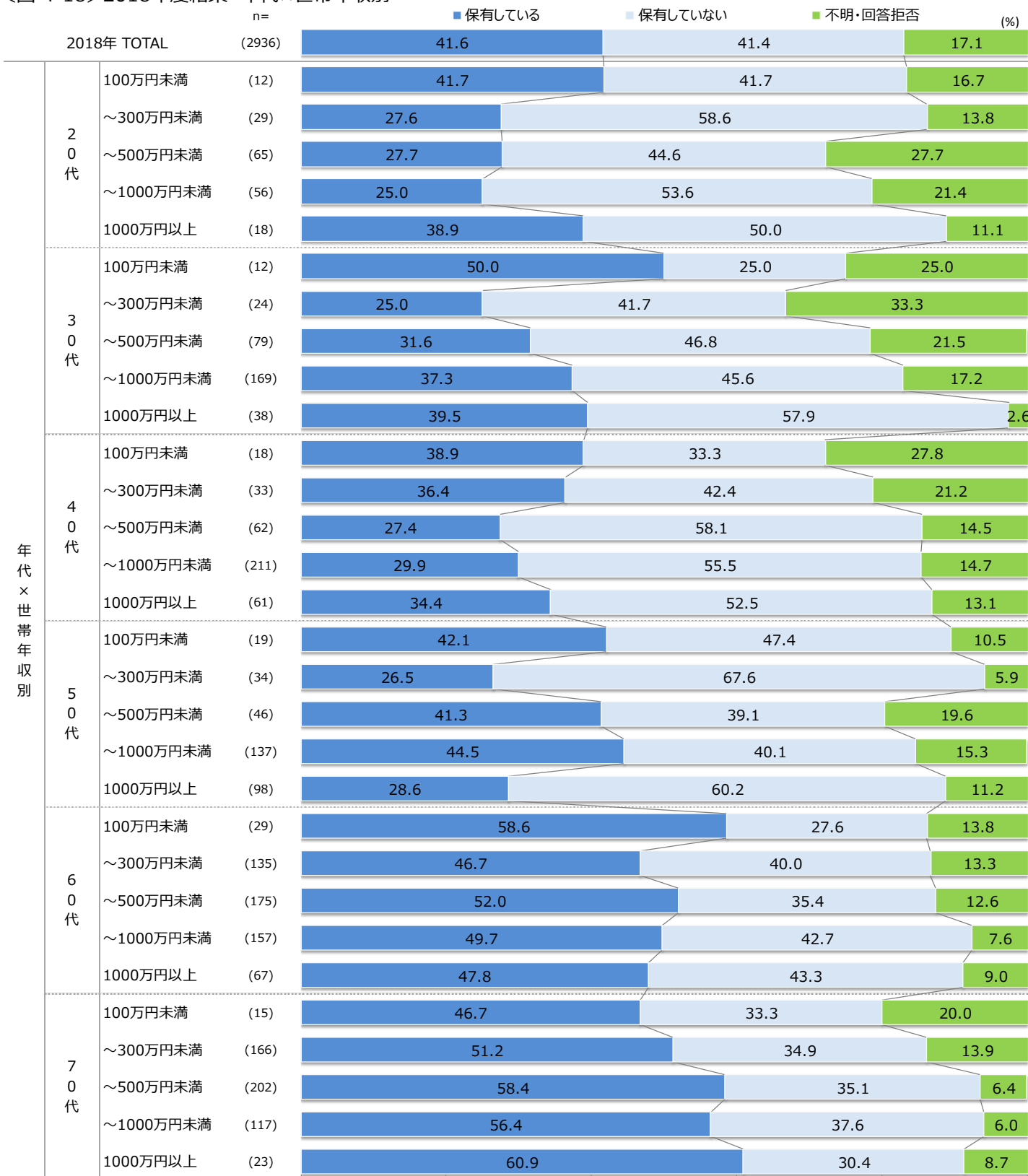
- 現在投資信託保有層のうち、毎月分配型投資信託（1ヶ月毎に決算を行い、収益などの一部を分配金として毎月分配する分配方針のもの）の保有率は41.6%と、前回(46.5%)より4.9ポイント減少。〔図4-16〕
- 属性別では、女性(44.6%)の方が高く、また年代が上がるにつれ保有率が増加する傾向。一方で世帯年収別では、年収の増加と共に保有率が減少する傾向。〔図4-17〕



# 4. 投資信託保有状況（現在保有層）

## (6) 毎月分配型投資信託の保有状況〔Q20:単数回答〕

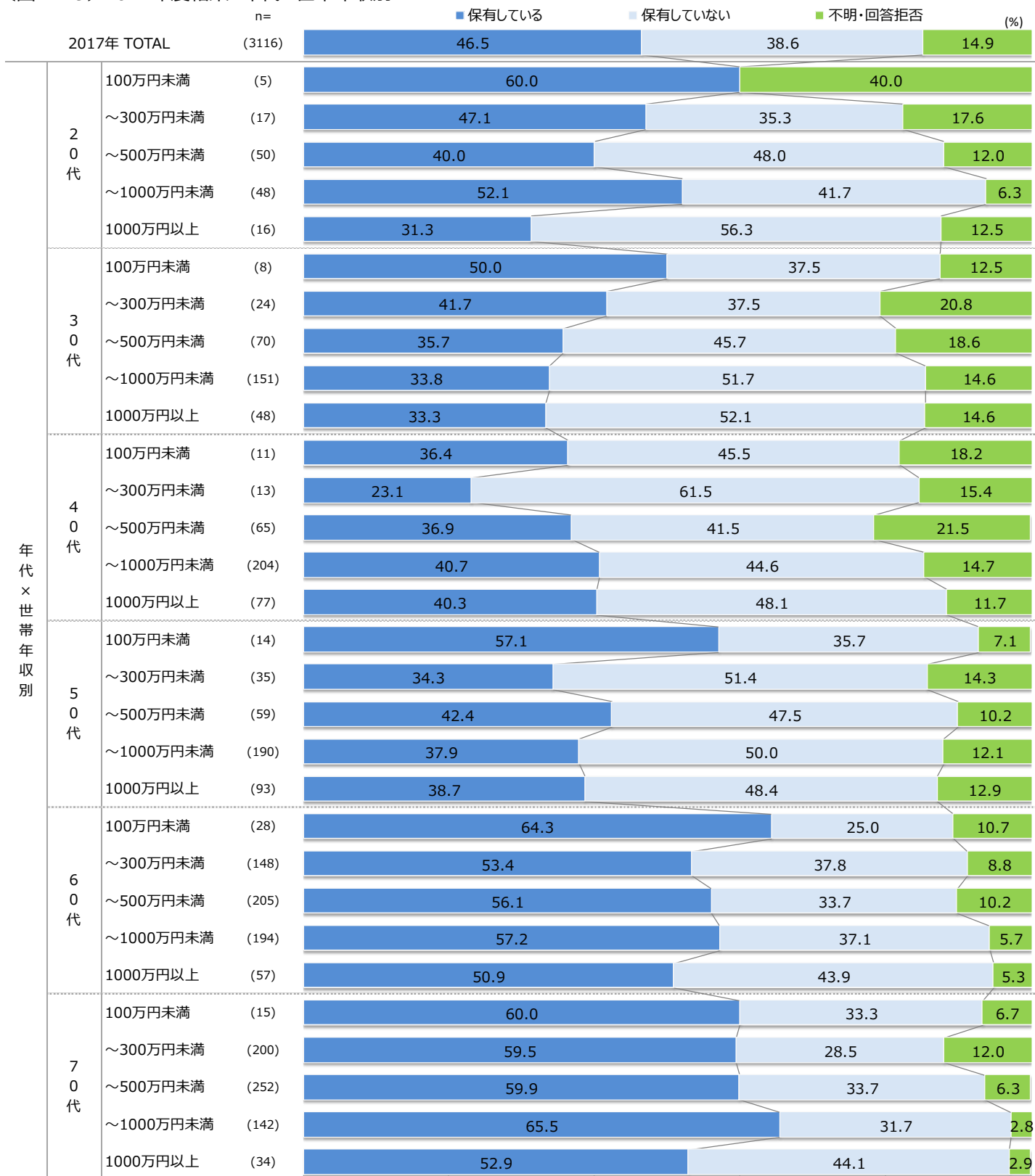
〔図 4-18〕 2018年度結果 年代×世帯年収別



# 4. 投資信託保有状況（現在保有層）

## (6) 毎月分配型投資信託の保有状況〔Q20:単数回答〕

〔図 4-19〕 2017年度結果 年代×世帯年収別

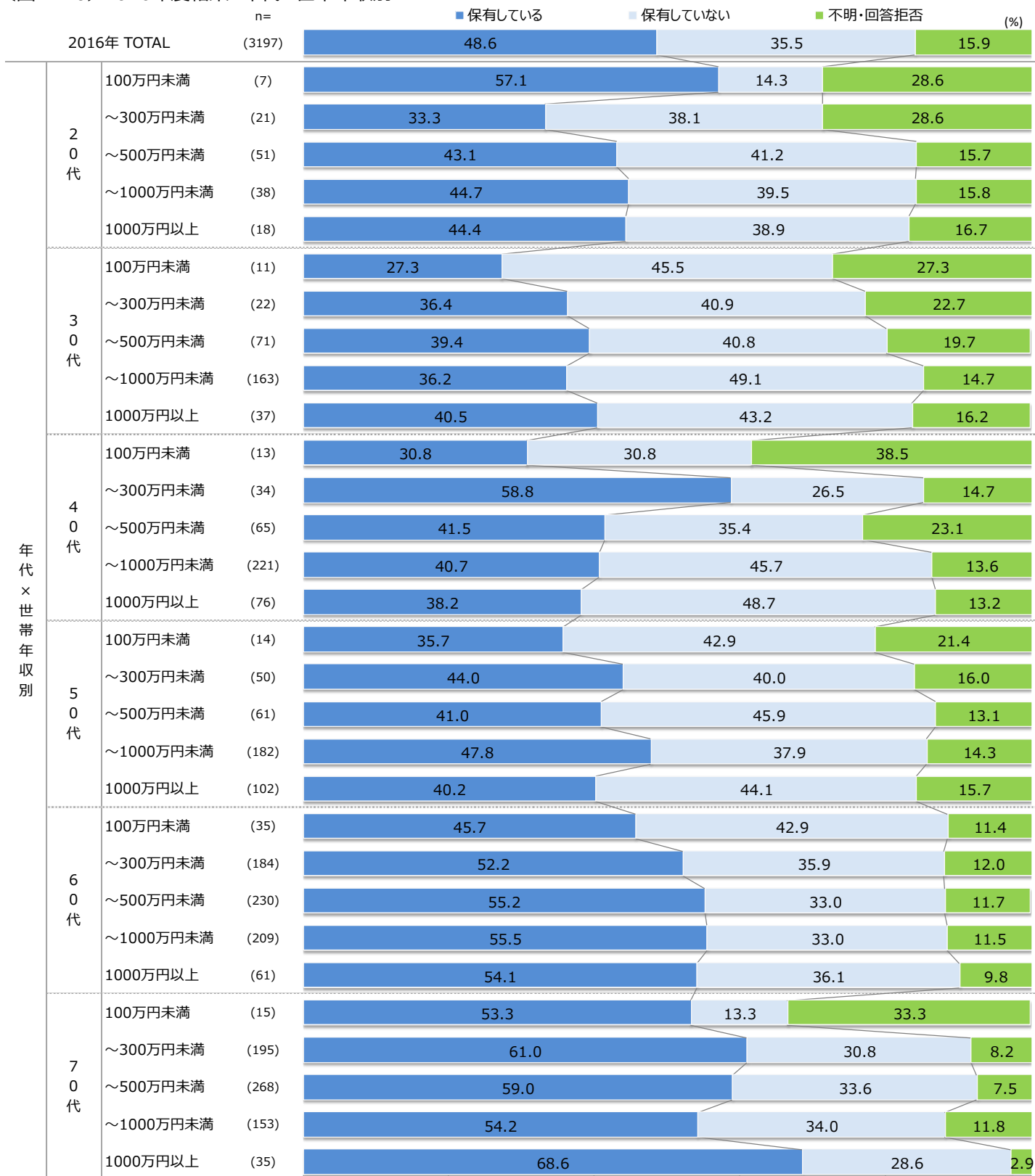




# 4. 投資信託保有状況（現在保有層）

## (6) 毎月分配型投資信託の保有状況〔Q20:単数回答〕

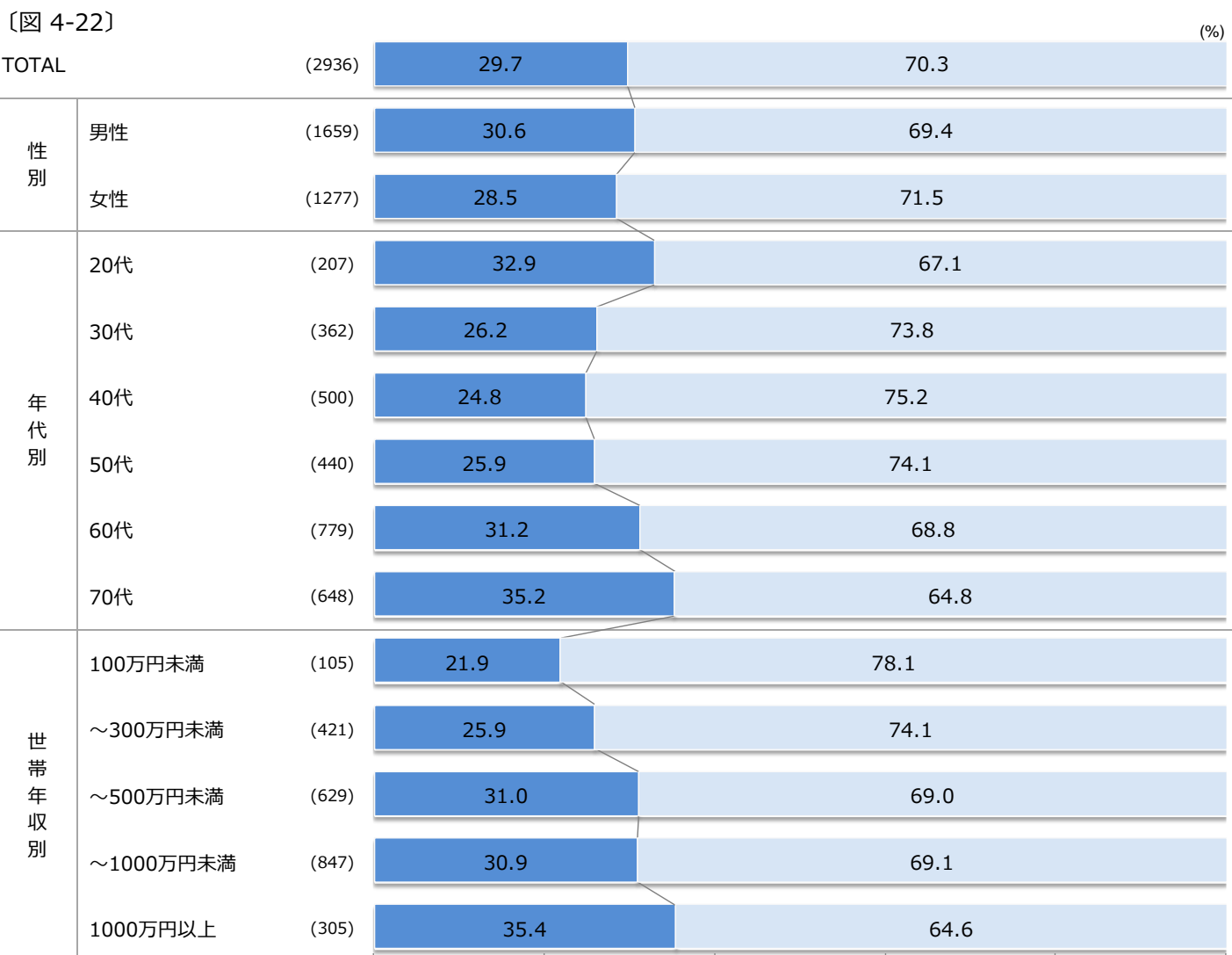
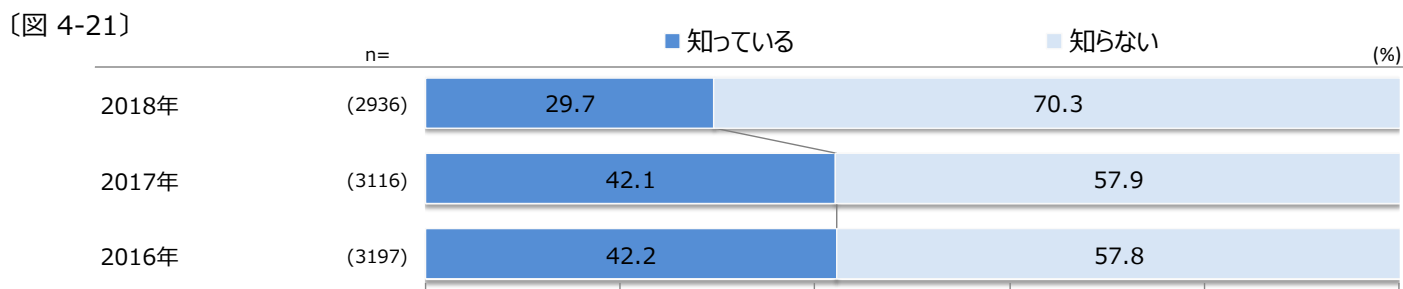
〔図 4-20〕 2016年度結果 年代×世帯年収別




## 4. 投資信託保有状況（現在保有層）

### （7）トータルリターン通知制度の認知状況〔Q24:単数回答〕

- 2014年12月から実施の「投資信託の投資期間全体の損益（トータルリターン）通知制度」の現在投資信託保有層での認知率は、29.7%と前回(42.1%)より大幅な減少。〔図4-21〕
- 年代別では70代が35.2%と最も高く、次いで20代、60代が30%台で続く。30～50代は30%に届かず、他年代に比べ低い。〔図4-22〕



## **5. 投資信託購入状況 (現在保有層・保有経験層)**



## 5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

### （1）投資信託の興味・関心・購入のきっかけ〔Q8：重複回答〕

- 興味・関心・購入のきっかけは、「金融機関の人に勧められて」(52.5%)が突出して高い。次いで「経済的に余裕ができたので」(13.7%)、「インターネットで見たり調べたりして」(12.5%)、「家族や友人などから話を聞いて」(11.6%)があがる他は、いずれも10%に満たない反応。〔図5-1〕
- 年代別で見ると、「金融機関の人に勧められて」は高齢層ほど高くなる傾向。また、「インターネットで見たり調べたりして」「少額投資非課税制度が始まったので」「投資信託に関する本を読んで」「確定拠出年金で投資信託を選択したことで興味を持った」は40代以下で高くなる傾向。〔図5-2〕
- 投信の現在保有層は、保有経験層に比べ「少額投資非課税制度が始まったので」が高い。〔図5-3〕

〔図 5-1〕

	n=	金融機関の人に勧められて	経済的に余裕ができたので	インターネットで見たり調べたりして	家族や友人などから話を聞いて	少額投資非課税制度が始まったので	景気や市場の状況を見て	投資信託の商品広告などをみて	投資信託に関する本を読んで	新聞、雑誌などの投資信託の記事を見て	確定拠出年金で投資信託を選択したことで興味を持った	DMを見たり、電話案内を聞いて	講演会やセミナーなどで話を聞いて	確定拠出年金で投資信託を選択したことで	その他
2018年	(4588)	52.5	13.7	12.5	11.6	9.9	8.2	7.3	7.2	6.2	6.1	5.6	4.7	1.8	3.4

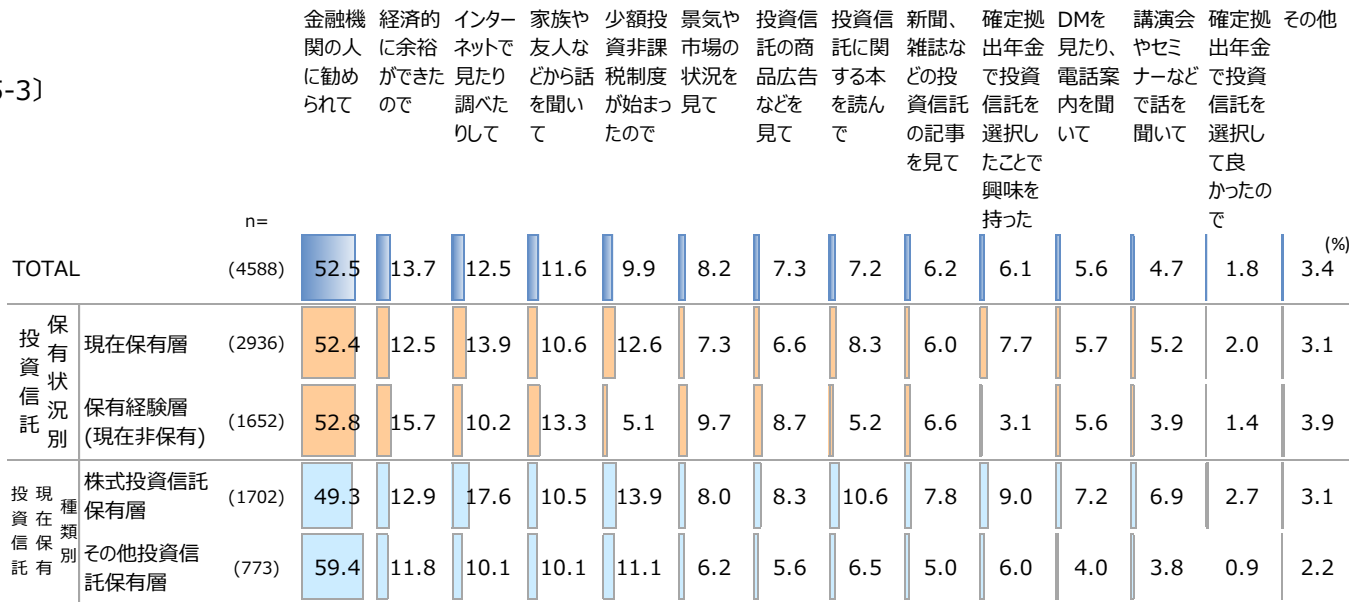
〔図 5-2〕

	n=	金融機関の人に勧められて	経済的に余裕ができたので	インターネットで見たり調べたりして	家族や友人などから話を聞いて	少額投資非課税制度が始まったので	景気や市場の状況を見て	投資信託の商品広告などをみて	投資信託に関する本を読んで	新聞、雑誌などの投資信託の記事を見て	確定拠出年金で投資信託を選択したことで興味を持った	DMを見たり、電話案内を聞いて	講演会やセミナーなどで話を聞いて	確定拠出年金で投資信託を選択したことで	その他
TOTAL	(4588)	52.5	13.7	12.5	11.6	9.9	8.2	7.3	7.2	6.2	6.1	5.6	4.7	1.8	3.4
性別															
男性	(2526)	44.5	14.3	17.3	8.4	11.0	10.2	9.2	9.7	8.0	9.1	6.9	5.8	2.5	3.3
女性	(2062)	62.3	12.9	6.7	15.5	8.7	5.7	5.0	4.1	4.0	2.4	4.0	3.4	0.9	3.5
年代別															
20代	(260)	30.8	12.3	28.5	14.6	17.7	8.8	10.4	21.2	9.2	13.1	10.0	9.6	5.4	3.1
30代	(483)	30.0	13.7	25.3	13.3	14.9	8.1	8.3	14.7	7.7	11.2	6.8	5.4	2.7	4.8
40代	(691)	39.1	10.3	18.8	12.0	10.1	7.7	6.4	8.4	6.5	11.3	6.2	3.3	2.9	3.5
50代	(704)	48.4	13.6	10.7	12.1	8.1	8.2	7.5	7.1	6.7	7.2	4.1	3.4	1.1	4.5
60代	(1268)	60.6	15.9	8.0	10.1	8.6	7.9	8.8	3.6	5.3	3.5	4.8	4.2	1.1	3.2
70代	(1182)	68.2	13.6	6.2	11.3	8.6	8.5	5.2	4.1	5.6	1.4	5.6	5.6	1.1	2.4
世帯年収別															
100万円未満	(156)	54.5	12.2	9.6	12.8	5.8	7.7	5.8	8.3	3.8	0.6	2.6	2.6	2.6	3.2
～300万円未満	(697)	64.0	11.9	7.9	9.8	9.9	6.3	7.6	5.6	4.6	2.7	4.3	5.3	0.7	2.6
～500万円未満	(1038)	56.6	13.2	11.3	11.7	10.8	8.2	7.7	6.4	6.0	5.5	6.2	4.2	1.3	3.5
～1000万円未満	(1234)	45.9	14.2	16.9	12.2	11.7	9.0	7.9	9.5	8.0	9.5	6.8	5.3	2.8	3.3
1000万円以上	(406)	41.9	15.8	19.7	8.4	7.6	11.3	10.3	8.4	8.6	9.1	7.4	5.4	2.7	4.7

# 5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

## （1）投資信託の興味・関心・購入のきっかけ〔Q8：重複回答〕

〔図 5-3〕



## 5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

### (2) 投資信託購入時参考情報〔Q9：重複回答〕

- 購入時参考情報は、「金融機関の担当者のお話」(35.6%)が最も高い。次いで「販売用資料」(30.0%)、「目論見書・運用報告書」(21.6%)、「投信を販売している会社のHP」(21.3%)が上位に続く。〔図5-4〕
- どの参考情報も若年層ほど高くなる傾向だが、「金融機関の担当者のお話」は高齢層ほど高い。また、30代で「販売用資料」が高く、「新聞」が低いのが特徴的。〔図5-5〕
- 投信保有種類別では、株式投信保有層で「金融機関の担当者のお話」が他層より低く、「目論見書・運用報告書」「投信を販売している会社のHP」「投資に関する情報サイト」が他層より高くなる。〔図5-6〕

〔図 5-4〕

	n=	金融機関の担当者のお話	販売用資料	目論見書・運用報告書	投資信託を販売している会社のHP	投資信託を運用している会社のHP	新聞	親族や知人、友人のお話	投資に関する情報サイト	その他のインターネットの情報サイト	投資信託の評価機関	投資信託や資産運用に関する本	雑誌	セミナーなど	テレビ番組	その他	特にない	(%)
2018年	(4588)	35.6	30.0	21.6	21.3	11.3	11.2	10.5	9.6	8.7	8.6	8.1	5.4	4.4	3.9	0.7	13.8	

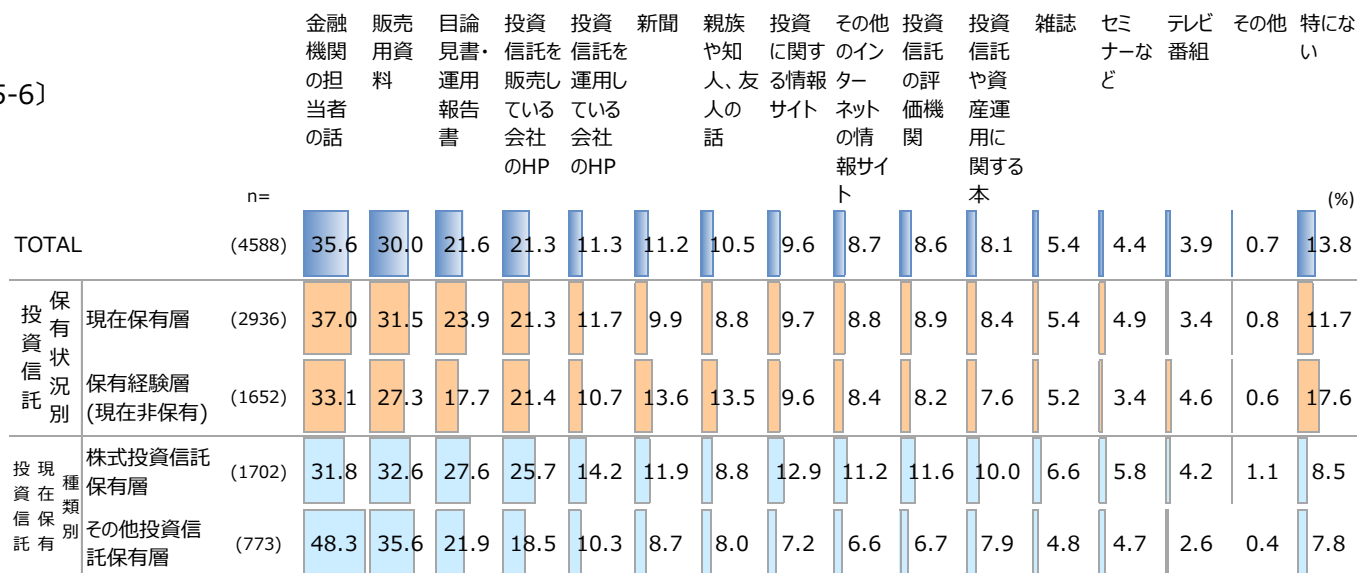
〔図 5-5〕

		n=	金融機関の担当者のお話	販売用資料	目論見書・運用報告書	投資信託を販売している会社のHP	投資信託を運用している会社のHP	新聞	親族や知人、友人のお話	投資に関する情報サイト	その他のインターネットの情報サイト	投資信託の評価機関	投資信託や資産運用に関する本	雑誌	セミナーなど	テレビ番組	その他	特にない	(%)
TOTAL		(4588)	35.6	30.0	21.6	21.3	11.3	11.2	10.5	9.6	8.7	8.6	8.1	5.4	4.4	3.9	0.7	13.8	
性別	男性	(2526)	27.5	30.1	25.4	24.8	13.8	13.5	7.8	13.0	10.3	11.4	9.9	6.8	4.9	3.7	0.5	13.9	
	女性	(2062)	45.5	29.9	17.0	17.1	8.3	8.5	13.9	5.5	6.6	5.3	6.0	3.6	3.8	4.1	1.0	13.8	
年代別	20代	(260)	20.4	28.8	25.8	28.8	19.2	14.2	15.0	17.7	15.8	14.6	16.5	8.1	5.0	4.2	0.0	11.5	
	30代	(483)	20.5	35.6	26.3	28.4	15.5	8.5	14.3	17.0	13.9	12.0	13.3	7.0	5.0	4.3	0.2	11.6	
	40代	(691)	24.2	29.1	21.6	23.6	13.9	11.7	10.4	11.6	10.9	9.6	9.8	8.4	3.2	3.3	0.7	13.2	
	50代	(704)	34.4	29.5	18.9	21.0	9.8	11.4	11.1	8.7	10.2	9.1	6.7	5.8	4.4	3.3	0.3	16.1	
	60代	(1268)	43.1	30.4	20.6	18.9	9.5	10.3	8.1	7.4	6.4	7.6	6.5	4.3	4.5	3.5	0.7	14.0	
	70代	(1182)	44.4	28.3	21.7	18.3	9.3	12.3	10.2	6.7	5.2	6.2	5.8	3.2	4.6	4.7	1.4	14.1	
世帯年収別	100万円未満	(156)	33.3	26.3	12.2	12.8	8.3	13.5	6.4	4.5	5.8	3.2	7.1	3.8	1.9	3.2	0.6	16.0	
	～300万円未満	(697)	43.6	31.1	20.7	18.4	8.6	9.3	7.7	7.0	6.0	6.5	7.5	4.3	3.3	3.6	1.3	13.3	
	～500万円未満	(1038)	35.2	29.8	21.0	22.7	11.1	9.9	11.1	9.5	7.1	8.9	7.4	4.7	4.2	4.3	0.4	13.6	
	～1000万円未満	(1234)	33.0	32.7	25.2	25.4	13.5	13.1	11.4	12.9	12.6	10.2	9.2	7.1	4.9	3.9	0.5	10.6	
	1000万円以上	(406)	27.3	29.1	24.6	26.8	15.8	12.6	12.6	12.8	9.6	14.8	9.6	7.9	5.2	3.7	1.0	9.9	

# 5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

## (2) 投資信託購入時参考情報〔Q9：重複回答〕

〔図 5-6〕



## 5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

### （3）投資信託購入の際の重視点〔Q7①：最大3項目回答〕

- 購入時重視点は、「値上がりへの期待」(32.3%)が前回(36.5%)より4.2ポイント減少したが、最も高い。次いで「過去の運用実績」(29.1%)、「値下がりの不安が少ない」(24.0%)が上位に続く。〔図5-7〕
- 年代別で見ると、「分配頻度」「過去の分配金額」は高齢層ほど重視し、「換金のしやすさ」は60代以上で重視する傾向。「過去の運用実績」「少額から投資できる」「手数料や運用管理費用の水準」は反対に若年層ほど重視する様子。〔図5-8〕
- 投信の現在保有層は、保有経験層に比べ「分配頻度」「商品コンセプト」「評価会社による評価」「純資産額の大きさ」をやや重視している。〔図5-9〕

〔図 5-7〕

	n=	値上りへの期待	過去の運用実績	値下がりの不安が少ない	少額から投資できる	手数料や運用管理費用の水準	分配頻度	過去の分配金額	換金のしやすさ	商品内容のわかりやすさ	商品コンセプト	評価会社による評価	純資産額の大きさ	その他	特にない
2018年	(4588)	32.3	29.1	24.0	21.5	13.2	10.9	10.7	9.1	7.8	7.8	5.8	4.8	1.9	12.1
2017年	(4713)	36.5	25.7	—	—	11.1	11.4	11.0	9.7	9.0	7.4	5.3	5.2	1.3	13.3
2016年	(4914)	37.9	23.9	—	—	9.6	11.2	11.9	10.6	8.4	6.7	6.1	4.6	1.2	14.0

〔図 5-8〕

※選択肢「値下がりの不安が少ない」「少額から投資できる」は2018年より聴取 (%)

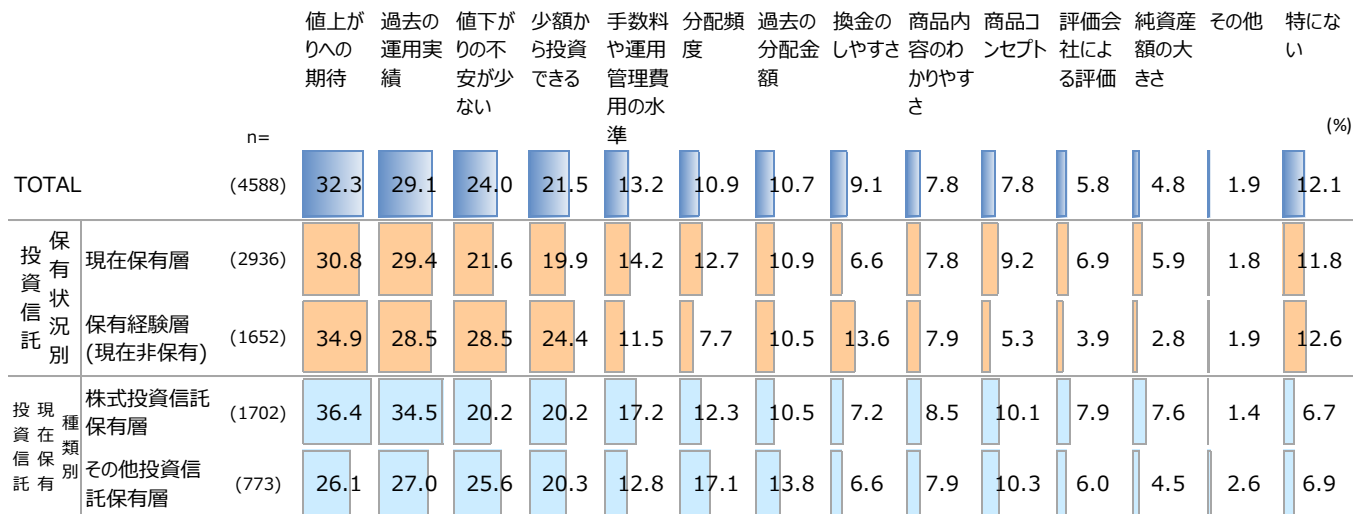
	n=	値上りへの期待	過去の運用実績	値下がりの不安が少ない	少額から投資できる	手数料や運用管理費用の水準	分配頻度	過去の分配金額	換金のしやすさ	商品内容のわかりやすさ	商品コンセプト	評価会社による評価	純資産額の大きさ	その他	特にない
TOTAL	(4588)	32.3	29.1	24.0	21.5	13.2	10.9	10.7	9.1	7.8	7.8	5.8	4.8	1.9	12.1
性別															
男性	(2526)	35.2	33.1	20.7	19.8	15.1	9.9	10.6	9.1	7.0	9.2	5.3	5.7	1.3	11.0
女性	(2062)	28.8	24.2	28.1	23.6	10.9	12.1	10.9	9.2	8.8	6.2	6.4	3.6	2.6	13.5
年代別															
20代	(260)	28.1	38.1	25.4	26.5	20.8	7.7	2.7	7.3	8.1	8.8	6.5	7.7	0.4	11.5
30代	(483)	32.1	30.0	21.9	26.3	18.4	7.0	7.7	6.6	7.7	7.7	3.7	5.2	1.2	12.0
40代	(691)	31.4	28.2	23.4	23.2	16.1	7.8	6.4	6.7	6.9	8.5	5.2	5.1	1.6	13.5
50代	(704)	33.0	29.8	23.6	19.9	12.5	9.4	9.2	5.1	8.9	8.1	4.1	5.1	2.3	12.8
60代	(1268)	31.9	27.3	24.4	19.6	12.2	11.8	13.5	11.7	8.5	7.8	6.0	4.3	1.7	12.1
70代	(1182)	33.8	28.8	24.9	20.5	9.2	14.9	14.2	11.7	7.0	7.1	7.7	4.1	2.5	11.0
世帯年収別															
100万円未満	(156)	25.6	23.7	25.0	21.2	10.3	12.2	7.7	6.4	5.8	6.4	1.3	2.6	1.9	17.3
～300万円未満	(697)	31.9	28.4	23.8	23.5	10.3	11.8	11.8	11.3	7.5	7.3	5.9	3.4	2.6	11.0
～500万円未満	(1038)	32.9	28.5	23.8	21.6	11.9	13.8	12.7	9.5	7.0	7.2	6.7	5.9	2.2	11.0
～1000万円未満	(1234)	35.7	32.2	25.8	22.4	16.9	9.6	9.6	8.6	7.9	9.2	4.9	5.0	1.5	8.5
1000万円以上	(406)	36.9	31.8	20.9	15.5	17.7	9.1	10.3	9.4	9.4	13.1	8.6	5.4	1.7	5.2



## 5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

### （3）投資信託購入の際の重視点〔Q7①：最大3項目回答〕

〔図 5-9〕



## 5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

### (3) 今後、投資信託購入の際に重視したい点〔Q7②：最大3項目回答〕

- 今後の重視点では、「値下がりの不安が少ない」(32.5%)が最も高く、次いで「値上がりへの期待」(29.5%)、「過去の運用実績」(23.8%)が上位にあがる。また僅かだが購入時重視点に比べ、「値下がりの不安が少ない」「手数料や運用管理費の水準」が高く、「過去の運用実績」「少額から投資できる」が低い。〔図5-10〕
- 年代別でみると、40代以下では「値上がりへの期待」が「値下がりの不安が少ない」をやや上回り、50代以上では「値下がりの不安が少ない」が「値上がりへの期待」をやや上回る。また、「過去の運用実績」「手数料や運用管理費の水準」「少額から投資できる」「純資産額の大きさ」は若年層ほど高い。一方で「過去の分配金額」は60代以上、「分配頻度」は70代で高い。〔図5-11〕
- 投信の現在保有層では「値上がりへの期待」「純資産額の大きさ」が、保有経験層では「少額から投資できる」「換金のしやすさ」が他層よりやや高い。〔図5-12〕

〔図 5-10〕

	n=	値下がりの不安が少ない	値上がりへの期待	過去の運用実績	手数料や運用管理費の水準	少額から投資できる	換金のしやすさ	商品内容のわかりやすさ	過去の分配金額	分配頻度	商品コンセプト	評価会社による評価	純資産額の大きさ	その他	特にな	(%)
2018年	(4588)	32.5	29.5	23.8	16.8	16.4	10.7	10.2	8.8	8.3	8.0	6.1	5.8	1.3	15.7	
2017年	(4713)	—	35.8	24.2	14.2	—	11.3	9.7	8.7	8.5	7.3	5.7	5.6	0.4	16.2	
2016年	(4914)	—	35.9	22.1	12.4	—	11.7	9.0	9.1	8.3	6.4	5.8	5.3	1.0	17.0	

〔図 5-11〕

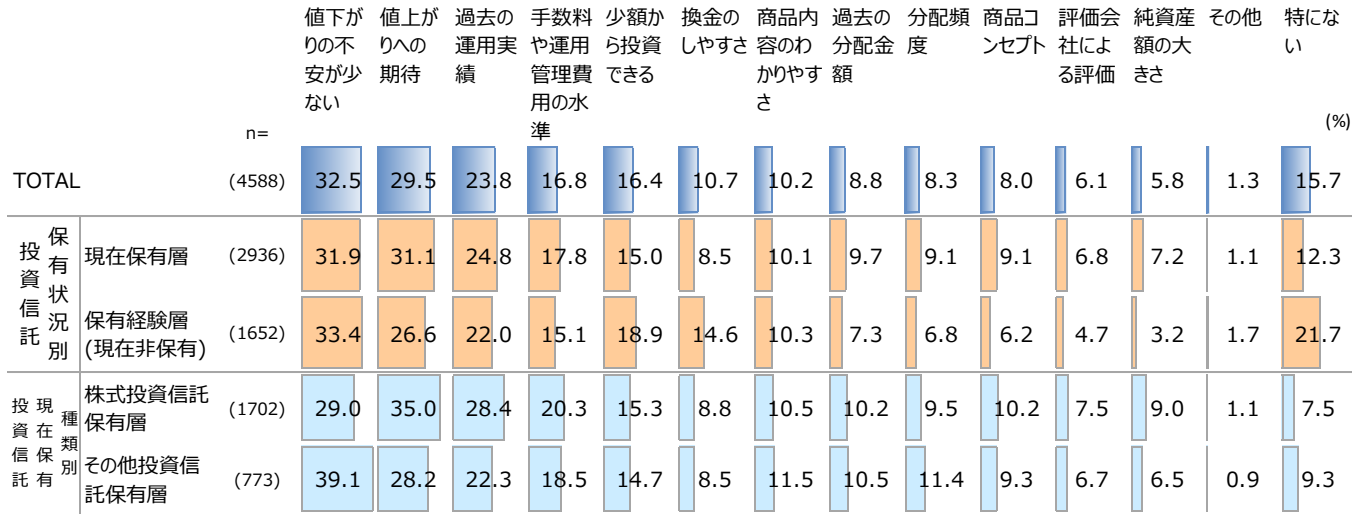
※選択肢「値下がりの不安が少ない」「少額から投資できる」は2018年より聴取 (%)

	n=	値下がりの不安が少ない	値上がりへの期待	過去の運用実績	手数料や運用管理費の水準	少額から投資できる	換金のしやすさ	商品内容のわかりやすさ	過去の分配金額	分配頻度	商品コンセプト	評価会社による評価	純資産額の大きさ	その他	特にな	(%)
TOTAL	(4588)	32.5	29.5	23.8	16.8	16.4	10.7	10.2	8.8	8.3	8.0	6.1	5.8	1.3	15.7	
性別																
男性	(2526)	27.9	33.2	26.6	19.1	14.6	10.7	8.6	9.0	8.6	9.2	6.0	6.5	1.0	13.7	
女性	(2062)	38.0	25.0	20.4	14.1	18.5	10.7	12.1	8.7	7.9	6.6	6.2	4.9	1.6	18.1	
年代別																
20代	(260)	29.6	31.2	31.2	21.9	23.1	11.9	12.3	6.9	7.7	8.8	7.7	10.8	0.4	8.5	
30代	(483)	26.9	34.4	29.0	24.4	20.9	9.3	8.7	6.4	6.8	10.8	4.1	7.7	0.2	11.0	
40代	(691)	32.1	33.9	23.6	19.8	17.4	7.7	9.4	7.2	5.2	9.3	6.4	6.8	0.9	13.6	
50代	(704)	32.2	29.0	25.4	19.2	17.2	9.4	13.4	6.4	7.2	7.2	5.5	4.7	0.7	15.5	
60代	(1268)	33.8	26.4	22.0	15.2	13.9	12.1	10.4	10.4	7.9	7.3	6.3	4.9	1.7	17.7	
70代	(1182)	34.3	28.3	21.2	11.2	14.6	12.0	8.7	11.0	11.8	7.3	6.3	4.9	2.1	18.4	
世帯年収別																
100万円未満	(156)	30.1	27.6	26.3	11.5	17.3	7.1	9.0	6.4	3.2	5.1	4.5	3.8	0.6	16.7	
～300万円未満	(697)	34.0	27.3	21.7	12.6	17.9	10.9	9.6	10.8	11.2	7.2	5.5	3.4	3.0	16.4	
～500万円未満	(1038)	32.7	29.4	23.6	14.0	16.6	11.9	9.8	10.1	10.4	7.8	6.7	5.9	1.3	16.1	
～1000万円未満	(1234)	33.6	34.0	25.9	21.1	17.9	10.9	10.9	8.8	7.2	9.3	6.4	7.4	0.7	9.5	
1000万円以上	(406)	28.1	33.7	24.9	24.4	11.8	10.1	10.1	5.2	5.9	13.8	7.6	8.6	0.5	8.4	

## 5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

### (3) 今後、投資信託購入の際に重視したい点〔Q7②：最大3項目回答〕

〔図 5-12〕

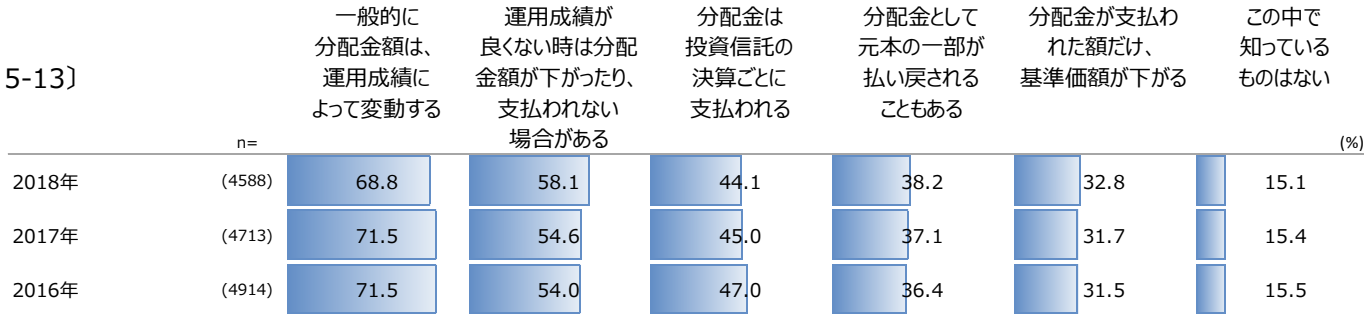


## 5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

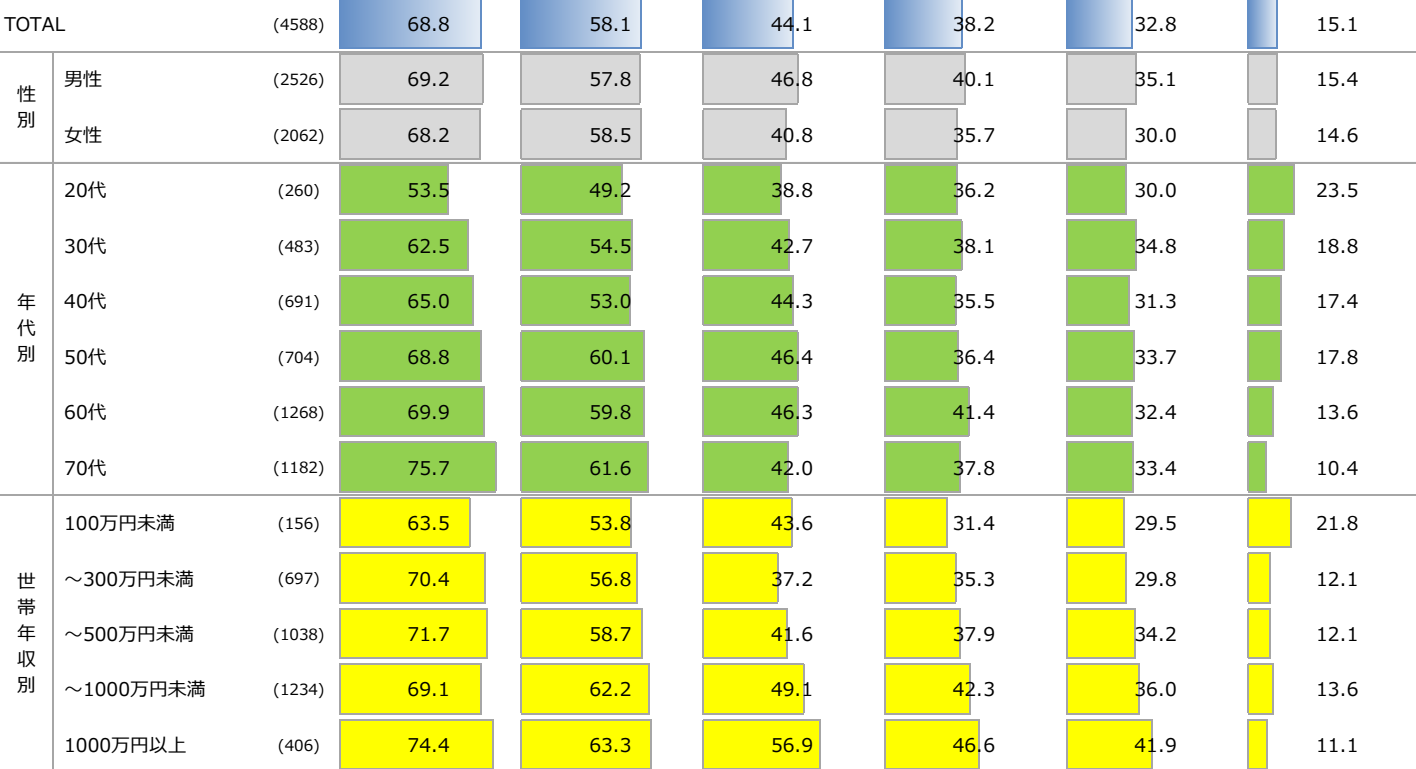
### （4）分配金の特徴認知状況〔Q11:重複回答〕

- 分配金の特徴認知は前回とほとんど差がみられず、「運用成績によって変動」(68.8%)が最も高い。「運用成績が良くない時は分配金額が下がったり、支払われない場合がある」(58.1%)、「投資信託の決算ごとに支払われる」(44.1%)が上位に続く。〔図5-13〕
- 「運用成績によって変動」は、年代が上がるにつれ認知率も高くなる。〔図5-14〕

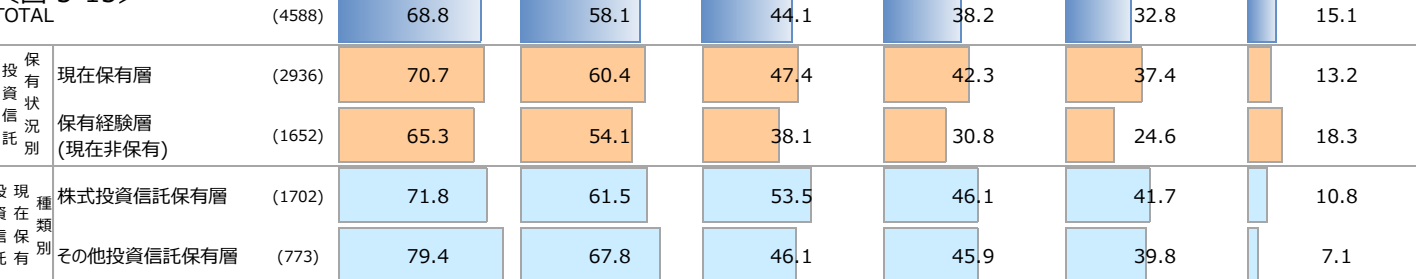
〔図 5-13〕



〔図 5-14〕



〔図 5-15〕



## 5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

### （4）分配金の特徴認知状況〔Q11:重複回答〕

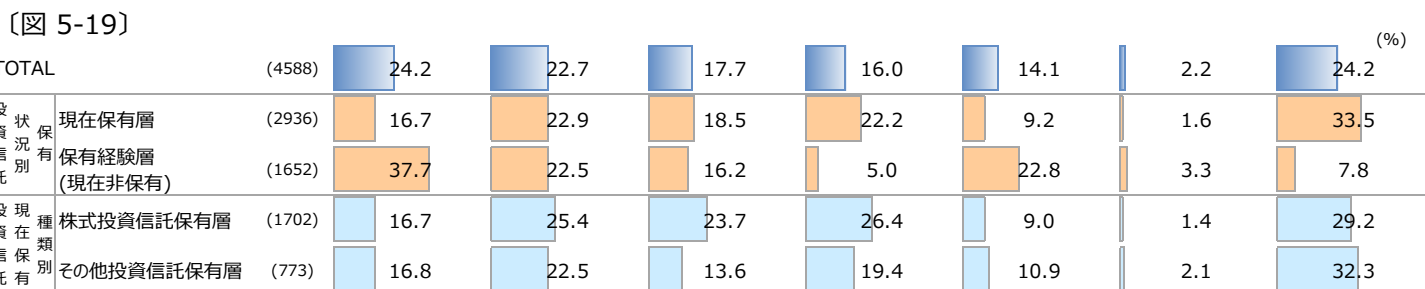
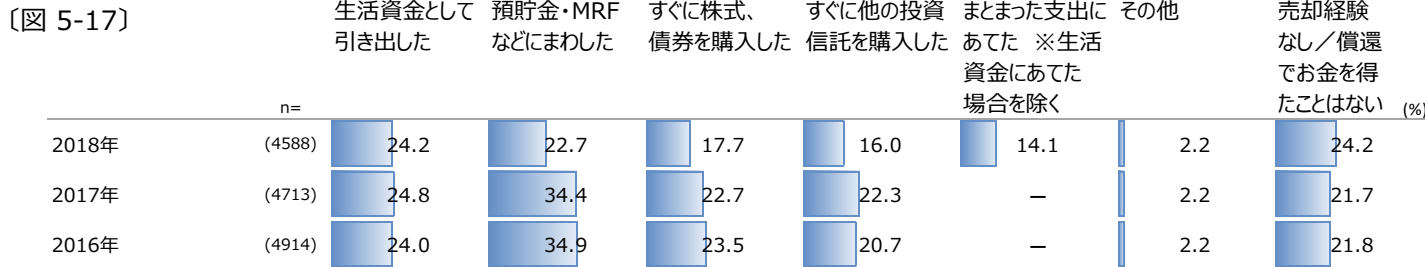
〔図 5-16〕

		一般的に 分配金額は、 運用成績に よって変動する	運用成績が 良くない時は分配 金額が下がったり、 支払われない 場合がある	分配金は 投資信託の 決算ごとに 支払われる	分配金として 元本の一部が 払い戻される こともある	分配金が支払わ れた額だけ、 基準価額が下がる	この中で 知っている ものはない (%)
	n=						
	TOTAL (1220)	81.5	71.4	53.5	55.9	49.1	3.4
毎月 現在 分保 有型 層 投 資 年 信 代 託 別	20代 (58)	72.4	67.2	51.7	53.4	48.3	6.9
	30代 (123)	72.4	72.4	56.1	49.6	52.0	7.3
	40代 (164)	78.0	62.8	50.6	48.8	41.5	3.7
	50代 (167)	80.2	70.7	57.5	53.9	48.5	6.0
	60代 (360)	85.6	75.3	57.8	63.1	51.9	1.4
	70代 (348)	84.2	72.1	48.0	55.5	49.1	2.3

## 5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

### (5) 償還・売却資金の流出先〔Q12:重複回答〕

- 投資信託の償還・売却資金流出先は、「生活資金」(24.2%)が前回(24.8%)と同程度で最も高い。次いで「預貯金・MRF」(22.7%)、「株式・債券の購入」(17.7%)、「他の投資信託の購入」(16.0%)が上位にあがる。〔図5-17〕
- 年代別で見ると、高齢層ほど「生活資金」「預貯金・MRF」「まとまった支出」への流出が多くなる。「すぐに株式・債券を購入」は30代以下で、「すぐに他の投資信託購入」は20代以下でやや高い。〔図5-18〕



# 5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

## (5) 償還・売却資金の流出先〔Q12:重複回答〕

〔図 5-20〕

		n=	生活資金として 引き出した	預貯金・MRF などにまわした	すぐに株式、 債券を購入した	すぐに他の投資 信託を購入した	まとまった支出に あてた ※生活資金 にあてた場合を除く	その他	売却経験なし/ 償還でお金を 得たことはない (%)
2018年		(4588)	24.2	22.7	17.7	16.0	14.1	2.2	24.2
20代	100万円未満	(16)	18.8	12.5	18.8	43.8	0.0	0.0	37.5
	～300万円未満	(33)	18.2	9.1	21.2	12.1	3.0	3.0	60.6
	～500万円未満	(83)	19.3	16.9	20.5	21.7	7.2	1.2	37.3
	～1000万円未満	(71)	15.5	22.5	26.8	12.7	11.3	0.0	39.4
	1000万円以上	(20)	5.0	25.0	25.0	20.0	5.0	0.0	40.0
30代	100万円未満	(16)	12.5	6.3	25.0	12.5	0.0	6.3	37.5
	～300万円未満	(32)	25.0	9.4	12.5	18.8	6.3	0.0	46.9
	～500万円未満	(107)	22.4	16.8	17.8	8.4	12.1	0.9	37.4
	～1000万円未満	(218)	17.0	17.9	23.9	23.9	15.6	0.9	31.2
	1000万円以上	(44)	11.4	29.5	25.0	6.8	9.1	0.0	36.4
40代	100万円未満	(22)	36.4	9.1	9.1	13.6	4.5	4.5	36.4
	～300万円未満	(52)	34.6	15.4	17.3	9.6	9.6	1.9	28.8
	～500万円未満	(100)	23.0	11.0	14.0	14.0	11.0	4.0	37.0
	～1000万円未満	(271)	19.9	20.3	18.1	15.5	8.9	0.4	35.1
	1000万円以上	(82)	4.9	26.8	28.0	17.1	12.2	1.2	29.3
50代	100万円未満	(29)	41.4	17.2	20.7	17.2	0.0	3.4	20.7
	～300万円未満	(56)	30.4	26.8	14.3	17.9	7.1	1.8	28.6
	～500万円未満	(84)	38.1	17.9	11.9	13.1	13.1	2.4	23.8
	～1000万円未満	(220)	18.6	25.0	11.8	15.0	13.6	3.2	28.6
	1000万円以上	(135)	23.7	23.0	20.7	17.0	18.5	2.2	21.5
60代	100万円未満	(46)	23.9	15.2	10.9	23.9	15.2	4.3	19.6
	～300万円未満	(228)	30.3	21.5	17.5	13.6	11.0	1.8	19.7
	～500万円未満	(294)	29.3	25.2	17.0	18.7	19.7	3.1	13.9
	～1000万円未満	(253)	20.2	33.6	22.1	16.6	15.4	1.2	13.8
	1000万円以上	(90)	21.1	22.2	26.7	23.3	21.1	1.1	16.7
70代	100万円未満	(27)	29.6	25.9	11.1	14.8	3.7	0.0	22.2
	～300万円未満	(296)	37.5	21.3	11.8	13.2	13.2	4.1	15.5
	～500万円未満	(370)	22.2	27.8	17.0	17.8	20.0	2.7	14.3
	～1000万円未満	(201)	18.4	30.8	25.9	22.4	14.9	1.5	14.4
	1000万円以上	(35)	22.9	40.0	31.4	22.9	20.0	2.9	5.7

※選択肢「まとまった支出にあてた ※生活資金にあてた場合を除く」は2018年より聴取

## 5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

### （6）投資信託の優れていると感じる点〔Q13①：重複回答〕

- 魅力点上位は前回と変わらず「少額でも分散投資ができる」(44.4%)、「専門知識や時間がなくても投資ができる」(30.1%)、「定期的に分配金が受け取れる」(27.3%)と続く。「少額でも分散投資ができる」は前回(39.8%)より4.6ポイント増加したが、「専門知識や時間がなくても投資ができる」は前回(39.5%)より9.4ポイント減少。〔図5-21〕
- 年代別でみると、若年層ほど「少額でも分散投資ができる」「少額でも投資の面白味がある」「積立投資ができる」「手数料が比較的安い」が高く、高齢層ほど「定期的に分配金が受け取れる」が高くなる。また30代以下では「専門知識や時間がなくても投資ができる」が、50代以上では「比較的高い利回りが期待できる」が高くなる傾向。〔図5-22〕
- 投信の現在保有層は保有経験層に比べどの項目も高くなるが、中でも「少額でも分散投資ができる」「専門知識がなくても投資ができる」「積立投資ができる」「分配金が自動的に再投資される商品がある」が高くなる〔図5-23〕

〔図 5-21〕

	n=	少額でも分散投資ができる	専門知識や時間がなくても投資ができる	定期的に分配金が受け取れる	少額でも投資の面白味がある	比較的高い利回りが期待できる	積立投資ができる	購入手続きが簡単である	種類が豊富で目的に応じたものを選べる	分配金が自動的に再投資される商品がある	海外投資が手軽にできる	手数料が比較的安い	購入後の運用に関する情報が	その他	わからない・特にない (%)
2018年	(4588)	44.4	30.1	27.3	24.4	22.6	21.4	20.1	17.5	16.4	8.8	8.7	5.0	0.5	18.7
2017年	(4713)	39.8	39.5	29.9	22.4	23.4	20.3	19.0	17.4	19.1	10.1	7.4	4.7	0.2	19.0
2016年	(4914)	38.1	37.5	30.0	21.6	22.9	18.3	18.8	16.2	17.7	8.3	6.7	4.2	0.3	21.6

〔図 5-22〕

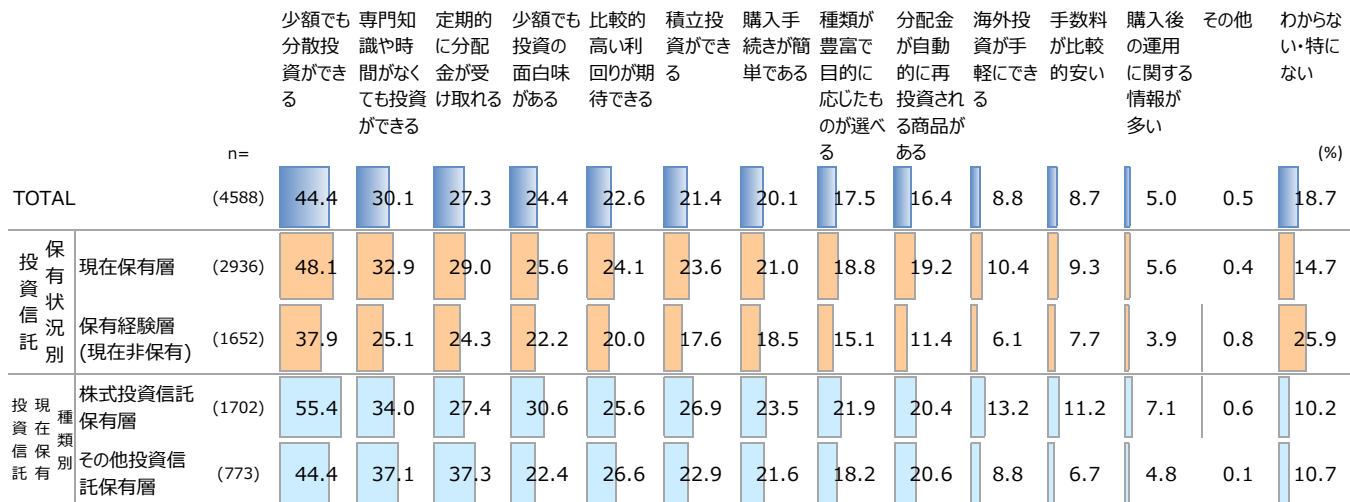
	n=	少額でも分散投資ができる	専門知識や時間がなくても投資ができる	定期的に分配金が受け取れる	少額でも投資の面白味がある	比較的高い利回りが期待できる	積立投資ができる	購入手続きが簡単である	種類が豊富で目的に応じたものを選べる	分配金が自動的に再投資される商品がある	海外投資が手軽にできる	手数料が比較的安い	購入後の運用に関する情報が	その他	わからない・特にない (%)
TOTAL	(4588)	44.4	30.1	27.3	24.4	22.6	21.4	20.1	17.5	16.4	8.8	8.7	5.0	0.5	18.7
性別	男性 (2526)	48.1	31.6	24.3	27.2	23.3	23.3	20.7	19.8	17.7	10.4	10.4	5.8	0.6	17.0
	女性 (2062)	39.8	28.2	31.0	21.0	21.9	19.2	19.4	14.6	14.8	7.0	6.6	4.1	0.5	20.9
年代別	20代 (260)	63.5	39.2	13.8	35.4	18.8	34.6	20.4	19.6	15.4	12.3	18.1	6.9	0.0	10.0
	30代 (483)	65.2	32.7	15.7	35.8	16.6	28.0	19.3	19.0	14.7	10.8	11.8	4.8	0.4	12.6
	40代 (691)	49.1	28.2	17.4	27.5	14.0	26.2	19.0	17.2	15.5	10.0	10.3	3.9	1.0	17.8
	50代 (704)	46.4	28.0	22.4	23.2	21.7	23.0	18.0	16.9	14.2	9.1	7.5	3.4	0.6	21.3
	60代 (1268)	38.0	28.2	32.6	20.6	26.8	17.2	20.6	17.8	16.4	8.0	7.5	5.1	0.6	20.4
	70代 (1182)	34.6	31.3	38.1	20.4	27.1	16.7	21.8	16.4	19.1	7.4	6.4	6.2	0.4	20.4
世帯年収別	100万円未満 (156)	48.7	19.9	24.4	25.0	19.9	16.7	12.8	16.7	12.2	7.1	5.8	4.5	0.0	16.0
	～300万円未満 (697)	39.7	29.0	31.0	19.9	24.2	19.7	19.7	14.2	16.2	6.6	7.3	4.9	0.9	18.5
	～500万円未満 (1038)	43.7	29.8	31.5	26.4	24.0	17.5	21.9	17.8	17.2	8.9	10.0	5.4	0.5	17.1
	～1000万円未満 (1234)	53.3	35.9	25.6	28.4	22.9	26.7	23.8	20.1	18.0	11.9	10.0	5.1	0.2	14.1
	1000万円以上 (406)	50.0	33.5	23.2	27.3	23.6	28.6	24.1	21.4	16.5	12.3	10.1	7.6	0.7	12.6



## 5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

### (6) 投資信託の優れていると感じる点〔Q13①：重複回答〕

〔図 5-23〕



## 5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

### （6）投資信託で特に魅力を感じる点〔Q13②：単数回答〕

- 投資信託で特に魅力を感じる点としては、「少額でも分散投資ができる」(18.2%)、「専門知識や時間がなくても投資できる」(14.0%)、「定期的に分配金が受け取れる」(12.5%)が上位にあがる。  
「専門知識や時間がなくても投資できる」は前回(18.3%)より4.3ポイント減少となる。〔図5-24〕
- 年代別では、若年層ほど「少額でも分散投資ができる」「少額でも投資の面白味がある」「積立投資ができる」が高く、高齢層ほど「定期的に分配金が受け取れる」「比較的高い利回りが期待できる」が高くなる傾向。〔図5-25〕
- 投信の現在保有層は保有経験層に比べ、「少額でも分散投資ができる」「定期的に分配金が受け取れる」がやや高くなる。〔図5-26〕

〔図 5-24〕

	n=	少額でも分散投資ができる	専門知識や時間がなくても投資ができる	定期的に分配金が受け取れる	比較的高い利回りが期待できる	少額でも投資の面白味がある	積立投資ができる	種類が豊富で目的に応じたものが選べる	購入が手続きが簡単である	分配金が自動的に再投資される商品がある	手数料が比較的安い	海外投資が手軽にできる	購入後の運用に関する情報が	その他	わからない・特にない	(%)
2018年	(4588)	18.2	14.0	12.5	11.0	8.1	5.6	3.3	2.5	2.1	1.9	1.3	0.4	0.4	18.7	
2017年	(4713)	15.2	18.3	12.8	10.7	6.9	5.6	3.4	2.4	2.3	1.4	1.4	0.3	0.2	19.0	
2016年	(4914)	15.4	17.5	13.0	10.2	6.6	4.6	3.2	2.5	2.2	1.2	1.3	0.5	0.2	21.6	

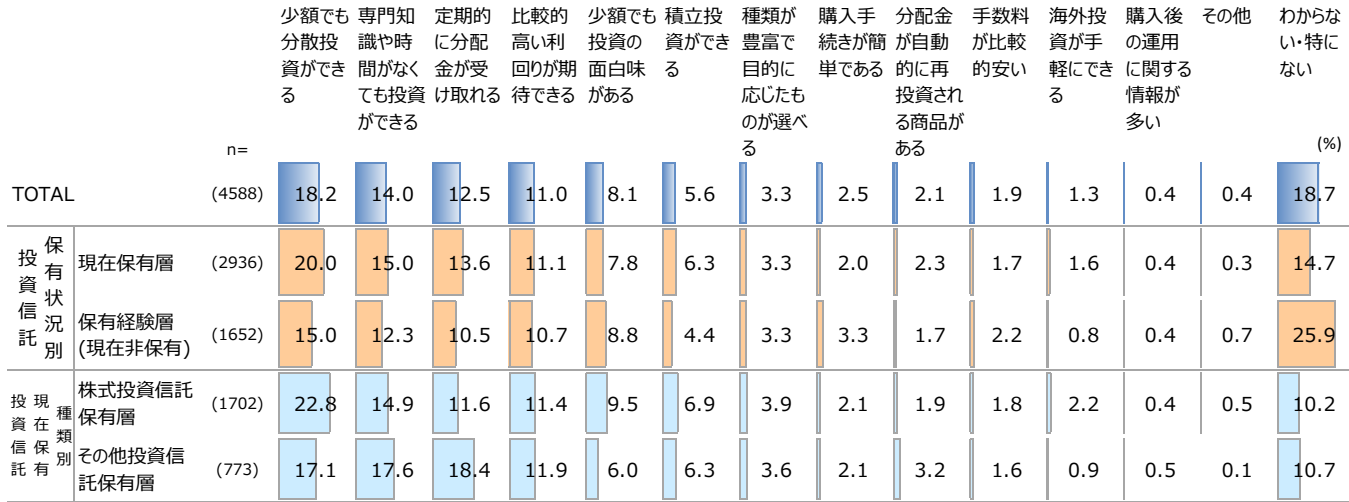
〔図 5-25〕

	n=	少額でも分散投資ができる	専門知識や時間がなくても投資ができる	定期的に分配金が受け取れる	比較的高い利回りが期待できる	少額でも投資の面白味がある	積立投資ができる	種類が豊富で目的に応じたものが選べる	購入が手続きが簡単である	分配金が自動的に再投資される商品がある	手数料が比較的安い	海外投資が手軽にできる	購入後の運用に関する情報が	その他	わからない・特にない	(%)
TOTAL	(4588)	18.2	14.0	12.5	11.0	8.1	5.6	3.3	2.5	2.1	1.9	1.3	0.4	0.4	18.7	
性別	男性	(2526)	19.7	14.7	9.2	11.0	9.3	5.9	3.6	2.4	2.2	2.5	1.7	0.4	0.4	17.0
	女性	(2062)	16.3	13.2	16.5	11.0	6.7	5.1	2.9	2.7	1.9	1.2	0.8	0.4	0.4	20.9
年代別	20代	(260)	32.3	16.9	3.5	4.6	13.5	10.4	1.2	0.8	0.8	3.5	1.9	0.8	0.0	10.0
	30代	(483)	30.0	13.9	4.6	7.2	12.8	8.5	2.3	2.1	2.1	1.9	1.9	0.0	0.2	12.6
	40代	(691)	26.2	13.2	6.7	6.4	9.1	8.1	3.6	2.2	1.9	2.2	1.6	0.4	0.7	17.8
	50代	(704)	17.2	12.5	10.1	11.9	7.8	7.4	3.1	2.4	2.0	2.0	1.6	0.1	0.6	21.3
	60代	(1268)	14.7	13.6	15.0	14.2	6.3	3.2	3.9	3.3	1.8	1.7	1.1	0.3	0.4	20.4
	70代	(1182)	9.8	15.3	19.8	12.5	6.6	3.3	3.4	2.5	2.9	1.6	0.8	0.7	0.4	20.4
世帯年収別	100万円未満	(156)	25.6	10.9	12.2	10.3	10.3	5.1	3.2	1.9	0.6	3.2	0.6	0.0	0.0	16.0
	～300万円未満	(697)	16.8	13.3	15.9	12.1	6.3	5.6	2.7	2.7	2.9	1.1	0.6	0.6	0.9	18.5
	～500万円未満	(1038)	16.7	13.4	14.5	12.4	9.6	4.2	3.6	2.8	2.1	1.7	1.3	0.2	0.4	17.1
	～1000万円未満	(1234)	20.5	16.1	10.7	10.4	8.9	7.1	3.3	2.4	1.9	1.8	2.5	0.3	0.1	14.1
	1000万円以上	(406)	20.2	17.5	6.2	11.6	9.4	7.4	4.7	3.2	2.0	2.2	1.5	1.2	0.5	12.6

## 5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

### （6）投資信託で特に魅力を感じる点〔Q13②：単数回答〕

〔図 5-26〕



## 5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

### （7）投資信託で不満に感じる点〔Q14①：重複回答〕

- 不満点上位は前回と変わらず、「元本保証がない」(34.1%)、「仕組みや運用手法がわかりにくい」(30.1%)、「手数料が比較的高い」(28.5%)があがる。  
「仕組みや運用手法がわかりにくい」(30.1%)が3.6ポイント、「専門知識がないと商品を選びにくい」(27.4%)が6.2ポイント増加。〔図5-27〕
- どの不満も高齢層ほど高くなる傾向だが、「種類が多く選択に迷う」は若年層ほど高く、また「リターンが低い」は40代以下、「手続きがわずらわしい」は30～50代で高くなる傾向。〔図5-28〕
- 投信保有種類別では、現在保有層で「種類が多く選択に迷う」、保有経験層で「クローズド期間がある」が他層より高い。〔図5-29〕

〔図 5-27〕

	n=	元本保証がない	仕組みや運用手法がわかりにくい	手数料が比較的高い	専門知識がないと商品を選びにくい	リターンが低い	種類が多く選択に迷う	公社債に比べてリスクが高い	株式に比べて面白さに欠ける	購入後の運用情報が少ない	手続きがわずらわしい	クローズド期間がある	近くに取扱っている店舗が少ない	その他	わからない・特にない	(%)
2018年	(4588)	34.1	30.1	28.5	27.4	22.1	19.0	17.3	15.0	12.5	8.0	7.9	3.4	0.6	13.6	
2017年	(4713)	51.5	26.5	26.5	21.2	19.5	17.4	16.7	14.6	11.1	6.7	7.6	3.2	0.4	15.6	
2016年	(4914)	53.7	26.1	23.8	20.6	19.4	14.9	15.8	14.7	9.8	6.3	6.9	2.6	0.4	14.8	

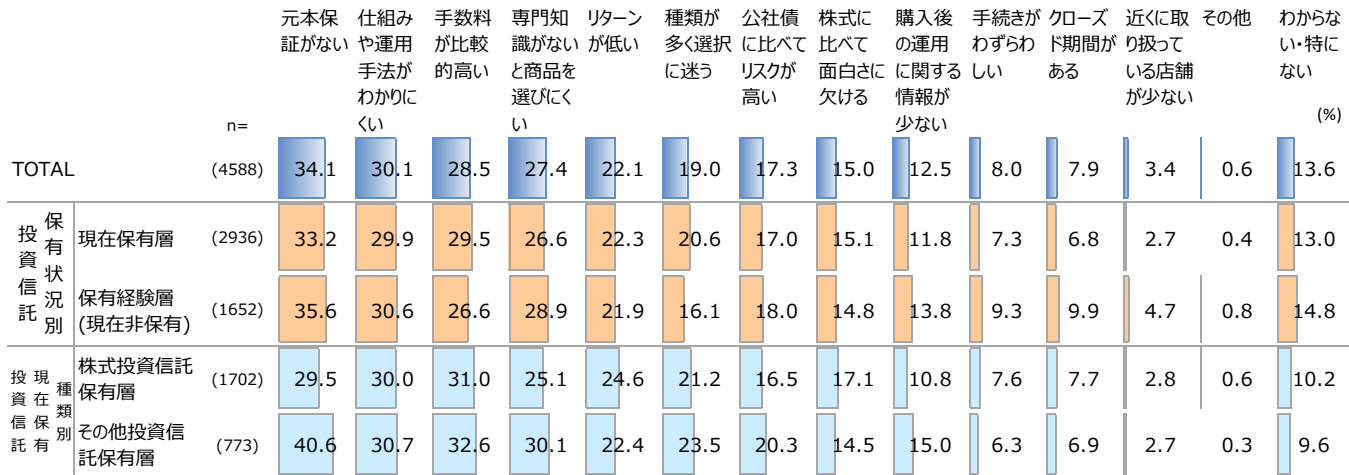
〔図 5-28〕

	n=	元本保証がない	仕組みや運用手法がわかりにくい	手数料が比較的高い	専門知識がないと商品を選びにくい	リターンが低い	種類が多く選択に迷う	公社債に比べてリスクが高い	株式に比べて面白さに欠ける	購入後の運用情報が少ない	手続きがわずらわしい	クローズド期間がある	近くに取扱っている店舗が少ない	その他	わからない・特にない	(%)
TOTAL	(4588)	34.1	30.1	28.5	27.4	22.1	19.0	17.3	15.0	12.5	8.0	7.9	3.4	0.6	13.6	
性別	男性 (2526)	27.6	26.8	28.8	22.6	24.8	17.2	15.0	17.9	11.9	7.0	7.9	3.1	0.8	14.4	
	女性 (2062)	42.1	34.2	28.1	33.4	18.9	21.1	20.1	11.3	13.2	9.2	7.9	3.7	0.3	12.7	
年代別	20代 (260)	18.1	25.4	16.5	23.5	24.6	21.9	12.3	13.8	8.8	8.8	10.8	4.6	0.4	17.3	
	30代 (483)	20.3	28.2	20.9	25.1	26.1	18.4	8.5	14.5	10.1	10.4	6.4	2.3	0.0	17.2	
	40代 (691)	26.8	28.2	24.5	25.3	24.3	19.0	10.3	12.9	9.1	10.9	8.7	3.0	0.7	17.5	
	50代 (704)	32.4	30.7	29.1	28.6	21.0	19.6	16.6	12.4	12.9	10.5	9.2	3.8	0.6	14.8	
	60代 (1268)	40.1	29.8	33.0	28.5	20.5	19.9	20.0	13.6	12.0	7.1	7.7	3.8	0.6	11.4	
	70代 (1182)	42.1	33.2	31.3	28.8	21.1	17.2	23.8	19.6	16.5	4.7	6.9	3.1	0.8	10.8	
世帯年収別	100万円未満 (156)	30.1	36.5	34.6	30.1	25.0	23.1	16.0	9.6	12.8	10.9	6.4	1.9	0.0	12.2	
	～300万円未満 (697)	40.2	32.4	28.6	28.6	23.2	17.1	19.7	13.8	14.5	6.5	7.5	3.6	0.6	11.3	
	～500万円未満 (1038)	33.5	28.7	27.0	28.2	21.8	18.4	18.5	16.3	13.7	6.8	6.9	3.9	0.2	12.8	
	～1000万円未満 (1234)	30.7	30.4	29.3	25.6	24.7	20.7	16.0	16.2	11.2	8.3	8.0	2.9	0.8	10.9	
	1000万円以上 (406)	26.8	26.1	35.5	22.4	21.9	20.0	17.2	19.5	9.9	9.9	11.1	3.0	0.7	10.6	

## 5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

### （7）投資信託で不満に感じる点〔Q14①：重複回答〕

〔図 5-29〕



## 5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

### （7）投資信託で特に不満を感じる点〔Q14②：単数回答〕

- 投信で特に不満を感じる点は、「元本保証がない」(19.7%)がTOPとなる。次いで「手数料が比較的高い」(13.7%)、「専門知識がないと商品を選びにくい」(10.0%)がある他は、いずれも10%に満たない反応。〔図5-30〕
- 年代別で見ると、高齢層ほど「元本保証がない」「手数料が比較的高い」が増す傾向。また、40代以下では「仕組みや運用手法がわかりにくい」「リターンが低い」との不満がやや高い。〔図5-31〕
- 投信保有種類別では、株式投信保有層で「手数料が比較的高い」が他層よりやや高くなる。〔図5-32〕

〔図 5-30〕

	n=	元本保証がない	手数料が比較的高い	専門知識がないと商品を選びにくい	仕組みや運用手法がわかりにくい	リターンが低い	種類が多く選択に迷う	株式に比べて面白さに欠ける	公社債に比べてリスクが高い	購入後の運用に関する情報が少ない	手続きがわずらわしい	クローズド期間がある	近くに取扱い店舗が少ない	その他	わからない・特にない	(%)
2018年	(4588)	19.7	13.7	10.0	9.8	8.8	5.4	5.2	5.1	3.3	2.3	1.9	0.8	0.4	13.6	
2017年	(4713)	30.2	12.1	5.5	8.1	7.2	4.4	5.0	4.4	2.7	1.9	1.8	1.0	0.3	15.6	
2016年	(4914)	32.5	10.7	5.5	7.9	6.7	3.4	4.9	4.6	2.4	1.6	1.1	0.7	0.3	14.8	

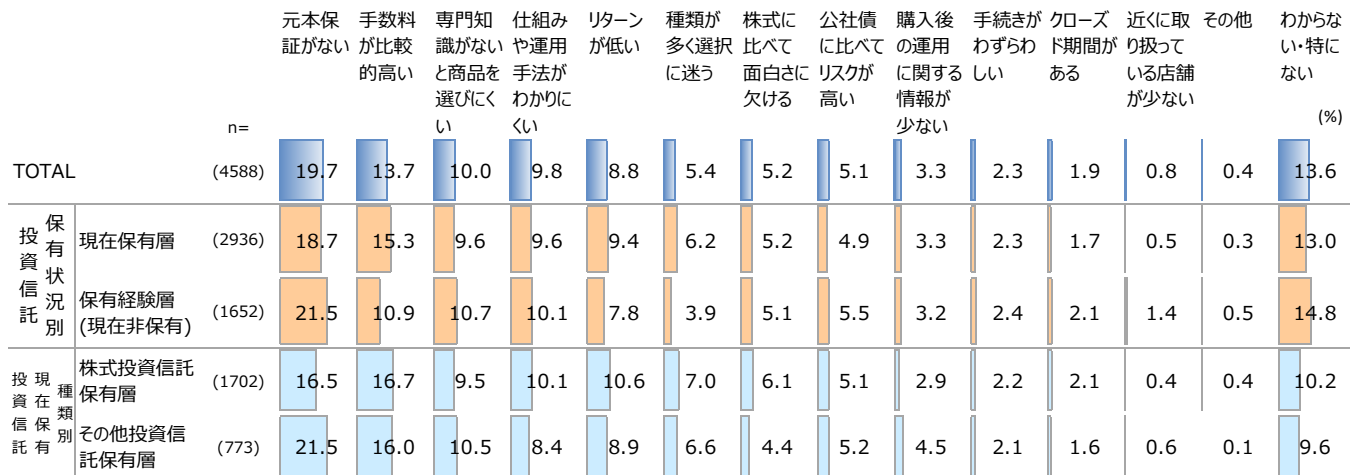
〔図 5-31〕

		n=	元本保証がない	手数料が比較的高い	専門知識がないと商品を選びにくい	仕組みや運用手法がわかりにくい	リターンが低い	種類が多く選択に迷う	株式に比べて面白さに欠ける	公社債に比べてリスクが高い	購入後の運用に関する情報が少ない	手続きがわずらわしい	クローズド期間がある	近くに取扱い店舗が少ない	その他	わからない・特にない	(%)
TOTAL		(4588)	19.7	13.7	10.0	9.8	8.8	5.4	5.2	5.1	3.3	2.3	1.9	0.8	0.4	13.6	
性別	男性	(2526)	14.4	16.2	8.7	9.6	10.8	5.7	6.7	4.6	3.4	2.2	2.1	0.6	0.5	14.4	
	女性	(2062)	26.1	10.7	11.6	10.0	6.4	4.9	3.4	5.8	3.2	2.5	1.5	1.1	0.2	12.7	
年代別	20代	(260)	8.1	8.5	12.3	10.4	11.5	8.8	7.7	5.0	2.3	2.7	3.5	1.5	0.4	17.3	
	30代	(483)	10.1	11.6	10.8	12.6	12.2	7.7	6.8	2.3	3.1	3.7	1.4	0.4	0.0	17.2	
	40代	(691)	15.9	11.7	9.4	11.3	11.3	5.8	5.4	3.2	1.6	4.2	2.5	0.1	0.1	17.5	
	50代	(704)	18.9	14.9	11.4	8.9	7.8	5.8	3.3	4.8	3.3	2.4	2.3	0.9	0.6	14.8	
	60代	(1268)	24.2	15.8	9.6	8.2	7.4	4.7	4.8	5.3	3.2	1.7	1.7	1.4	0.6	11.4	
	70代	(1182)	24.0	14.0	9.2	9.7	7.4	3.8	5.4	7.4	4.6	1.3	1.2	0.6	0.4	10.8	
世帯年収別	100万円未満	(156)	15.4	14.1	9.0	13.5	11.5	6.4	3.2	7.1	2.6	3.8	1.3	0.0	0.0	12.2	
	～300万円未満	(697)	24.7	14.1	9.5	9.9	7.9	3.2	5.2	5.9	4.0	2.2	1.6	0.4	0.3	11.3	
	～500万円未満	(1038)	19.1	12.8	11.2	9.6	8.8	5.2	5.8	6.0	3.9	2.2	1.4	1.1	0.1	12.8	
	～1000万円未満	(1234)	16.1	15.2	9.2	10.6	10.8	7.2	5.9	4.6	3.2	2.4	2.3	1.0	0.6	10.9	
	1000万円以上	(406)	14.0	22.2	7.6	9.1	9.1	6.2	6.4	5.7	1.7	3.4	3.0	0.5	0.5	10.6	


## 5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

### （7）投資信託で特に不満に感じる点〔Q14②：単数回答〕

〔図 5-32〕



## **6. 投資信託保有未経験者の状況 (金融資産保有未経験層を含む)**





# 6. 投資信託保有未経験者の状況（金融資産保有未経験層を含む）

## （1）投資信託の非購入理由〔Q26:重複回答〕

- 投信保有未経験層の投信非購入理由は、前回同様に「興味がない」(48.4%)、「投資の知識がない」(38.0%)、「損をしそうで怖い」(29.9%)が上位に続く。〔図6-1〕
- 年代別で見ると、他年代に比べ30代で「興味がない」が低く、「投資の知識がない」「投資信託の仕組みが分からない」がやや高くなる。  
また、高齢層ほど「元本保証がない」が高くなり、「なんとなく機会がなかった」は反対に若年層ほど高くなる傾向。〔図6-2〕
- 投資信託保有状況別では、金融資産保有経験が無い層で「興味が無い」が約半数(51.6%)となる。〔図6-3〕

〔図 6-1〕

	n=	そもそも興味がない	投資の知識がない	損をしそうで怖い	まとまった資金がない	投資信託の仕組みがよくわからない	元本保証がない	なんとなく機会がなかった	手数料など費用が高い	商品の種類が多く自分で選べない	自分に合った投資信託を検討する時間的な余裕がない	投資信託の存在がなかった	購入するのにかか	投資信託を買うよりも自分で株などを運用した方がいい	その他	(%)
2018年	(15412)	48.4	38.0	29.9	24.3	22.8	20.2	11.8	10.2	8.1	7.7	5.3	5.1	2.6	0.9	
2017年	(15287)	46.4	38.3	22.5	19.5	24.4	19.4	8.0	10.6	5.7	5.5	5.0	3.5	—	1.2	
2016年	(15086)	48.0	36.5	21.6	19.1	23.4	19.8	8.3	9.7	5.8	5.5	4.2	4.0	—	1.5	

※選択肢「投資信託を買うよりも自分で株などを運用した方がいい」は2018年より聴取

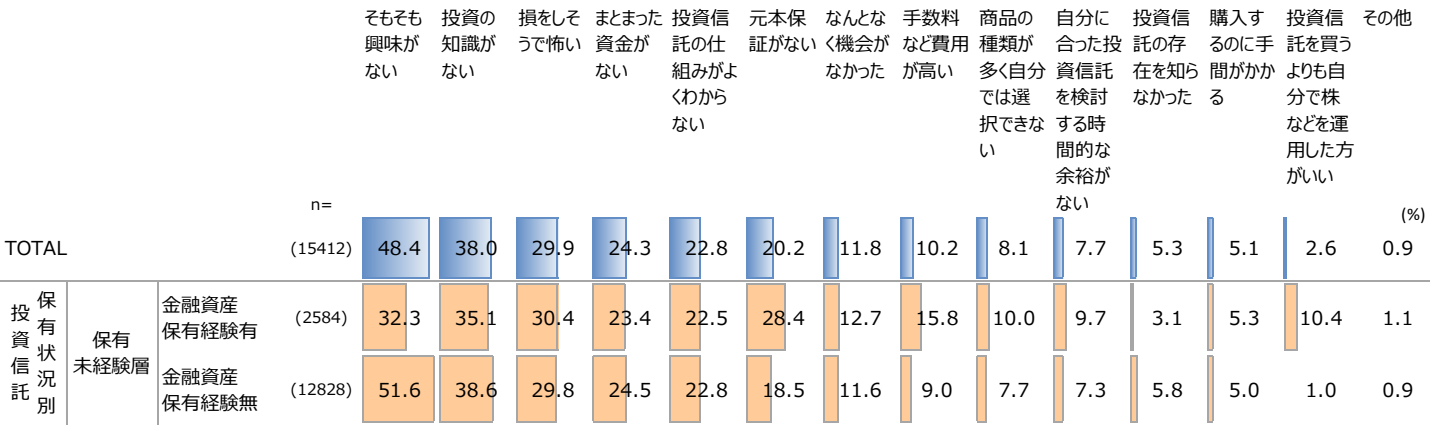
〔図 6-2〕

	n=	48.4	38.0	29.9	24.3	22.8	20.2	11.8	10.2	8.1	7.7	5.3	5.1	2.6	0.9	(%)
TOTAL	(15412)	48.4	38.0	29.9	24.3	22.8	20.2	11.8	10.2	8.1	7.7	5.3	5.1	2.6	0.9	
性別																
男性	(7403)	47.8	33.8	25.0	24.1	19.0	17.9	13.3	9.7	5.8	6.9	5.1	5.3	3.8	1.0	
女性	(8009)	49.0	42.0	34.4	24.5	26.3	22.3	10.4	10.6	10.2	8.4	5.6	4.9	1.4	0.9	
年代別																
20代	(2452)	49.9	41.8	26.8	24.7	24.2	9.1	15.4	8.2	6.0	7.2	9.3	5.8	2.1	0.9	
30代	(2812)	44.2	44.9	33.6	24.3	27.2	15.3	14.5	8.9	8.4	10.1	6.9	6.4	2.3	0.8	
40代	(3345)	46.1	38.6	32.1	25.5	23.9	20.2	12.1	11.4	8.1	9.1	5.2	5.7	2.1	1.0	
50代	(2535)	50.0	35.3	31.2	26.2	21.9	25.2	11.0	11.3	9.0	7.9	3.9	5.7	2.2	0.7	
60代	(2550)	50.3	33.4	28.1	22.5	19.7	25.8	8.5	10.5	7.9	5.5	3.3	3.2	3.0	1.1	
70代	(1718)	52.3	31.4	24.5	21.7	17.2	28.0	7.4	10.5	9.1	4.7	2.4	2.6	4.4	1.2	
世帯年収別																
100万円未満	(723)	51.7	38.3	29.3	27.0	23.8	16.7	9.1	11.1	8.2	6.2	8.3	5.0	2.4	1.1	
～300万円未満	(2472)	47.6	39.7	29.2	28.2	22.6	19.4	10.5	10.0	7.7	6.7	6.1	4.2	1.9	0.8	
～500万円未満	(3210)	41.7	41.8	31.8	28.8	25.2	21.4	12.6	10.5	9.1	8.0	6.0	5.3	2.9	1.0	
～1000万円未満	(3187)	38.8	42.9	34.7	25.5	24.8	23.5	13.5	11.6	8.7	10.2	4.5	6.0	3.6	0.7	
1000万円以上	(667)	38.2	38.4	30.1	20.1	24.1	25.6	14.8	12.3	10.9	9.9	4.5	6.6	4.6	1.0	

## 6. 投資信託保有未経験者の状況（金融資産保有未経験層を含む）

### （1）投資信託の非購入理由〔Q26:重複回答〕

〔図 6-3〕



## 6. 投資信託保有未経験者の状況（金融資産保有未経験層を含む）

### （2）投資信託購入検討のきっかけ〔Q27:重複回答〕

- 投資信託購入検討のきっかけは、前回同様に目立って高い項目はみられず分散傾向。  
上位には「金融や投資を勉強して理解できたら」(23.1%)、「手取り収入が増えたら」(21.8%)、「身近な人に勧められたら」(20.1%)があがる。〔図6-4〕
- 年代別では、若年層ほど「金融や投資方法を勉強して理解したら」「手取り収入が増えたら」「身近な人に勧められたら」「貯蓄が一定額に達したら」「専門知識を持つ人に教えてもらえたら」「初心者向けセミナーなど、説明してもらえる機会があれば」が高くなる傾向〔図6-5〕。
- 投資信託保有状況別でみると、金融資産の保有経験がある層では「手数料の低い投資信託商品が充実してきたら」が他層に比べて高い。〔図6-6〕

〔図 6-4〕

	n=	金融や投資を勉強して理解できたら	手取り収入が増えたら	身近な人に勧められたら	税制上の優遇措置が、より拡充してきたら	貯蓄が一定額に達したら	金融機関などで、専門知識を持つ人に教えてもらえたら	低リスクの投資信託商品が充実してきたら	初心者向けセミナーなど、説明してもらえる機会があれば	経済が上向きになり、値上がり期待できる様になったら	手数料の低い投資信託商品が充実してきたら	退職金・相続などで臨時収入があったら	その他
2018年	(15412)	23.1	21.8	20.1	16.4	16.1	15.7	15.7	14.0	13.8	10.4	6.7	11.3
2017年	(15287)	21.3	21.4	20.4	16.3	16.0	13.7	14.4	13.6	13.9	10.0	6.7	11.2
2016年	(15086)	21.6	21.2	19.8	15.4	15.1	13.2	14.2	13.5	14.5	9.8	6.1	11.6

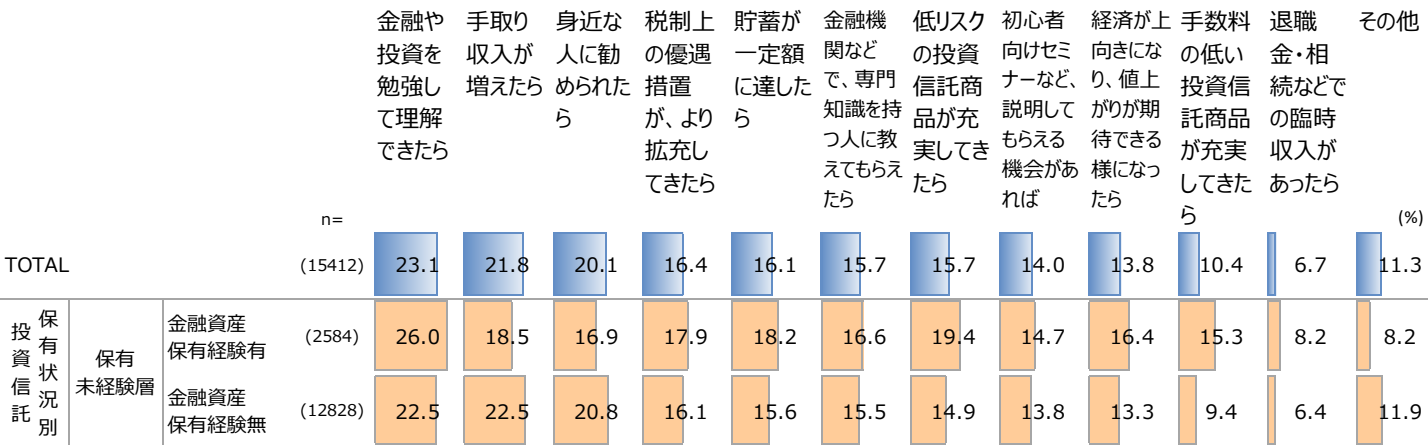
〔図 6-5〕

	n=	金融や投資を勉強して理解できたら	手取り収入が増えたら	身近な人に勧められたら	税制上の優遇措置が、より拡充してきたら	貯蓄が一定額に達したら	金融機関などで、専門知識を持つ人に教えてもらえたら	低リスクの投資信託商品が充実してきたら	初心者向けセミナーなど、説明してもらえる機会があれば	経済が上向きになり、値上がり期待できる様になったら	手数料の低い投資信託商品が充実してきたら	退職金・相続などで臨時収入があったら	その他
TOTAL	(15412)	23.1	21.8	20.1	16.4	16.1	15.7	15.7	14.0	13.8	10.4	6.7	11.3
性別													
男性	(7403)	21.9	24.4	17.0	19.4	18.1	14.4	14.1	12.4	13.6	9.9	6.9	10.9
女性	(8009)	24.1	19.4	23.0	13.6	14.2	16.9	17.2	15.4	14.0	10.9	6.5	11.7
年代別													
20代	(2452)	24.7	29.2	29.7	14.5	20.8	17.7	13.4	18.8	11.5	7.7	3.9	7.5
30代	(2812)	25.9	27.1	26.7	17.1	17.9	19.0	15.9	15.9	13.1	11.4	5.3	8.7
40代	(3345)	24.3	25.3	21.4	15.9	15.8	16.1	16.7	14.0	13.4	11.9	7.8	10.9
50代	(2535)	22.4	20.4	15.3	18.0	14.9	14.3	17.4	12.0	14.0	11.5	9.9	10.9
60代	(2550)	20.1	12.9	11.6	16.7	13.8	12.8	15.8	10.8	16.2	10.0	7.3	15.5
70代	(1718)	19.0	10.9	13.0	15.9	12.0	13.0	14.0	11.4	15.2	8.8	5.1	16.2
世帯年収別													
100万円未満	(723)	19.9	22.4	22.7	13.1	17.3	14.8	13.6	13.4	12.3	9.0	4.6	12.9
～300万円未満	(2472)	22.3	24.3	19.0	13.8	16.5	14.9	15.3	14.4	13.1	9.5	6.9	11.7
～500万円未満	(3210)	25.4	25.7	22.0	14.6	18.7	17.6	16.2	16.3	14.2	11.1	7.5	6.9
～1000万円未満	(3187)	25.5	23.1	22.8	16.4	19.3	19.3	17.9	16.0	14.6	12.2	8.4	7.6
1000万円以上	(667)	25.5	14.4	21.0	19.0	17.1	17.7	17.2	15.0	15.7	12.0	10.2	6.7

# 6. 投資信託保有未経験者の状況（金融資産保有未経験層を含む）

## （2）投資信託購入検討のきっかけ〔Q27:重複回答〕

〔図 6-6〕



## **7. 投資信託全般に関する状況（全体）**



# 7. 投資信託全般に関する状況（全体）

## （1）投資信託の商品特徴認知状況〔Q10:重複回答〕

- 投資信託の特徴認知では、全体的に前回から大きな変動はみられず、「元本保証がない」(49.0%)、「国内と海外の投信がある」(34.1%)、「価格変動と為替リスクがある」(34.1%)、「証券会社以外でも購入できる」(32.3%)が上位にあがる。〔図7-1〕
- 年代、世帯年収共に高くなるほど、どの商品特項目も認知率は増す傾向。〔図7-2〕
- 投資信託の保有種類別で見ると、株式投信保有層はその他投信保有層に比べ、「リスクとリターンは相反する関係」、「投信の評価を行う会社がある」、「MRFは投信商品である」「投信は信託銀行で分別管理」の認知度がやや高い。〔図7-4〕

〔図 7-1〕

	n=	元本の保証はない	国内の投資信託と海外の投資信託がある	価格変動と、外国に投資するものには為替リスクがある	銀行など、証券会社以外の金融機関でも購入できる	リスクとリターンは相反する関係にある	NISAやDCで投資信託が購入できる	投資信託は、運用会社が運用している	販売手数料とは別に運用管理費用がかかる	投資信託の評価を行う会社がある	MRFは投資信託商品である	基準価額は新聞や投資信託協会HPで見ることができる	投資信託は、信託銀行で分別管理されている	この中で知っているものはない
2018年	(20000)	49.0	34.1	34.1	32.3	30.0	24.3	22.1	18.2	9.7	8.7	8.7	7.5	36.8
2017年	(20000)	46.2	32.6	32.5	31.4	28.0	23.3	21.2	16.9	9.5	8.7	9.0	5.9	39.8
2016年	(20000)	46.4	32.2	32.7	31.1	27.9	23.4	20.9	16.0	10.0	9.5	9.3	6.2	39.9

〔図 7-2〕

		n=	元本の保証はない	国内の投資信託と海外の投資信託がある	価格変動と、外国に投資するものには為替リスクがある	銀行など、証券会社以外の金融機関でも購入できる	リスクとリターンは相反する関係にある	NISAやDCで投資信託が購入できる	投資信託は、運用会社が運用している	販売手数料とは別に運用管理費用がかかる	投資信託の評価を行う会社がある	MRFは投資信託商品である	基準価額は新聞や投資信託協会HPで見ることができる	投資信託は、信託銀行で分別管理されている	この中で知っているものはない
TOTAL		(20000)	49.0	34.1	34.1	32.3	30.0	24.3	22.1	18.2	9.7	8.7	8.7	7.5	36.8
性別	男性	(9929)	51.5	35.3	36.1	32.4	34.4	25.7	26.6	20.9	12.0	10.2	9.8	9.5	34.9
	女性	(10071)	46.6	32.8	32.1	32.2	25.7	23.0	17.7	15.6	7.5	7.1	7.5	5.5	38.7
年代別	20代	(2712)	26.1	21.5	22.7	17.5	21.2	15.7	13.1	9.0	7.6	3.9	4.5	4.5	55.3
	30代	(3295)	39.7	28.8	28.3	25.3	25.1	22.2	18.9	14.2	8.9	6.3	6.3	5.7	45.1
	40代	(4036)	47.7	32.7	32.3	28.7	27.9	22.9	20.4	16.2	8.7	7.7	7.2	6.9	39.5
	50代	(3239)	55.7	35.2	36.5	34.9	31.9	26.4	22.9	19.9	11.1	9.8	9.4	9.0	33.3
	60代	(3818)	59.7	40.5	39.0	41.3	36.3	28.8	26.6	23.5	10.7	11.7	10.8	8.6	27.4
	70代	(2900)	61.4	43.9	44.5	44.2	36.6	28.7	29.8	25.6	11.3	12.0	13.5	10.1	22.7
世帯年収別	100万円未満	(879)	34.9	27.0	24.1	24.9	24.0	17.9	15.6	11.6	7.2	6.1	6.0	4.8	46.4
	～300万円未満	(3169)	46.8	31.3	31.2	31.0	28.5	20.9	18.9	15.7	7.8	7.2	7.1	6.1	37.5
	～500万円未満	(4248)	52.4	37.4	37.7	34.9	31.4	25.5	23.7	18.8	9.2	8.8	8.9	7.8	31.1
	～1000万円未満	(4421)	58.6	41.4	41.8	39.2	37.0	31.8	28.9	24.2	13.7	11.1	11.6	10.7	27.0
	1000万円以上	(1073)	67.2	50.2	49.3	48.0	47.9	38.0	39.6	33.7	21.2	18.6	18.3	18.3	20.8

# 7. 投資信託全般に関する状況（全体）

## （1）投資信託の商品特徴認知状況〔Q10:重複回答〕

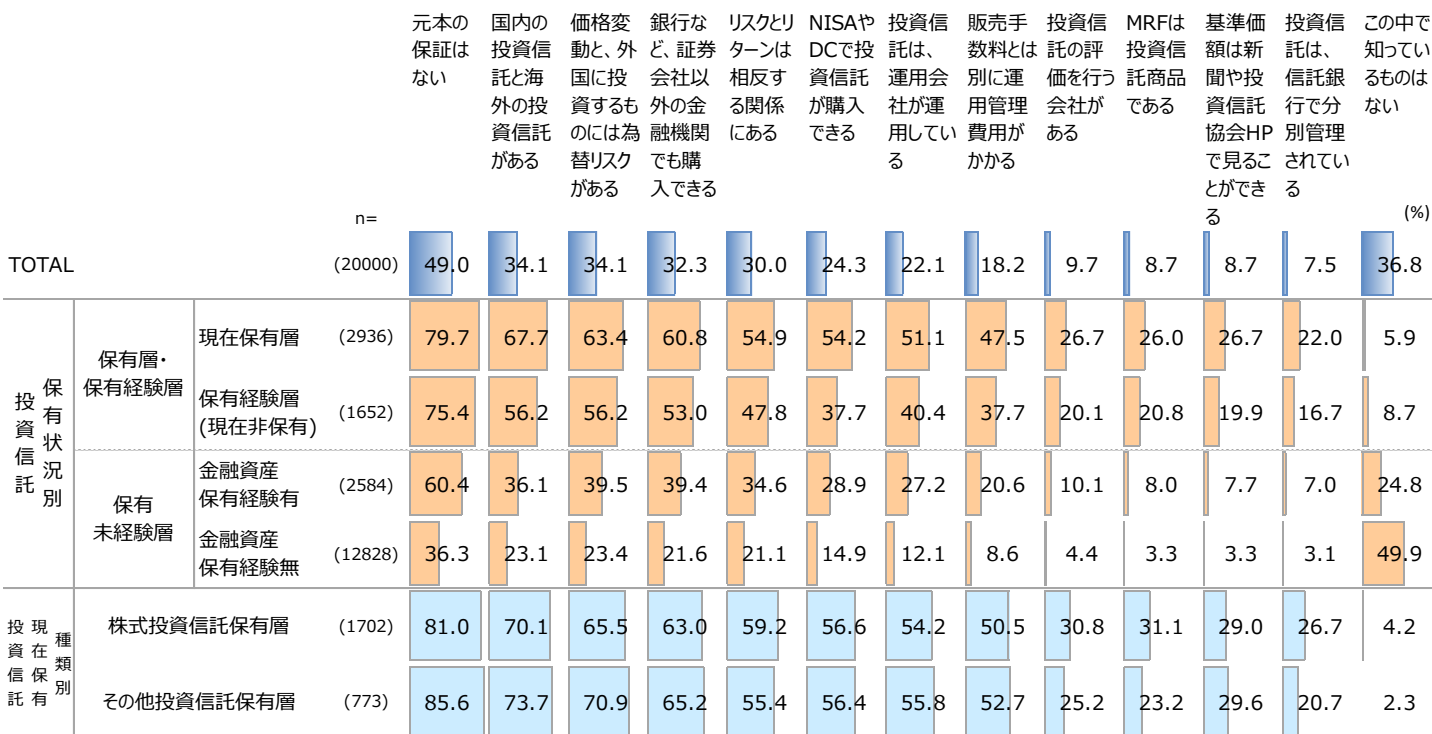
〔図 7-3〕

		n=	元本の保証 はない	国内の投資 信託と海外 の投資信託 がある	価格変動 と、外国に投 資するもの は為替リスク がある	銀行など、証 券会社以外 の金融機関 でも購入でき る	リスクとリター ンは相反す る関係にある	NISAやDC で投資信託 が購入できる	投資信託 は、運用会 社が運用し ている	販売手数料 とは別に運 用管理費用 がかかる	投資信託の 評価を行う 会社がある	MRFは投資 信託商品で ある	基準価額は 新聞や投資 信託協会 HPで見ること ができる	投資信託 は、信託銀 行で分別管 理されている	この中で知っ ているものは ない	(%)
TOTAL		(20000)	49.0	34.1	34.1	32.3	30.0	24.3	22.1	18.2	9.7	8.7	8.7	7.5	36.8	
20代	100万円未満	(224)	19.2	21.0	21.0	17.4	25.0	11.2	13.8	5.8	7.6	4.5	4.9	4.9	57.1	
	～300万円未満	(445)	22.2	18.7	21.1	16.2	21.8	13.0	12.1	7.2	6.7	2.7	3.6	2.9	56.6	
	～500万円未満	(635)	33.1	23.9	26.9	20.3	22.2	18.9	15.6	10.2	7.9	4.7	4.4	6.3	47.1	
	～1000万円未満	(383)	38.9	35.5	36.0	25.6	29.0	24.5	20.6	16.7	13.3	6.3	8.6	9.1	38.1	
	1000万円以上	(109)	39.4	35.8	32.1	29.4	37.6	25.7	22.0	15.6	12.8	10.1	10.1	7.3	37.6	
30代	100万円未満	(142)	24.6	18.3	18.3	21.8	16.2	16.9	14.1	9.2	7.0	3.5	6.3	4.9	54.9	
	～300万円未満	(348)	32.8	22.4	22.4	20.4	22.7	14.1	10.3	8.6	6.0	5.5	2.9	2.9	52.0	
	～500万円未満	(775)	37.9	27.4	28.0	24.9	24.4	20.8	17.7	13.0	7.4	6.1	6.2	5.4	43.4	
	～1000万円未満	(968)	55.1	40.0	39.4	35.2	34.3	33.4	28.1	23.1	13.9	8.9	9.9	9.1	30.2	
	1000万円以上	(124)	71.8	59.7	48.4	49.2	52.4	46.0	42.7	33.9	25.8	19.4	16.9	18.5	16.9	
40代	100万円未満	(130)	37.7	30.8	20.8	23.1	20.8	16.9	12.3	11.5	6.2	4.6	3.8	3.1	43.8	
	～300万円未満	(464)	36.6	25.4	24.6	23.1	23.5	16.2	13.6	11.0	6.5	5.4	4.5	3.7	48.5	
	～500万円未満	(674)	49.9	34.3	33.4	27.6	26.3	24.0	19.6	14.1	5.8	4.9	5.8	6.8	36.1	
	～1000万円未満	(1211)	57.1	40.5	39.9	36.5	33.2	28.6	26.8	21.7	10.7	9.7	9.8	8.9	29.6	
	1000万円以上	(245)	64.1	47.8	51.0	44.9	45.7	36.7	39.2	32.2	23.3	18.4	18.0	20.0	22.9	
50代	100万円未満	(118)	50.0	39.0	33.1	28.0	26.3	26.3	23.7	22.0	11.9	11.0	9.3	7.6	32.2	
	～300万円未満	(317)	52.7	31.2	32.2	32.5	29.7	22.7	16.7	18.9	9.5	7.6	6.9	6.3	34.7	
	～500万円未満	(485)	56.9	35.9	39.2	34.6	28.5	23.3	21.4	16.5	8.2	7.2	7.4	7.0	32.0	
	～1000万円未満	(888)	60.1	37.5	40.7	40.2	37.7	30.2	27.4	21.8	14.0	11.7	10.4	12.2	26.2	
	1000万円以上	(344)	73.0	51.5	49.7	48.8	51.2	38.4	43.3	36.6	21.8	18.3	20.3	20.3	19.2	
60代	100万円未満	(167)	46.7	32.9	26.3	32.3	28.7	21.0	16.2	12.0	6.0	6.6	6.6	3.0	39.5	
	～300万円未満	(786)	58.0	36.9	34.6	37.0	32.1	24.4	21.8	19.3	8.4	9.3	7.8	7.3	28.6	
	～500万円未満	(856)	64.8	45.1	43.8	45.4	40.2	31.4	30.4	26.2	12.0	13.2	12.6	9.8	20.1	
	～1000万円未満	(604)	69.9	49.3	47.0	51.0	47.4	37.6	34.3	29.6	15.9	16.1	15.6	11.6	18.2	
	1000万円以上	(183)	71.0	53.6	53.0	54.1	47.0	41.5	39.9	38.3	17.5	21.3	19.1	17.5	16.4	
70代	100万円未満	(98)	43.9	23.5	29.6	32.7	26.5	20.4	15.3	15.3	4.1	9.2	6.1	6.1	41.8	
	～300万円未満	(809)	59.1	39.9	40.5	41.7	33.7	26.8	27.6	21.1	8.5	9.1	11.7	9.5	24.1	
	～500万円未満	(823)	67.6	52.6	51.6	50.7	41.8	31.5	33.4	28.4	12.5	14.2	14.6	10.2	14.1	
	～1000万円未満	(367)	71.1	51.0	54.8	51.5	46.3	40.9	40.9	39.2	19.3	17.2	21.3	17.2	15.0	
	1000万円以上	(68)	75.0	50.0	60.3	66.2	50.0	36.8	44.1	41.2	26.5	26.5	22.1	20.6	13.2	

# 7. 投資信託全般に関する状況（全体）

## （1）投資信託の商品特徴認知状況〔Q10:重複回答〕

〔図 7-4〕



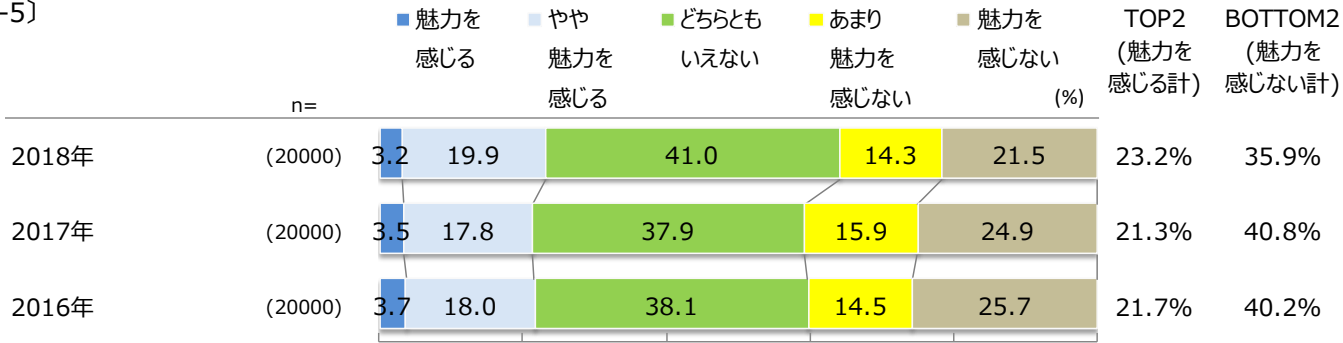


# 7. 投資信託全般に関する状況（全体）

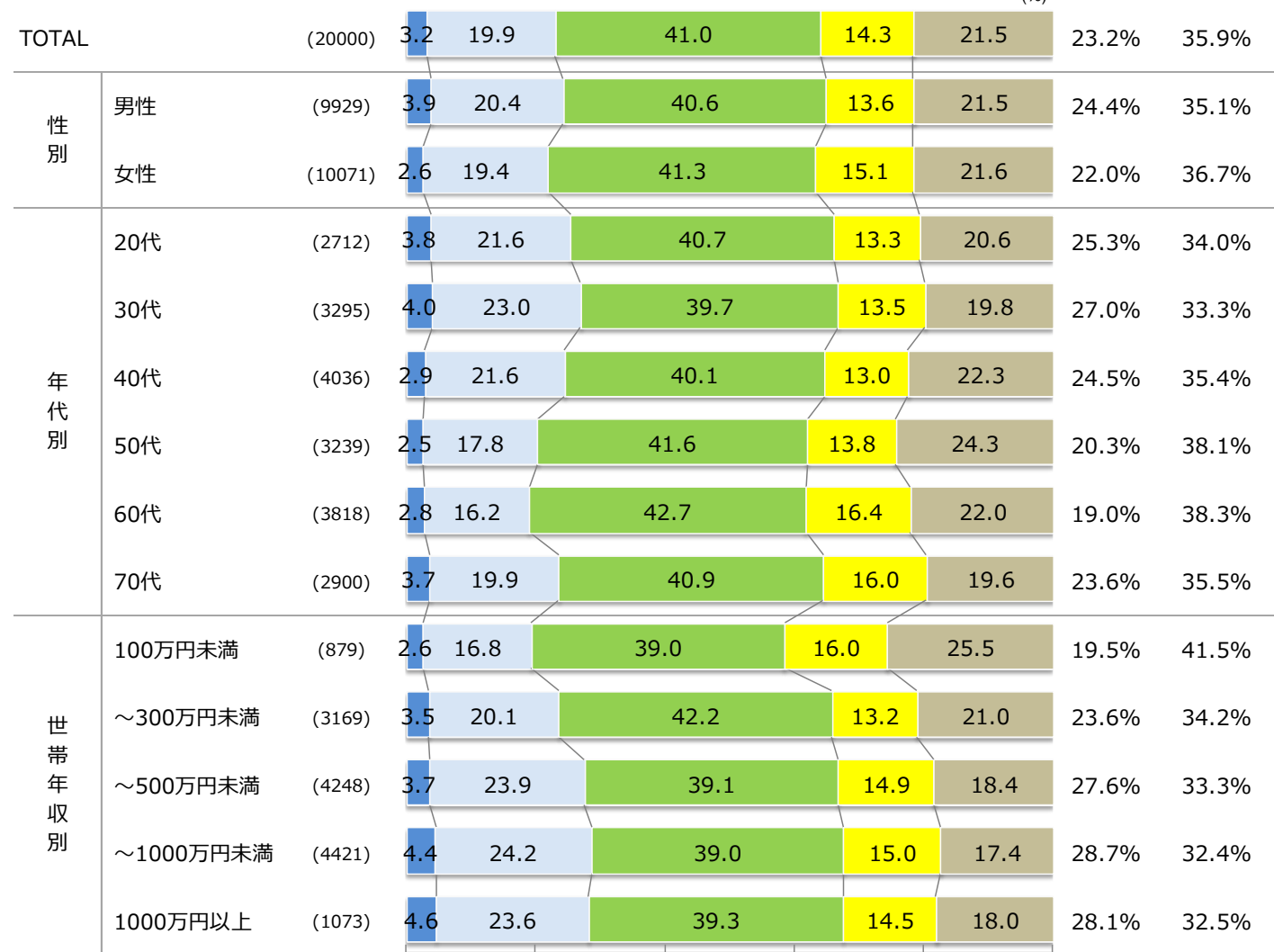
## (2) 毎月分配型投資信託への魅力有無〔Q21:単数回答〕

- 毎月分配型投資信託の魅力度は、TOP2(魅力を感じる計)が23.2%と前回と同程度となる。〔図7-5〕
- 投信保有状況別では、現在保有層でTOP2(37.2%)が高い。〔図7-7〕
- 投信現在保有層の年代別では、30代でTOP2(42.0%)が最も高いが、20代で「魅力を感じる」が11.6%とやや高く、一部の層で魅力を強く感じられている様子。〔図7-8〕

〔図 7-5〕



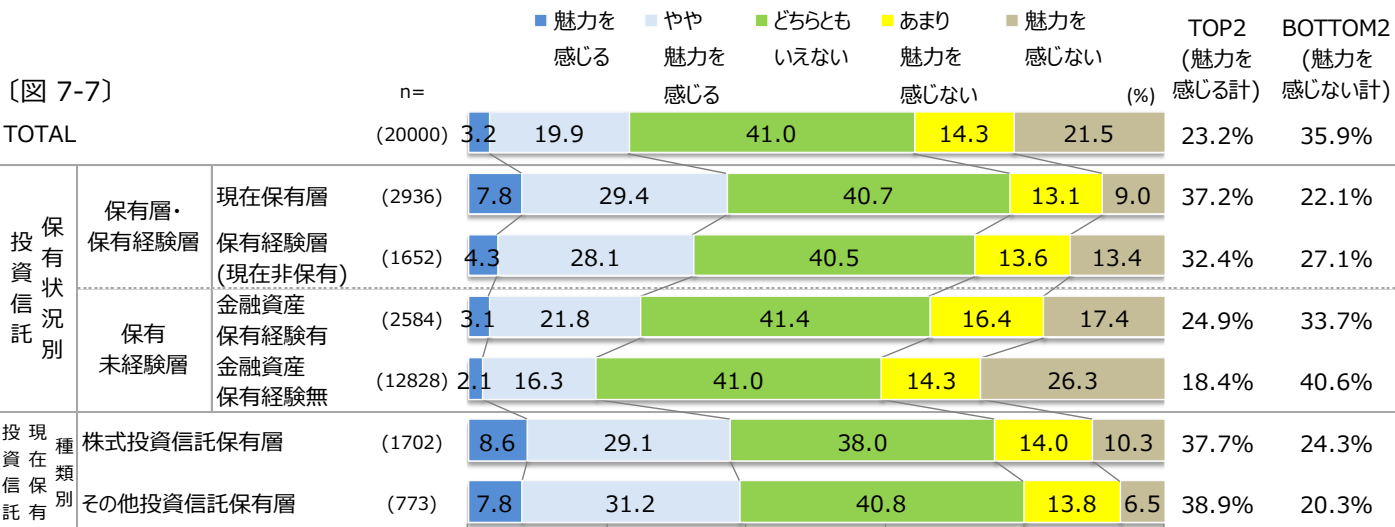
〔図 7-6〕



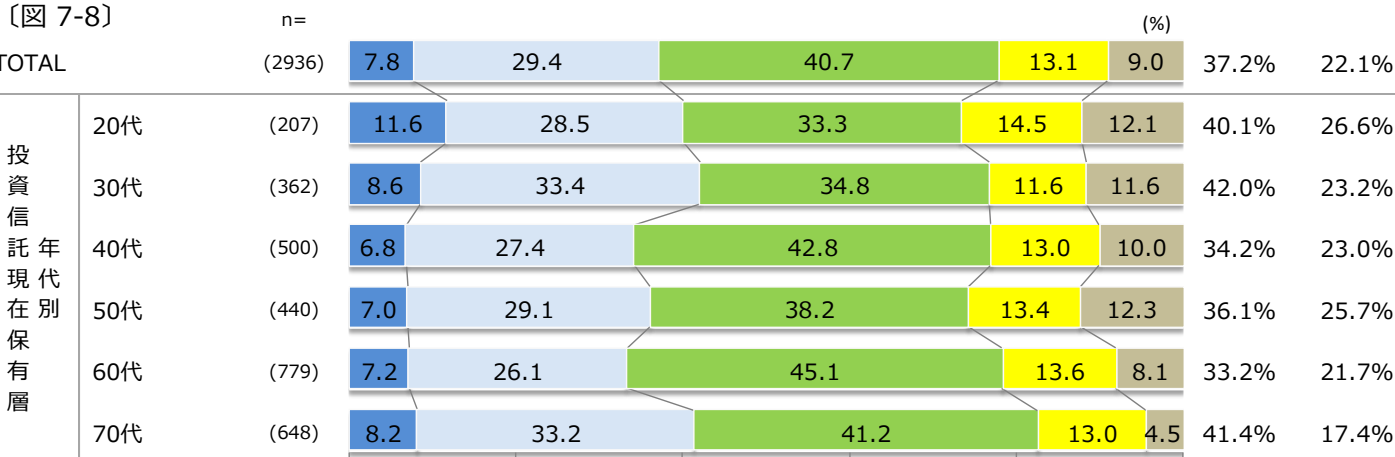
# 7. 投資信託全般に関する状況（全体）

## (2) 毎月分配型投資信託への魅力有無〔Q21:単数回答〕

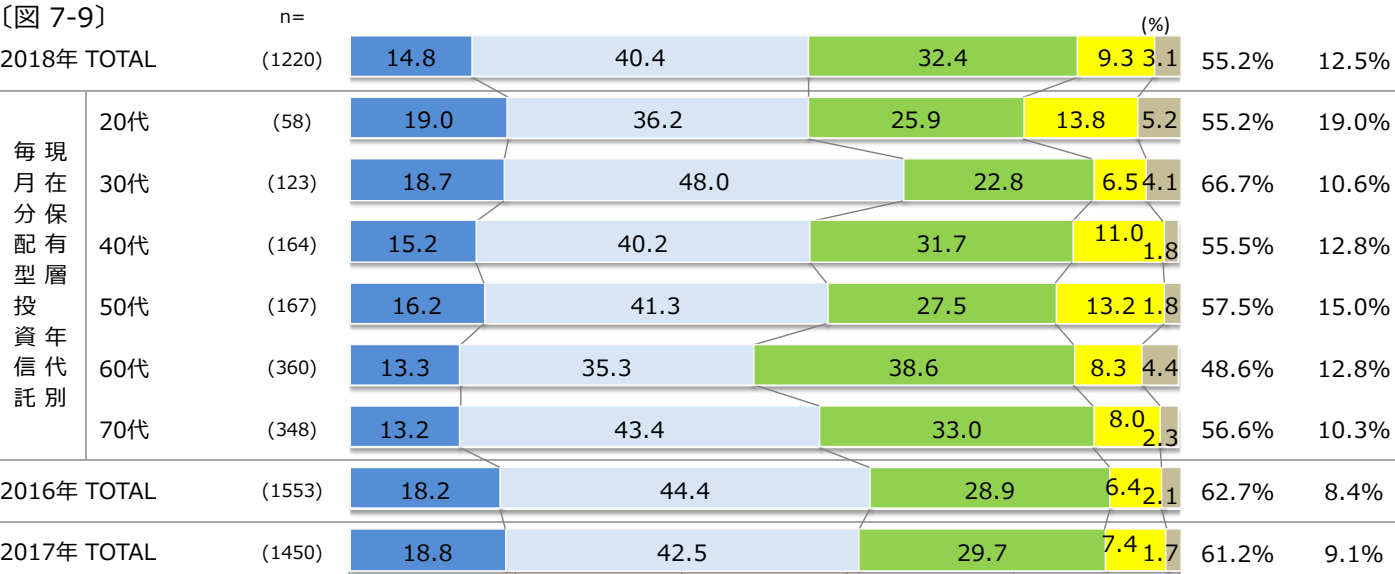
〔図 7-7〕



〔図 7-8〕



〔図 7-9〕



## 7. 投資信託全般に関する状況（全体）

### (3) 毎月分配型投資信託商品の魅力点(毎月分配型魅力者) 〔Q22：重複回答〕

- 毎月分配型投資信託の魅力点では、前回同様に「分配金を受け取ることで安心できる」(57.2%)、「毎月利益を確定したい」(56.9%)が上位にあがる。〔図7-10〕
- 年代別で見ると、年代が上がるにつれ「分配金で年金補完」が増加し、70代(25.3%)では毎月分配型投資信託に魅力を感じている人のうち、4人に1人が評価している様子。〔図7-11〕

〔図 7-10〕

	n=	分配金を受け取る ことで安心できる で	毎月利益を確定し たいので	一部払戻し分配金 で年金収入を補完 する上で活用できる	毎月分配型投資 信託の他に魅力的 な商品がなかった	その他	(%)
2018年	(4631)	57.2	56.9	15.9	4.5	0.6	
2017年	(4254)	56.2	59.8	17.2	5.0	0.3	
2016年	(4346)	57.6	59.0	17.6	5.5	0.5	

〔図 7-11〕

		n=	分配金を受け取る ことで安心できる で	毎月利益を確定し たいので	一部払戻し分配金 で年金収入を補完 する上で活用できる	毎月分配型投資 信託の他に魅力的 な商品がなかった	その他	(%)
TOTAL		(4631)	57.2	56.9	15.9	4.5	0.6	
性別	男性	(2418)	55.2	56.3	18.2	5.8	0.7	
	女性	(2213)	59.4	57.5	13.3	3.1	0.6	
年代別	20代	(687)	51.2	61.0	10.6	6.6	0.9	
	30代	(889)	58.8	59.3	11.1	3.3	0.6	
	40代	(989)	58.8	61.6	13.4	4.0	0.9	
	50代	(658)	58.4	55.6	13.7	6.2	0.6	
	60代	(724)	59.8	53.3	23.1	3.2	0.4	
	70代	(684)	54.8	48.0	25.3	4.5	0.3	
世帯 年収別	100万円未満	(171)	51.5	63.2	13.5	3.5	1.2	
	～300万円未満	(747)	56.9	53.5	19.4	3.7	0.7	
	～500万円未満	(1171)	57.0	56.6	15.1	4.4	0.3	
	～1000万円未満	(1267)	57.0	56.5	16.4	4.4	0.8	
	1000万円以上	(302)	56.0	56.3	14.6	7.3	0.7	

〔図 7-12〕

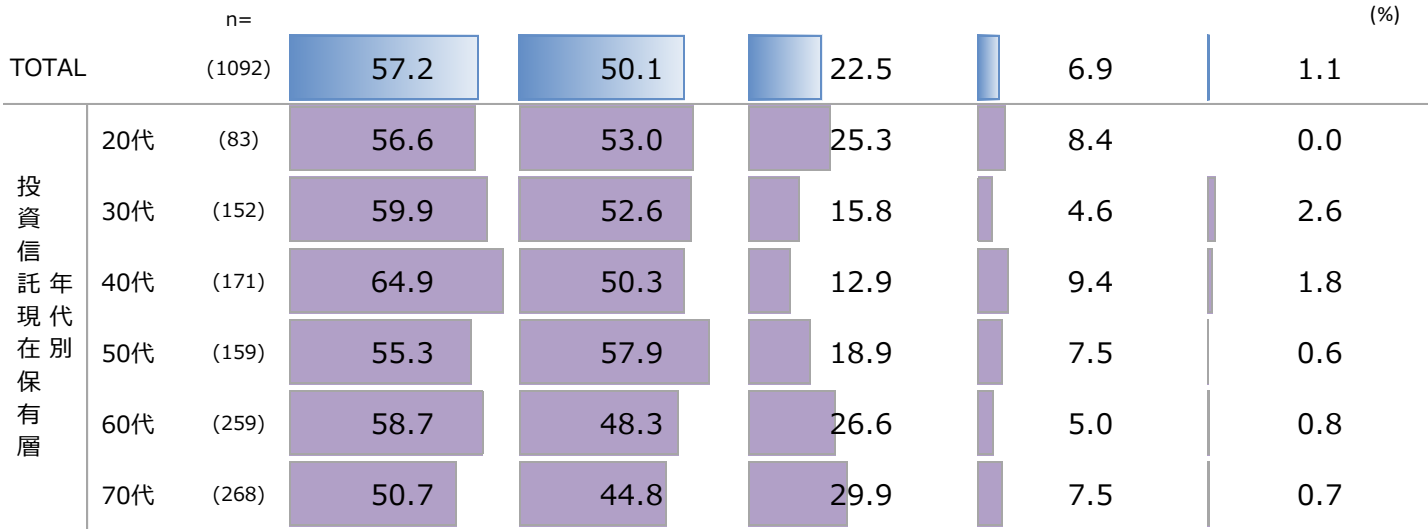
		n=	分配金を受け取る ことで安心できる で	毎月利益を確定し たいので	一部払戻し分配金 で年金収入を補完 する上で活用できる	毎月分配型投資 信託の他に魅力的 な商品がなかった	その他	(%)
TOTAL		(4631)	57.2	56.9	15.9	4.5	0.6	
投資 信託 保有 状況 別	保有層・ 保有経験層	現在保有層	(1092)	57.2	50.1	22.5	6.9	1.1
		保有経験層 (現在非保有)	(536)	60.4	51.7	18.5	3.2	0.4
	保有 未経験層	金融資産 保有経験有	(643)	58.5	58.9	15.6	3.6	0.5
		金融資産 保有経験無	(2360)	56.1	60.7	12.3	4.0	0.5

## 7. 投資信託全般に関する状況（全体）

### (3) 毎月分配型投資信託商品の魅力点(毎月分配型魅力者) 〔Q22：重複回答〕

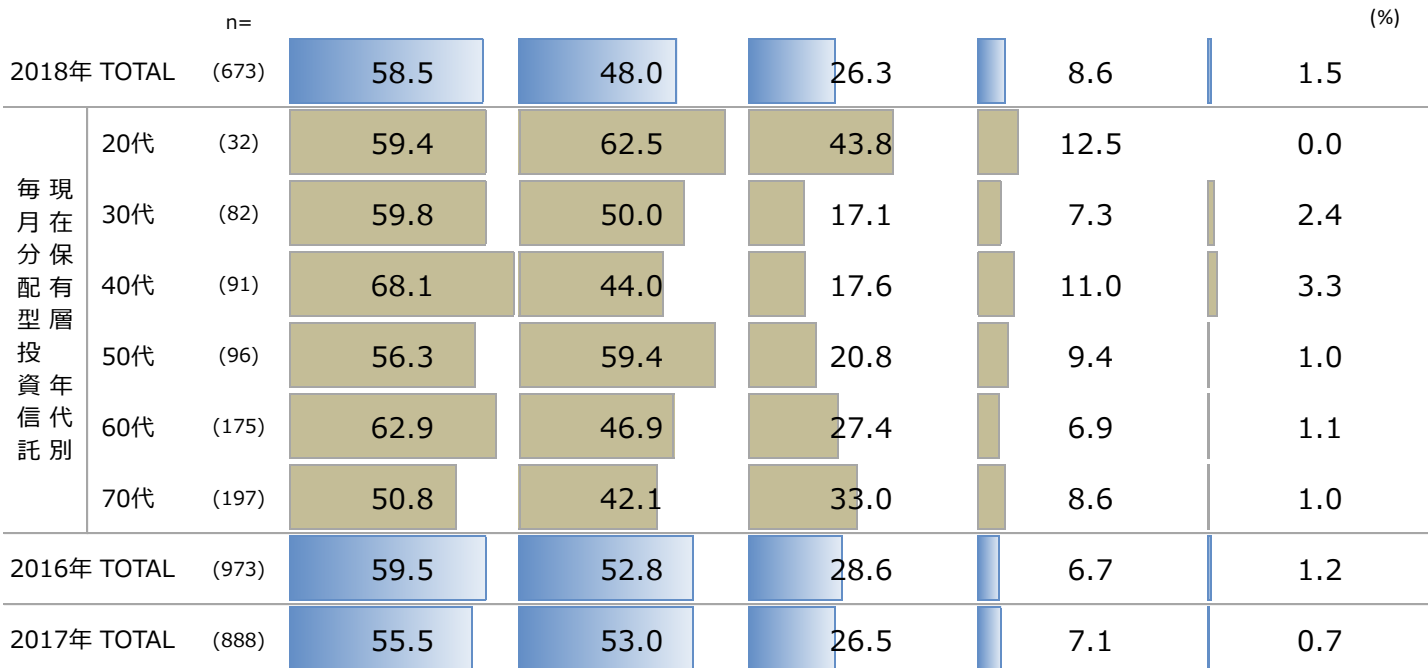
〔図 7-13〕

分配金を受け取ることで安心できる  
で  
毎月利益を確定したいので  
一部払戻し分配金で年金収入を補完する上で活用できる  
毎月分配型投資信託の他に魅力的な商品がなかった  
その他



〔図 7-14〕

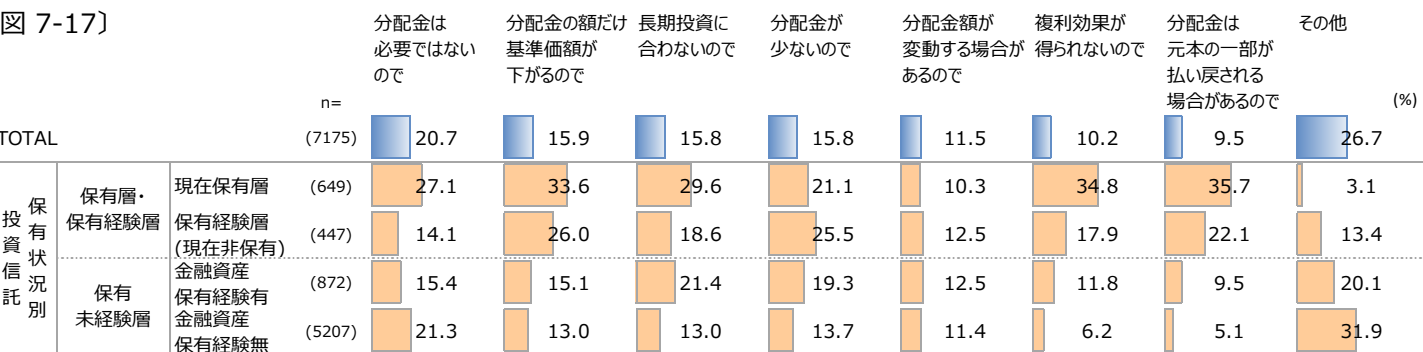
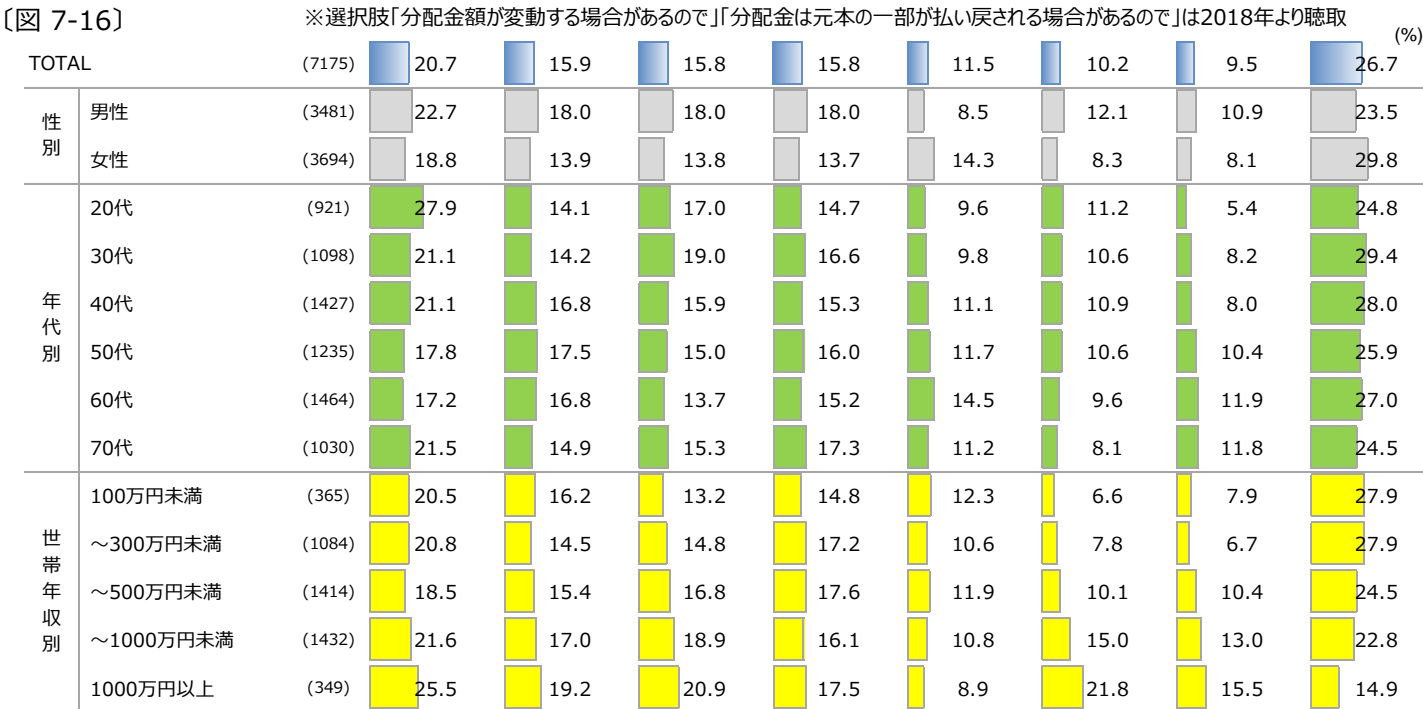
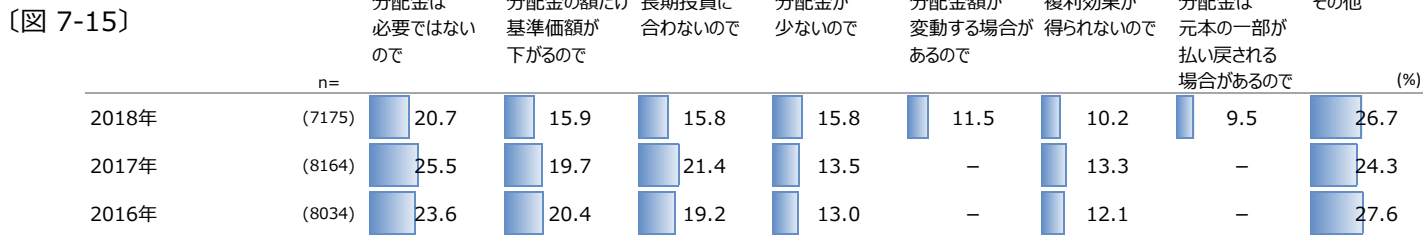
分配金を受け取ることで安心できる  
で  
毎月利益を確定したいので  
一部払戻し分配金で年金収入を補完する上で活用できる  
毎月分配型投資信託の他に魅力的な商品がなかった  
その他



# 7. 投資信託全般に関する状況（全体）

## (4) 毎月分配型投資信託商品の非魅力点(毎月分配型非魅力者) 〔Q23：重複回答〕

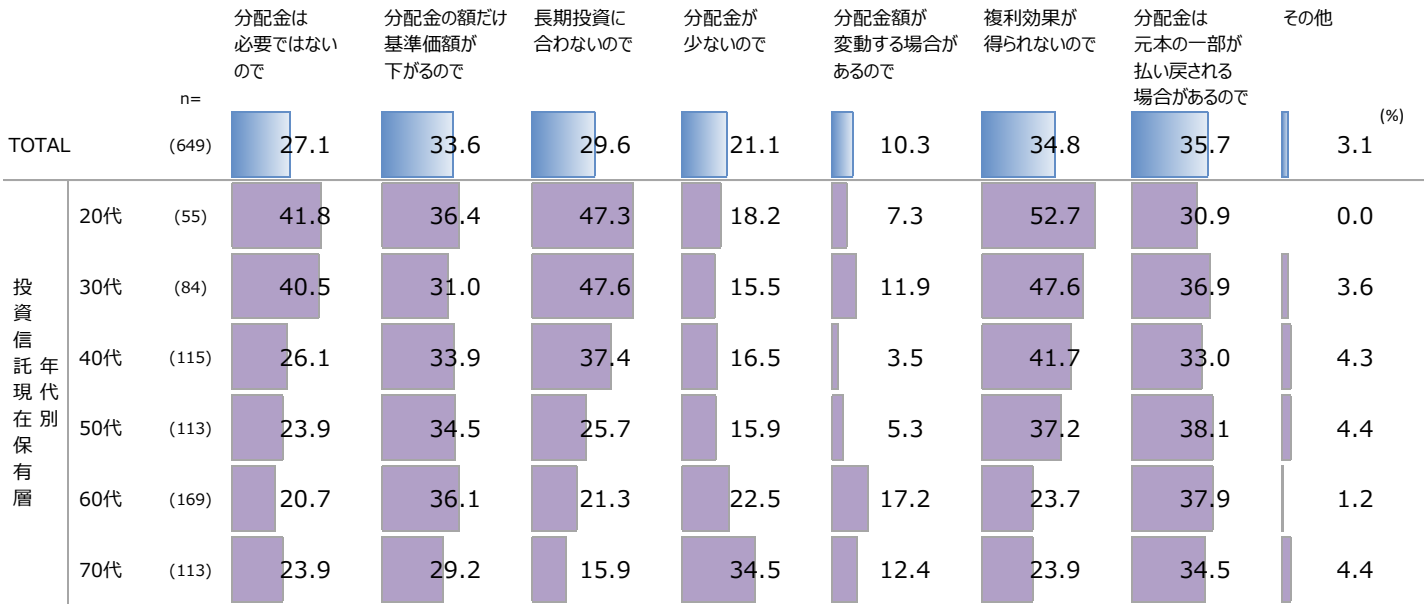
- 毎月分配型投資信託の非魅力点は、前回同様に、目立って高い項目はなく分散傾向。〔図7-15〕
- 年代別では、20代で「分配金は必要ない」(27.9%)が他層に比べて高い。〔図7-16〕
- 世帯年収別では、年収が高くなるほど「分配金額が変動する場合があるので」を除きどの項目も高くなる傾向。〔図7-16〕
- 投資保有状況別でみると、現在保有層で「基準価額が下がる」(33.6%)、「複利効果が得られない」(34.8%)、「元本の一部が払い戻される場合がある」(35.7%)ことへの不満が特に強い。〔図7-17〕



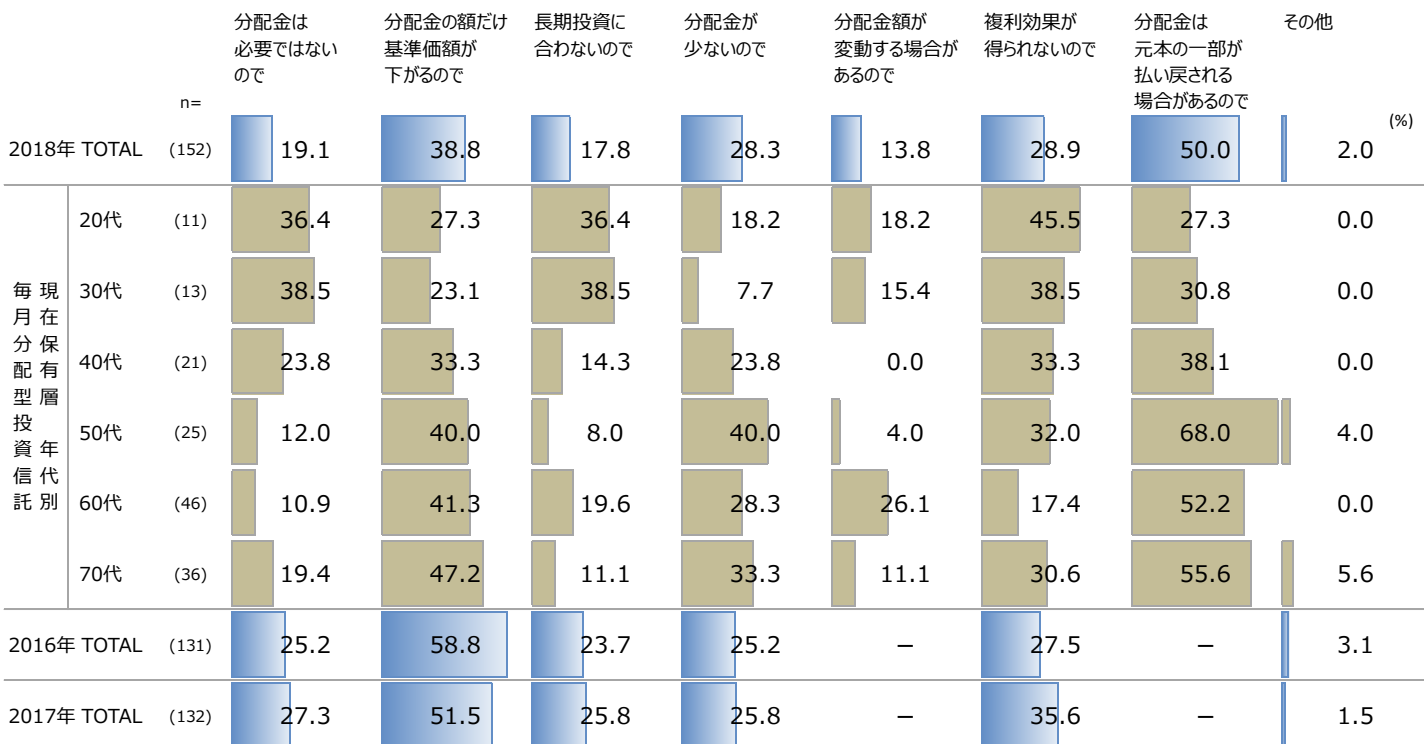
## 7. 投資信託全般に関する状況（全体）

### (4) 毎月分配型投資信託商品の非魅力点(毎月分配型非魅力者) 〔Q23：重複回答〕

〔図 7-18〕



〔図 7-19〕



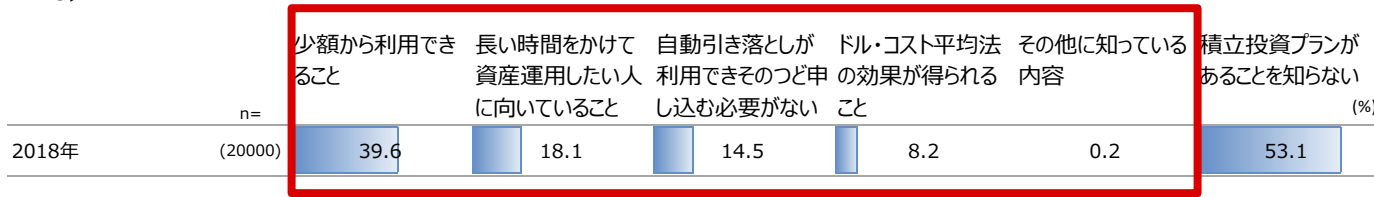
※選択肢「分配金額が変動する場合があるので」「分配金は元本の一部が払い戻される場合があるので」は2018年より聴取

# 7. 投資信託全般に関する状況（全体）

## (5) 積立投資プランの内容認知〔Q18：重複回答〕

- 積立投資プランについていずれかの内容認知率は、全体で46.9%と半数近くへのぼる。具体的には、「少額から利用できる」(39.6%)が突出、以下「長い時間をかけて資産運用したい人向き」「自動引き落としが利用可能」が1割以上で続く。

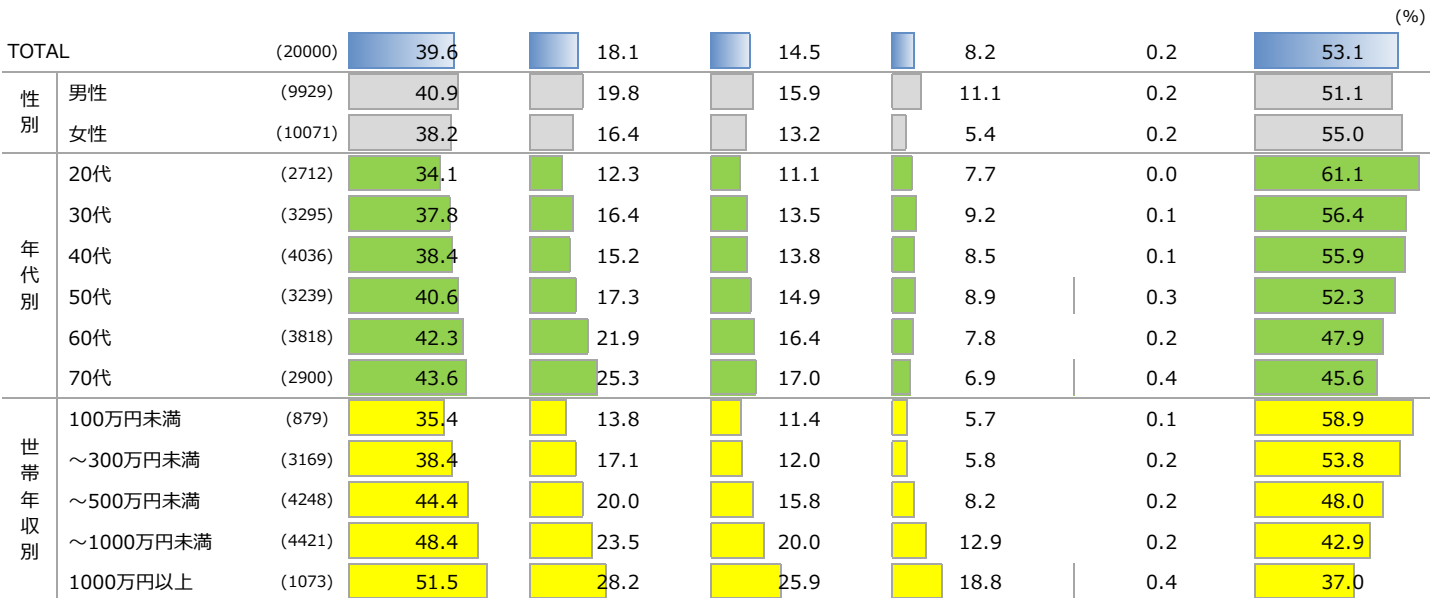
〔図7-20〕



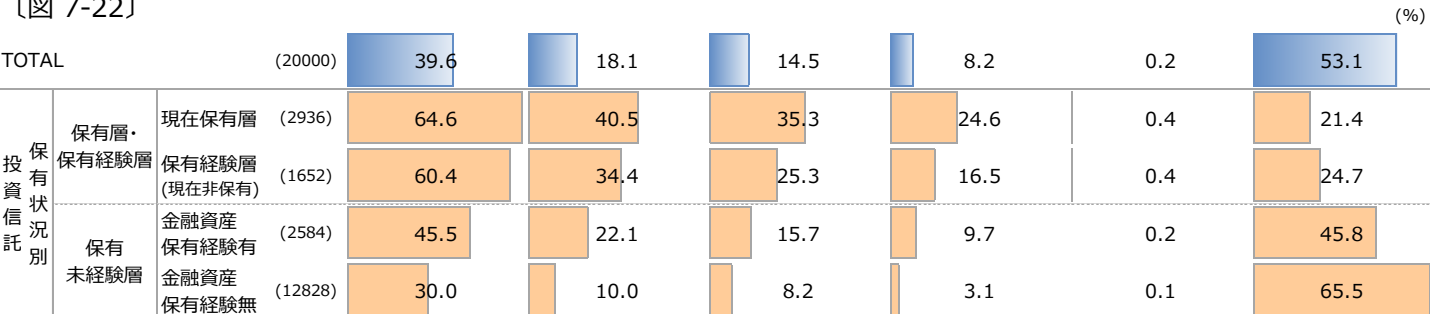
「積立投資プラン」の認知率46.9%(赤枠内のいずれかの特徴を知っている人)

〔図7-21〕

※選択肢「長い時間をかけて資産運用したい人に向いていること」は2018年より聴取



〔図7-22〕



# 7. 投資信託全般に関する状況（全体）

## (6) ドル・コスト平均法の内容認知〔Q19：重複回答〕

- ドル・コスト平均法は存在自体の認知が低く、「あることを知らない」人が69.6%にのぼる。内容では、「投資のリスク軽減法の一つ」が14.3%で最も認知が高い。〔図7-23〕
- 年代および世帯年収が上がるにつれ、ドル・コスト平均法自体の認知は増加、どの内容項目の認知も微増する傾向。〔図7-24〕
- 投資保有状況別でみると、現在保有層は他層に比べどの項目も高めだが、特に「投資のリスク軽減法の一つ」(35.9%)が最も高い認知内容。〔図7-25〕

〔図 7-23〕

年	n=	投資に伴うリスクを軽減する方法の一つであること							投資のリスク軽減法の一つ	
		一定金額で同一の商品を買い付けていく方法であること	リスクを軽減するための「時間の分散」が図れること	結果として平均買付金額を引き下げることが期待できること	財形貯蓄や確定拠出年金で活用できること	その他に知っている内容	内容は知らないが、名前は聞いたことがある	ドル・コスト平均法があることを知らない		
2018年	(20000)	14.3	10.4	8.7	8.6	6.4	0.2	7.5	69.6	
2017年	(20000)	12.5	9.2	-	8.0	5.9	0.1	8.0	71.3	

「ドル・コスト平均法」の内容認知率2018年：22.9%／2017年：20.7%(赤枠内のいずれかの特徴を知っている人)  
 ※2017年は「長時間かけて資産形成をしたい人に向いている投資方法」(8.8%)を含む認知率

〔図 7-24〕

※選択肢「リスクを軽減するための「時間の分散」が図れること」は2018年より聴取

性別	年	n=	投資のリスク軽減法の一つ							ドル・コスト平均法があることを知らない
			一定金額で同一の商品を買い付けていく方法であること	リスクを軽減するための「時間の分散」が図れること	結果として平均買付金額を引き下げることが期待できること	財形貯蓄や確定拠出年金で活用できること	その他に知っている内容	内容は知らないが、名前は聞いたことがある		
TOTAL		(20000)	14.3	10.4	8.7	8.6	6.4	0.2	7.5	69.6
男性		(9929)	18.6	13.3	11.5	11.4	7.8	0.2	7.4	64.2
女性		(10071)	10.0	7.5	5.9	5.8	5.1	0.1	7.7	75.0
20代		(2712)	13.2	7.7	7.0	6.7	5.6	0.0	6.7	74.3
30代		(3295)	14.7	10.1	9.0	8.6	6.6	0.1	6.3	71.9
40代		(4036)	13.6	9.8	8.5	8.1	6.6	0.1	6.6	72.2
50代		(3239)	14.6	10.2	8.8	8.5	7.2	0.1	7.6	69.3
60代		(3818)	13.9	11.5	9.4	9.4	5.9	0.3	8.5	66.7
70代		(2900)	15.7	12.7	9.2	9.9	6.5	0.3	9.6	63.1
100万円未満		(879)	10.7	7.7	6.3	5.9	4.1	0.1	6.1	76.9
～300万円未満		(3169)	11.2	8.5	6.2	6.9	5.3	0.1	7.8	71.5
～500万円未満		(4248)	15.3	11.1	8.9	8.5	6.5	0.1	8.5	67.1
～1000万円未満		(4421)	20.4	15.3	13.7	13.3	9.5	0.1	8.2	60.4
1000万円以上		(1073)	29.5	22.3	19.0	19.6	13.4	0.2	7.6	50.1

〔図 7-25〕

投資信託保有状況別	年	n=	投資のリスク軽減法の一つ							ドル・コスト平均法があることを知らない
			一定金額で同一の商品を買い付けていく方法であること	リスクを軽減するための「時間の分散」が図れること	結果として平均買付金額を引き下げることが期待できること	財形貯蓄や確定拠出年金で活用できること	その他に知っている内容	内容は知らないが、名前は聞いたことがある		
TOTAL		(20000)	14.3	10.4	8.7	8.6	6.4	0.2	7.5	69.6
保有層・保有経験層	現在保有層	(2936)	35.9	30.5	26.5	27.4	16.7	0.3	9.6	37.1
	保有経験層(現在非保有)	(1652)	28.7	21.2	17.7	18.8	10.5	0.4	10.7	44.0
未保有層	金融資産保有経験有	(2584)	17.9	12.5	10.1	9.8	7.0	0.1	10.2	62.4
	金融資産保有経験無	(12828)	6.7	4.0	3.1	2.7	3.4	0.1	6.1	81.8



# 7. 投資信託全般に関する状況（全体）

## （6）ドル・コスト平均法の内容認知〔Q19：重複回答〕

〔図 7-26〕 2017年度結果 年代別、世帯年収別

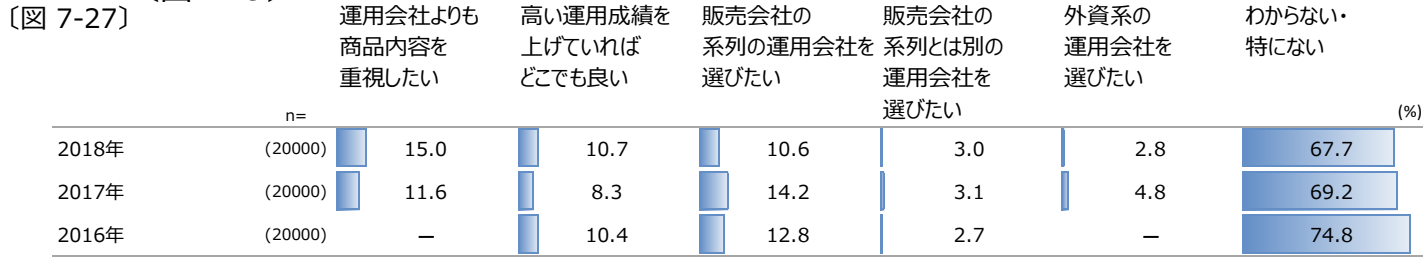
		n=	投資に伴うリスクを軽減する方法の一つであること	一定金額で同一の商品を買い付けていく方法であること	リスクを軽減するための「時間の分散」が図れること	結果として平均買付金額を引き下げる効果が期待できること	財形貯蓄や確定拠出年金で活用できること	その他に知っている内容	内容は知らないが、名前は聞いたことがある	ドル・コスト平均法があることを知らない	(%)
TOTAL		(20000)	14.3	10.4	8.7	8.6	6.4	0.2	7.5	69.6	
性別	男性	(9929)	18.6	13.3	11.5	11.4	7.8	0.2	7.4	64.2	
	女性	(10071)	10.0	7.5	5.9	5.8	5.1	0.1	7.7	75.0	
年代別	20代	(2712)	13.2	7.7	7.0	6.7	5.6	0.0	6.7	74.3	
	30代	(3295)	14.7	10.1	9.0	8.6	6.6	0.1	6.3	71.9	
	40代	(4036)	13.6	9.8	8.5	8.1	6.6	0.1	6.6	72.2	
	50代	(3239)	14.6	10.2	8.8	8.5	7.2	0.1	7.6	69.3	
	60代	(3818)	13.9	11.5	9.4	9.4	5.9	0.3	8.5	66.7	
	70代	(2900)	15.7	12.7	9.2	9.9	6.5	0.3	9.6	63.1	
世帯年収別	100万円未満	(879)	10.7	7.7	6.3	5.9	4.1	0.1	6.1	76.9	
	～300万円未満	(3169)	11.2	8.5	6.2	6.9	5.3	0.1	7.8	71.5	
	～500万円未満	(4248)	15.3	11.1	8.9	8.5	6.5	0.1	8.5	67.1	
	～1000万円未満	(4421)	20.4	15.3	13.7	13.3	9.5	0.1	8.2	60.4	
	1000万円以上	(1073)	29.5	22.3	19.0	19.6	13.4	0.2	7.6	50.1	

※選択肢「リスクを軽減するための「時間の分散」が図れること」は2018年より聴取

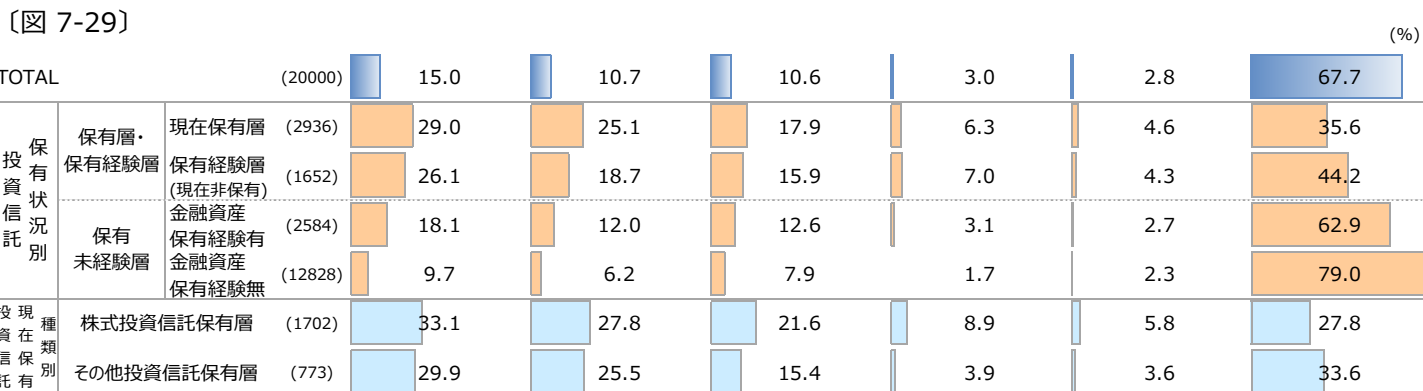
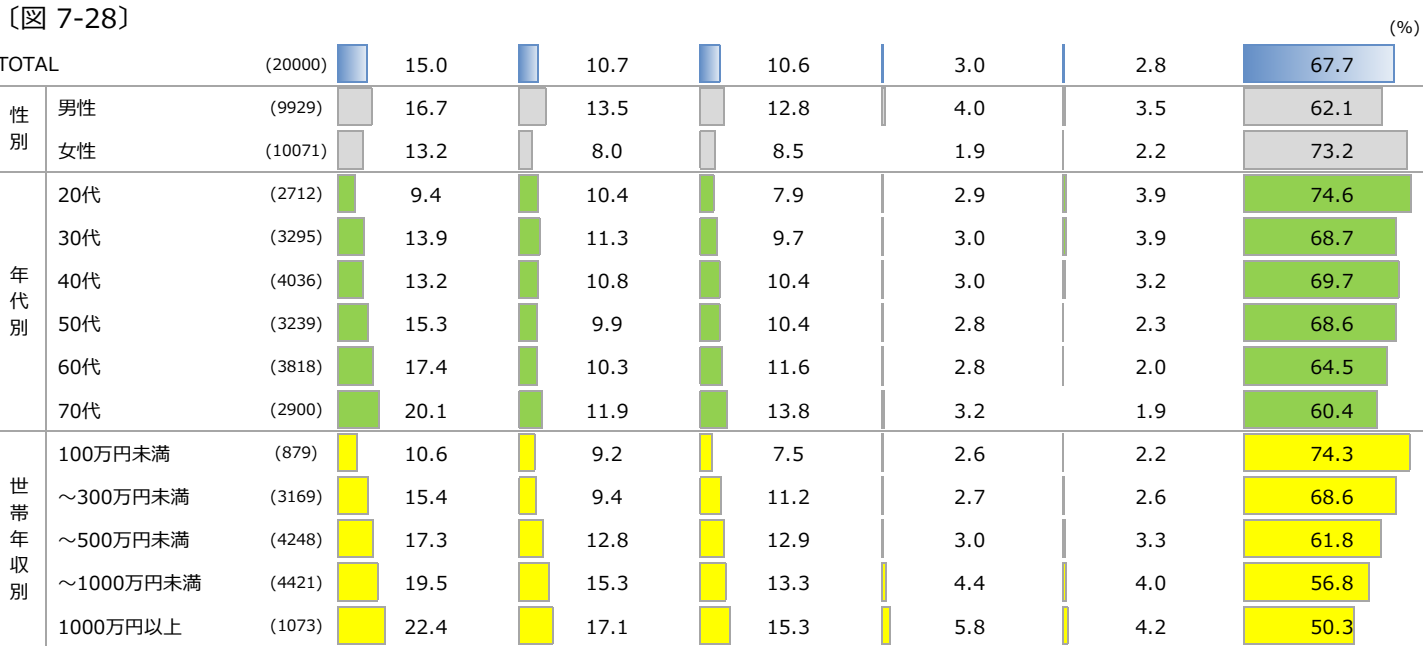
# 7. 投資信託全般に関する状況（全体）

## （7）投資信託運用会社に対する考え〔Q15：重複回答〕

- 投資信託の運用会社選びでは「運用会社より商品内容を重視したい」(15.0%)、「高い運用成績を上げていればどこでも良い」(10.7%)、「販売会社系列を選びたい」(10.6%)が上位にあがる。また「わからない・特にない」は67.7%と非常に高く、前回同様に大半の人が選択基準を想起できていない。〔図7-27〕
- 「わからない・特にない」は投資信託の現在保有層(35.6%)や保有経験層(44.2%)でも高い。〔図7-29〕



※選択肢「運用会社よりも商品内容(投資信託)を重視したい」「外資系の運用会社を選びたい」は2017年より聴取



# 7. 投資信託全般に関する状況（全体）

## （8）投資信託購入の際の、運用会社の重視点〔Q16：重複回答〕

- 運用会社の重視点では、「運用実績」(41.3%)、「資本力」(27.3%)、「知名度」(27.2%)が上位。また「運用実績」「知名度」は前回より増加。〔図7-30〕
- 年代別でみると、どの年代も「運用実績」が最も高く、30～50代では「アフターサービス」「運用体制」がやや高い。〔図7-31〕
- 投資信託保有状況別では、保有層・保有経験層で「運用実績」が、保有未経験層で「アフターサービス」が他層に比べ高くなる傾向。〔図7-32〕

〔図 7-30〕

	n=	運用実績	資本力	知名度	アフターサービス	運用体制	情報提供力	グループカ	商品開発力	その他	わからない・特にな
											い (%)
2018年	(20000)	41.3	27.3	27.2	19.5	15.5	13.1	11.2	8.9	0.4	42.0
2017年	(20000)	34.3	26.3	17.9	19.8	14.9	—	9.5	9.3	0.3	49.1
2016年	(20000)	30.6	22.7	15.3	—	15.5	—	8.5	—	—	55.6

〔図 7-31〕 ※選択肢「アフターサービス」「商品開発力」は2017年より聴取 ※選択肢「情報提供力」は2018年より聴取 (%)

	n=	運用実績	資本力	知名度	アフターサービス	運用体制	情報提供力	グループカ	商品開発力	その他	わからない・特にな
											い (%)
TOTAL	(20000)	41.3	27.3	27.2	19.5	15.5	13.1	11.2	8.9	0.4	42.0
性別											
男性	(9929)	43.3	26.8	27.3	16.8	16.1	13.1	12.0	9.7	0.4	40.0
女性	(10071)	39.3	27.8	27.0	22.1	15.0	13.2	10.4	8.1	0.4	44.1
年代別											
20代	(2712)	34.0	27.0	28.3	18.3	15.6	14.9	11.3	7.0	0.1	48.3
30代	(3295)	42.2	28.8	28.4	21.8	18.7	15.6	12.4	9.0	0.3	42.4
40代	(4036)	42.3	26.3	24.8	21.2	17.7	13.3	11.8	9.1	0.4	43.6
50代	(3239)	41.9	26.7	24.5	21.2	16.2	12.9	10.7	9.0	0.4	42.2
60代	(3818)	43.1	27.6	27.4	17.6	12.8	11.4	10.8	8.9	0.5	39.0
70代	(2900)	42.8	27.5	30.6	16.2	11.4	10.9	9.7	9.8	0.7	37.5
世帯年収別											
100万円未満	(879)	32.5	22.5	25.4	16.6	12.4	12.1	9.7	7.2	0.3	48.8
～300万円未満	(3169)	39.1	26.5	28.5	21.0	13.4	12.2	9.5	9.0	0.4	41.4
～500万円未満	(4248)	45.2	30.3	31.7	21.3	16.5	14.3	12.0	9.4	0.5	35.1
～1000万円未満	(4421)	51.1	31.0	29.7	21.4	18.8	15.4	13.0	10.7	0.3	31.9
1000万円以上	(1073)	55.1	32.6	27.6	18.1	19.9	16.4	15.1	11.7	0.9	26.7

〔図 7-32〕

	n=	運用実績	資本力	知名度	アフターサービス	運用体制	情報提供力	グループカ	商品開発力	その他	わからない・特にな
											い (%)
TOTAL	(20000)	41.3	27.3	27.2	19.5	15.5	13.1	11.2	8.9	0.4	42.0
投資信託保有状況別											
保有層・保有経験層											
現在保有層	(2936)	58.4	32.1	31.6	16.4	17.6	16.1	14.0	13.4	0.7	18.5
保有経験層 (現在非保有)	(1652)	56.6	32.3	33.5	17.9	16.4	14.9	12.9	11.6	0.8	22.2
保有未経験層											
金融資産保有経験層	(2584)	50.9	34.5	31.7	23.2	20.4	16.0	13.3	10.7	0.7	32.2
金融資産保有経験無	(12828)	33.5	24.1	24.4	19.7	13.9	11.6	9.9	7.1	0.2	52.0
現在保有種類別											
株式投資信託保有層	(1702)	61.5	34.9	34.0	15.0	20.1	18.4	15.4	16.0	0.7	14.3
その他投資信託保有層	(773)	61.2	30.0	29.2	21.0	14.7	15.0	12.8	11.1	0.9	16.6

## 7. 投資信託全般に関する状況（全体）

### (9) 投資信託の手数料特徴認知状況〔Q25:重複回答〕

- 手数料の特徴では前回同様、「販売会社に支払う費用」(26.9%)が最も高く、「販売会社で手数料が異なる場合がある」(18.8%)、「保有中は運用管理費用がかかる」(14.7%)が続く。〔図7-33〕
- 年代、世帯年収共に階層が上がるにつれ、どの項目の認知も高くなる。〔図7-34〕
- 投資信託の保有未経験(金融資産保有経験無)層では、どの特徴も知らない人が79.1%にのぼる。〔図7-35〕

〔図 7-33〕

	n=	購入時手数料は販売会社に支払う費用である	同じ投信でも販売会社で購入時手数料が異なる場合あり	投資信託を保有している期間中は運用管理費用がかかる	運用管理費用は投資信託財産から支払われている	運用管理費用率等は交付目論見書や運用報告書に記載される	購入／解約時に信託財産留保額が徴収されることがある	運用管理費用は運用／販売会社、受託銀行に支払われる	信託財産留保額は信託財産に留保される	内容がよくわからない／この中で知っているものはない	(%)
2018年	(20000)	26.9	18.8	14.7	9.2	7.5	6.2	5.0	3.8	64.0	
2017年	(20000)	25.9	17.7	14.2	9.2	7.5	6.0	4.9	3.4	64.9	
2016年	(20000)	27.1	18.4	13.8	8.8	8.1	6.2	5.0	3.5	65.1	

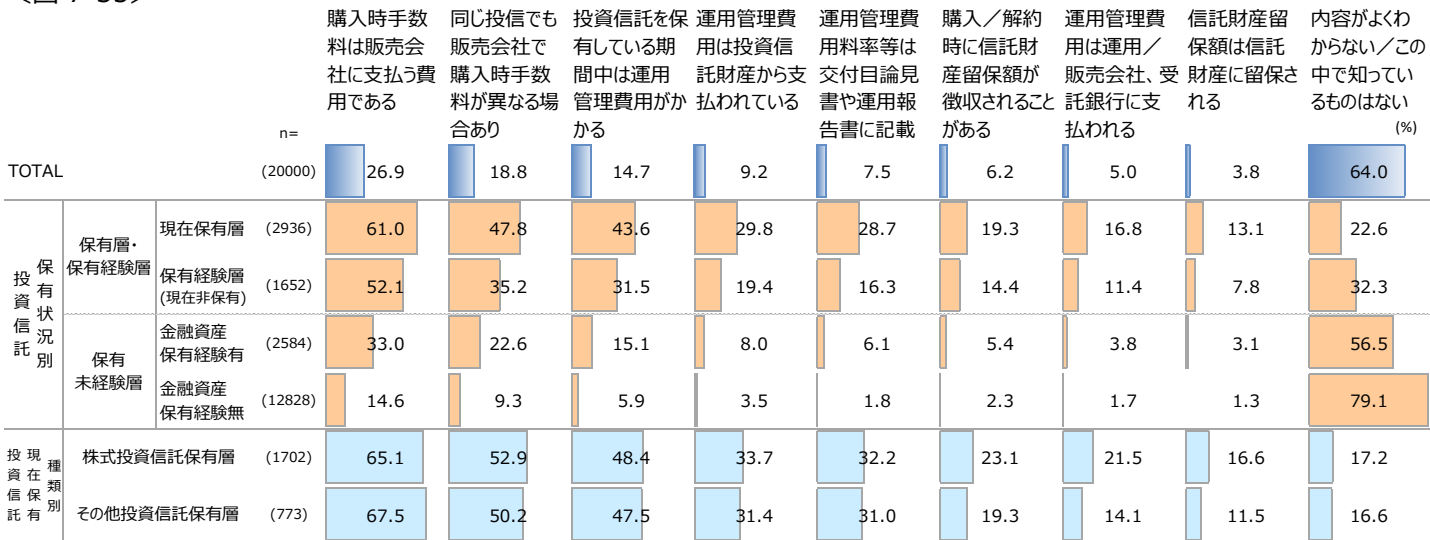
〔図 7-34〕

	n=	購入時手数料は販売会社に支払う費用である	同じ投信でも販売会社で購入時手数料が異なる場合あり	投資信託を保有している期間中は運用管理費用がかかる	運用管理費用は投資信託財産から支払われている	運用管理費用率等は交付目論見書や運用報告書に記載される	購入／解約時に信託財産留保額が徴収されることがある	運用管理費用は運用／販売会社、受託銀行に支払われる	信託財産留保額は信託財産に留保される	内容がよくわからない／この中で知っているものはない	(%)
TOTAL	(20000)	26.9	18.8	14.7	9.2	7.5	6.2	5.0	3.8	64.0	
性別											
男性	(9929)	30.0	21.6	18.1	11.9	9.5	7.7	6.8	4.9	59.8	
女性	(10071)	23.8	16.1	11.4	6.6	5.5	4.7	3.2	2.8	68.1	
年代別											
20代	(2712)	15.7	12.2	8.9	6.4	3.7	3.7	4.1	3.1	75.8	
30代	(3295)	20.5	15.8	12.2	7.0	5.6	4.8	4.0	3.5	70.8	
40代	(4036)	23.5	17.3	13.2	7.9	6.7	5.6	4.8	3.7	67.7	
50代	(3239)	26.9	19.9	15.3	9.8	8.0	6.2	4.9	4.0	64.2	
60代	(3818)	34.3	21.8	18.8	11.1	9.7	7.5	5.8	4.1	56.4	
70代	(2900)	39.4	25.1	19.1	13.2	10.8	9.3	6.3	4.3	49.7	
世帯年収別											
100万円未満	(879)	23.2	14.7	10.8	6.9	4.4	4.2	3.8	2.8	67.8	
～300万円未満	(3169)	26.6	16.2	12.3	6.8	5.8	5.1	3.4	2.9	64.6	
～500万円未満	(4248)	29.7	20.6	15.9	10.3	8.0	7.0	5.3	4.0	59.9	
～1000万円未満	(4421)	34.1	25.4	20.5	13.3	10.5	8.7	7.2	5.4	54.1	
1000万円以上	(1073)	41.2	33.6	27.3	19.8	16.1	12.8	13.4	9.7	46.0	

# 7. 投資信託全般に関する状況（全体）

## (9) 投資信託の手数料特徴認知状況〔Q25:重複回答〕

〔図 7-35〕



**末尾添付資料：調査票**



# 添付資料：調査票

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

**Q1** あなたはこれまでに「現金・預貯金(円)以外の金融資産」を保有したことがありますか。

※「現金・預貯金(円)以外の金融資産」…外貨預金、株式、債券(国債・公社債など)、投資信託、FX、ETF、REITなど。  
土地や不動産、保険は除きます。

- 1 保有したことがある
- 2 保有したことはない

## <Q2聴取対象：金融資産保有経験者(Q1=1)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

**Q2** あなたはこれまでに投資信託を保有したことがありますか。

※「投資信託」とは、複数の投資家から出資されたお金を一つの資金としてまとめ、ファンドマネージャーなどの資金運用の専門家が、株式や債券、REITなどに投資し、その成果(利益)を投資家に還元する金融商品のことを指します。

- 1 現在保有している
- 2 以前保有していたが、現在は保有していない
- 3 今まで保有したことがない

## <Q3聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

**Q3** 現在あなたが保有している投資信託の本数は、全部で何本ですか。

※ 同じ商品でも、コースや型・為替ヘッジの有無などで複数保有している場合は、それぞれを1本としてお答えください。

- 1 1~2本
- 2 3~5本
- 3 6~10本
- 4 11本以上
- 5 わからない・答えたくない

## <Q4聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

**Q4** あなたが直近で、新しく投資信託商品を購入した時期を教えてください。

※ 既に保有していた投資信託商品の買い増しではなく、これまで保有していなかった商品を新しく購入した時期についてお答えください。

- 1 1年未満
- 2 1年以上～2年未満
- 3 2年以上～5年未満
- 4 5年以上前
- 5 わからない・答えたくない

## <Q5聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

**Q5** 現在あなたが保有している投資信託の主な投資対象または種類につきましてお答えください。

- 1 国内株式に投資する投資信託
- 2 国内債券に投資する投資信託
- 3 外国株式に投資する投資信託
- 4 外国債券（国債、ハイイールド債等）に投資する投資信託
- 5 国内不動産投信（J-REIT）に投資する投資信託
- 6 外国の不動産投信に投資する投資信託
- 7 株式、債券など、いくつかの資産に分散して投資する投資信託
- 8 ETF  
（株価指数などに連動する投資信託で日本の証券取引所に上場しているもの）
- 9 不動産投信（J-REIT）  
（不動産に投資する、日本の証券取引所に上場しているもの）
- 10 その他
- 11 わからない・答えたくない <ex>



# 添付資料：調査票

## <Q6聴取対象：現在保有している投資信託の種類回答者(Q5=1~9のいずれか回答)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じた購入も含めて、お答えください。

**Q6** 現在あなたが保有している投資信託の、種類ごとの保有金額と、総合での保有金額を教えてください。

		1 1 0 0 万円未満	2 1 0 0 5 3 0 0 万円未満	3 3 0 0 5 5 0 0 万円未満	4 5 0 0 5 8 0 0 万円未満	5 8 0 0 5 1 0 0 0 万円未満	6 1 0 0 0 万円以上	7 わからない・答えたくない
<b>1</b> 国内株式に投資する投資信託 Q5の選択肢『1.国内株式に投資す...』を選択した	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>2</b> 国内債券に投資する投資信託 Q5の選択肢『2.国内債券に投資す...』を選択した	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>3</b> 外国株式に投資する投資信託 Q5の選択肢『3.外国株式に投資す...』を選択した	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>4</b> 外国債券(国債、ハイイールド債等)に投資する投資信託 Q5の選択肢『4.外国債券(国債、...』を選択した	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>5</b> 国内不動産投信(J-REIT)に投資する投資信託 Q5の選択肢『5.国内不動産投信(J...』を選択した	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>6</b> 外国の不動産投信に投資する投資信託 Q5の選択肢『6.外国の不動産投信...』を選択した	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>7</b> 株式、債券など、いくつかの資産に分散して投資する投資信託 Q5の選択肢『7.株式、債券など、...』を選択した	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>8</b> ETF (株価指数などに連動する投資信託で日本の証券取引所に上場しているもの) Q5の選択肢『8.ETF(株価指数など...』を選択した	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>9</b> 不動産投信(J-REIT) (不動産に投資する、日本の証券取引所に上場しているもの) Q5の選択肢『9.不動産投信(J-RE...』を選択した	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<b>10</b> 総合計 (保有している投資信託の金額の合計)	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

## <Q7聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

**Q7** あなたは、投資信託を購入した際どのような点を重視しましたか。また今後、投資信託を購入する場合に重視する点はどれでしょうか。  
それぞれ重視度の高い項目を、最大で3つまでお答えください。

		1 過去の運用実績	2 値下がりの不安が少ない	3 値上がりへの期待	4 換金のしやすさ	5 分配頻度	6 過去の分配金額	7 手数料や運用管理費用（信託報酬）の水準	8 純資産額の大きさ	9 少額から投資できる	10 評価会社による評価	11 商品内容のわかりやすさ	12 商品コンセプト（投資対象、投資テーマ、運用方針など）	13 その他	14 わからない・特にない <ex>
1	投資信託を購入した際に重視した点	→	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	今後、投資信託を購入する場合に重視したい点	→	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

## <Q8聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

**Q8** 投資信託に興味・関心を持ったきっかけや、購入したきっかけとしてあてはまるものを全てお答えください。

- 1 証券会社、銀行などの金融機関の人に勧められて
- 2 証券会社、銀行などの金融機関から送られてきたダイレクトメール（資料や案内状）を見たり、金融機関からの電話案内を聞いて
- 3 講演会やセミナーなどで、投資信託が資産形成に良いという話を聞いて
- 4 投資信託の商品広告などを見て
- 5 投資信託に関する本を読んで
- 6 新聞、雑誌などの投資信託の記事を見て
- 7 インターネットで投資信託について見たり調べたりして
- 8 家族や友人などから、投資信託が資産形成に良いという話を聞いて
- 9 少額投資非課税制度（NISA、ジュニアNISA、つみたてNISA）が始まったので
- 10 確定拠出年金で投資信託を選択したことで興味を持った
- 11 確定拠出年金で投資信託を選択して良かったので、他の口座でも購入した  
※ 確定拠出年金と同じ金融機関の他の投資用口座も含む
- 12 景気や市場（相場）の状況を見て
- 13 経済的に余裕ができたので
- 14 その他

## <Q9聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

**Q9** あなたが投資信託商品を購入する時に参考に行っている情報を全てお答えください。

- 1 販売用資料（商品内容のパンフレット）
- 2 目論見書（投資信託説明書）・運用報告書
- 3 投資信託を販売している会社（証券会社、銀行など）のホームページ
- 4 投資信託を運用している会社（アセットマネジメント）のホームページ
- 5 新聞
- 6 投資信託の評価機関（モーニングスターなど）
- 7 投資に関する情報サイト（Yahoo!ファイナンスなど）
- 8 その他のインターネットの情報サイト（ファイナンシャルプランナーや個人投資家のブログなど）
- 9 雑誌
- 10 投資信託や資産運用に関する本
- 11 テレビ番組
- 12 投資や資産形成に関するセミナーなど
- 13 金融機関（証券会社、銀行など）の担当者的話
- 14 親族や知人、友人の話
- 15 その他
- 16 特にない <ex>

# 添付資料：調査票

**Q10** 次にあげる投資信託の特徴の中で、あなたが知っているものを全てお答えください。

- 1 MRFは投資信託商品である
- 2 国内の投資信託と海外の投資信託がある
- 3 価格の変動があり、その他に外国に投資するものには為替リスクがある
- 4 リスクとリターンは相反する関係にある
- 5 元本の保証はない
- 6 銀行など、証券会社以外の金融機関でも購入できる
- 7 投資信託は、信託銀行で分別管理されている（※分別管理とは、信託銀行が、自行と顧客の資産を分けて保管・管理することです）
- 8 投資信託は、運用会社が運用している
- 9 販売手数料とは別に運用管理費用（信託報酬）がかかる
- 10 投資信託の評価を行う会社がある
- 11 基準価額は新聞や投資信託協会のホームページでも見ることができる
- 12 NISA（少額投資非課税制度）やDC（確定拠出年金）で投資信託が購入できる
- 13 この中で知っているものはない <ex>

<Q11聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

**Q11** 次にあげる投資信託の「分配金」の特徴について、知っているものを全てお答えください。

- 1 一般的に分配金額は、預金の利率のようにあらかじめ決まっているものではなく、運用成績によって変動する
- 2 分配金は投資信託の決算ごとに支払われる
- 3 投資信託の運用成績が良くないときには、分配金額が下がったり、支払われない場合がある
- 4 分配金として元本の一部が払い戻されることもある
- 5 分配金が支払われた額だけ、基準価額（投資信託の値段）が下がる
- 6 この中で知っているものはない <ex>

## <Q12聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じた購入も含めて、お答えください。

**Q12** 投資信託を売却したり、あるいは償還によって得たお金は、何に使いましたか。あてはまるものを全てお答えください。

- 1 すぐに株式、債券など他の金融商品を購入した
- 2 すぐに他の投資信託を購入した
- 3 次に金融商品を購入する機会を伺う為（待つ為）、預貯金・MRFなどにまわした
- 4 生活資金として引き出した
- 5 まとまった支出にあてた ※生活資金にあてた場合を除く
- 6 その他
- 7 売却したことはない、償還によってお金を得たことはない <ex>

## <Q13聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

**Q13** あなたは、他の金融商品と比較した場合、どのような面で投資信託が優れていると考えますか。あてはまるものを全てお答えください。

また、そのうち特に魅力を感じている点を1つあげてください。

※ 「他の金融商品」とは、投資信託を除いた株式、債券、FXなどを指します。**預貯金や不動産は含みません。**

	1 少額でも分散投資ができる	2 少額でも投資の面白味がある	3 専門知識や時間がなくても投資ができる（専門家に銘柄選定や運用をお任せできる）	4 種類が豊富で目的に応じたものが選べる	5 比較的高い利回りが期待できる	6 積立投資ができる	7 分配金が自動的に再投資される商品がある	8 定期的に分給金が受け取れる	9 購入後の運用に関する情報が多い（運用報告書などが充実している）	10 購入手続きが簡単である	11 海外投資が手軽にできる	12 手数料が比較的安い	13 その他 <input style="width: 100px;" type="text"/>	14 わからない・特にない <ex>
1 他の金融商品と比べて投資信託が優れている点 (回答はいくつでも)	→	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 その中で特に魅力を感じている点 (回答は1つ)	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

## <Q14聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

Q14

では、他の金融商品と比較した場合、投資信託で不満を感じるのはどのような点ですか。あてはまるものを全てお答えください。そのうち特に不満を感じている点を1つあげてください。

1 仕組みや運用手法がわかりにくい

2 専門知識がないと商品を選びにくい

3 リターン（収益）が低い

4 株式に比べて面白さに欠ける

5 公社債に比べてリスクが高い

6 購入後の運用に関する情報が少ない

7 手続きがわずらわしい

8 手数料が比較的高い

9 種類が多く選択に迷う

10 クロースド期間（換金・解約できない期間）がある

11 近くに取り扱っている証券会社・銀行などの店舗が少ない

12 元本保証がない

13 その他

14 わからない・特にない <ex>

1 他の金融商品と比べて投資信託に不満を感じる点  
(回答はいくつでも)

→














2 その中で特に不満を感じている点  
(回答は1つ)

→














Q15

投資信託は、商品の設定・運用を行う運用会社から委託を受けて、証券会社や銀行などが販売を行っています。投資信託の運用会社について、あなたのお考えに近いものをいくつかもお答えください。

※ 運用会社が直接販売を行っている場合もあります。

※ 今までに投資信託を購入したことが無い方は、想定でお答えください。

- 1 販売会社の系列の運用会社を選びたい
- 2 販売会社の系列とは別の運用会社（独立系）を選びたい
- 3 外資系の運用会社を選びたい
- 4 運用会社よりも商品内容（投資信託）を重視したい
- 5 高い運用成績を上げていればどこでも良い
- 6 わからない・特にない <ex>

**Q16** 投資信託を購入する場合、あなたは運用会社のどのような点を重視しますか。

※ 今までに投資信託を購入したことが無い方は、想定でお答えください。

- 1 知名度
- 2 資本力
- 3 グループ力
- 4 運用実績
- 5 運用体制
- 6 商品開発力
- 7 情報提供力（ホームページや資料が充実している）
- 8 アフターサービス
- 9 その他
- 10 わからない・特にない <ex>

<Q17聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

**Q17** 現在あなたは、投資信託の積立投資を利用していますか。

- 1 利用している
- 2 利用していない

**Q18** 投資信託の積立投資プランについて、知っている内容はどのようなことですか。

- 1 少額から利用できること
- 2 自動引き落としが利用でき、そのつど申し込む必要がないこと
- 3 ドル・コスト平均法の効果が得られること
- 4 長い時間をかけて資産運用したい人に向いていること
- 5 その他に知っている内容
- 6 積立投資プランがあることを知らない <ex>

**Q19** 積立投資の効果としてドル・コスト平均法がありますが、どのような内容か知っていますか。

- 1 投資に伴うリスクを軽減する方法の一つであること
- 2 一定金額で同一の商品を買い付けていく方法であること
- 3 基準価額が高い時には購入口数が少なく、低い時には多くなり、結果として平均買付金額が引き下がること
- 4 リスクを軽減するための「時間の分散」が図れること
- 5 財形貯蓄や確定拠出年金で活用できること
- 6 その他に知っている内容
- 7 ドル・コスト平均法の内容は知らないが、名前は聞いたことがある <ex>
- 8 ドル・コスト平均法があることを知らない  
<ex>



# 添付資料：調査票

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

**Q20** 現在あなたは、毎月分配型の投資信託(1ヶ月毎に決算を行い、収益などの一部を分配金として毎月分配する運用方針のもの)を保有していますか。

- 1 保有している
- 2 保有していない
- 3 わからない・答えたくない

**Q21** あなたは、毎月分配型の投資信託(1ヶ月毎に決算を行い、収益などの一部を分配金として毎月分配する運用方針のもの)に魅力を感じますか。

- 1 魅力を感じる
- 2 やや魅力を感じる
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり魅力を感じない
- 5 魅力を感じない

<Q22聴取対象：毎月分配型投資信託に魅力を感じる層(Q21=1~2)>

**Q22** 毎月分配型の投資信託に魅力を感じる理由はなんですか。

- 1 毎月利益を確定したいので
- 2 分配金を受け取ることで安心できるので
- 3 元本の一部払戻しの分配金であっても、年金収入を補完する上で活用できると思うので
- 4 毎月分配型投資信託の他に魅力的な商品がなかった
- 5 その他

<Q23聴取対象：毎月分配型投資信託に魅力を感じていない層(Q21=3~5)>

**Q23** 毎月分配型の投資信託に魅力を感じない理由はなんですか。

- 1 分配金は必要ではないので
- 2 長期投資に合わないので
- 3 複利効果が得られないので
- 4 分配金額が変動する場合があるので
- 5 分配金が少ないので
- 6 分配金は元本の一部が払い戻される場合があるので
- 7 分配金の額だけ基準価額が下がるので
- 8 その他

## <Q24聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

**Q24** あなたは、2014年12月から始まった、トータルリターン通知制度を知っていますか。

※ トータルリターンとは、現在の評価額に今まで受け取った分配金を合わせた金額から、購入金額を差し引いた収支のことです。個別商品ごとに算出し通知されます。

1 知っている

2 知らない

**Q25** 次にあげる投資信託の手数料に関する項目の中で、あなたが知っているものを全てお答えください。

1 購入する際に支払う手数料は、証券会社や銀行などの販売会社に支払う費用である

2 同じ投資信託でも販売会社によって購入時手数料が異なる場合がある

3 投資信託を保有している期間中は運用管理費用（信託報酬）がかかる

4 運用管理費用は投資信託財産から支払われている

5 運用管理費用は投資信託の運用を行う運用会社、分配金の支払い業務や交付運用報告書等を発送する販売会社、資産の保管・管理を行う受託銀行の三者に支払われている

6 運用管理費用の料率や額は、交付目論見書や交付運用報告書に記載されている

7 投資信託を購入または解約の際に、信託財産留保額が徴収されることがある

8 信託財産留保額は販売会社や運用会社が受け取るのではなく、信託財産に留保される

9 色々な手数料があり、内容がよくわからない／この中で知っているものはない <ex>

## <Q26聴取対象：投資信託保有未経験者(Q2=3,Q1=2)>

**Q26** あなたが投資信託を購入したことがない理由は何ですか。あてはまるものを全てお答えください。

1 投資信託の存在を知らなかった

2 投資の知識がない

3 投資信託の仕組みがよくわからない

4 元本保証がない

5 損をしそうで怖い

6 まとまった資金がない

7 手数料など費用が高い

8 商品の種類が多く自分では選択できない

9 自分に合った投資信託を検討する時間的な余裕がない

10 購入するのに手間がかかる

11 投資信託を買うよりも自分で株などを運用した方がいいから

12 なんとなく機会がなかった

13 そもそも興味がない

14 その他

## <Q27聴取対象：投資信託保有未経験者 (Q2=3,Q1=2)>

**Q27** あなたが、投資信託の購入を検討するきっかけとなりそうな項目を、全てお答えください。

- 1 身近な人（家族・友人など）に勧められたら
- 2 金融機関の窓口などで、専門の知識を持つ人に教えてもらえたら
- 3 初心者向けセミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえる機会があったら
- 4 金融や投資を勉強して理解できたら
- 5 貯蓄が一定額に達したら
- 6 手取り収入が増えたら
- 7 退職金・相続などでの臨時収入があったら
- 8 低リスクの投資信託商品が充実してきたら
- 9 手数料の低い投資信託商品が充実してきたら
- 10 経済が上向きになり、値上がり期待できる様になったら
- 11 税制上の優遇措置が、より拡充してきたら
- 12 その他

**Q28** あなたの性別をお答えください。

- 1 男性
- 2 女性

**Q29** あなたの年齢をお答えください。

1  歳

# 添付資料：調査票

**Q30** あなたの職業をお知らせください。

- 1 会社員・非営利団体職員
- 2 会社役員・経営者
- 3 派遣・契約社員
- 4 公務員
- 5 自由業（医師・弁護士など）
- 6 農林漁業
- 7 自営業（農林漁業を除く）
- 8 パート・アルバイト・フリーター
- 9 専業主婦/主夫
- 10 大学生、大学院生、専門学校生、短大生、予備校生
- 11 無職、定年退職
- 12 その他の職業

**Q31** あなたの世帯年収と、個人年収をお知らせください。

1 1 0 0 万円未満	2 1 0 0 万円未満 3 0 0 万円未満	3 3 0 0 万円未満 5 0 0 万円未満	4 5 0 0 万円未満 8 0 0 万円未満	5 8 0 0 万円未満 1 0 0 万円未満	6 1 0 0 万円未満 1 5 0 0 万円未満	7 1 5 0 0 万円以上	8 わからない・答えたくない
--------------------------	-------------------------------------------------	-------------------------------------------------	-------------------------------------------------	-------------------------------------------------	------------------------------------------------------	-------------------------------	-------------------

1 あなたの世帯年収	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 あなたの個人年収	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

**Q32** あなたの世帯で保有されている「金融資産」の概算の評価額としてあてはまるものをお選びください。

※「金融資産」…預貯金、社債や国債などの債券・株、投資信託、生命保険のうち満期金のあるもの、貸出金など。  
土地や不動産は除きます。

- 1 500万円未満
- 2 500万円～1,000万円未満
- 3 1,000万円～3,000万円未満
- 4 3,000万円～5,000万円未満
- 5 5,000万円～1億円未満
- 6 1億円以上～5億円未満
- 7 5億円以上
- 8 わからない・答えたくない